





關係ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

○過去ニ於ケル養料ハ絶對的ニ請求シ得ヘカラサルモノニ非ス苟モ養料權利者ニ於テ扶養ヲ受ケサルヘカラサルノ状態ニ在ルコトヲ義務者ニ通知シ其義務ノ履行ヲ求メタルモ義務者カ其支拂ヲ遲滯シタル場合ニハ權利者ハ其相手方ノ遲滯ニ付セラレタル以後ノ養料ヲ請求シ得ルモノトス

(參照)

養育料ノ請求ヲ爲ス者ハ必スシモ先少別居生活ヲ裁判所ニ請求セサルヘカラサルモノニ非ス又之ヲ受クヘキ至當ノ理由アルトキハ戸主ノ家ニ同居セサルモ之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

(第九百五十四條)

(參照)

既ニ私生子タルコトヲ認メシ事實ノ存スル以上ハ公式ノ手續ヲ爲ササルモ其子ヲ養育スルノ義務ヲ免ルルコト能ハス

妻妾ニ非サル婦女ノ分娩シタル子ヲ男子カ己ノ子ナリト認メタルトキハ養育料ヲ支給スル義務アリ

『第九百五十五條、第九百五十六條』

(第九百五十五條、第九百五十六條)

○當事者ノ子ニシテ配偶者及ヒ卑屬親ナキ幼者ニ對スル扶養ノ義務ハ當事者ノ婚姻中ハ各其資力ニ應シテ之ヲ分擔シ離婚後ハ家ニ在ル者先ツ

之ヲ負擔スヘキモノトス

(第九百五十九條)

『第九百五十九條』

○扶養ノ目的ハ生活ニ必要ナル需用ヲ自給スルコト能ハサル状態ニ在ル者ヲシテ其生活ノ資料ヲ得セシムルニ在ルヲ以テ此意義ニ適セサル請求ハ扶養ノ請求トシテ之ヲ爲スモ固ヨリ是認スヘキ限ニ在ラス

第五編 相續

第一章 家督相續

○民法施行以前ニ在テ所謂仲繼相續ハ實親子ノ相續ト同シク養嗣子カ家督ヲ相續シタル後死亡シ又ハ老年ニ至リ隱居スルニ及ヒテ先代ノ實子若クハ嫡孫カ養嗣子ニ繼テ其家督ヲ相續スルモノニシテ是レ則チ古來一般ノ習慣ナリトス

○民法施行前法定ノ推定家督相續人アル者カ一家維持ノ爲メ他ノ者ヲ以テ相續ヲ爲サシムヘキ必要アリトシ親族協議ノ上事由ヲ具シテ願出テタル場合ニ當該官吏カ其事由ヲ取調ヘ相當ナル推定家督相續人ナシトシテ許可ヲ與ヘタルトキハ之ニ因リテ爲シタル相續ハ慣例上復タ動カ

民法 相續 家督相續

七二五

三五	二〇	一八九	三四	九	二	五	一七三
二九	四	七三	二六	二	二八九	三七	一〇七五
三	六	六七	三七	一〇七五			
三五	六	一三三					



スヘカラサルモノトス

(參照)

刑法第百十四條同第百十五條ハ單ニ親族ノ範圍ヲ定メタルモノナレハ相續權ノ如キ民法上ニ於ケル身分ノ資格ヲ證スル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

相續ニ關シ親戚等カ協議ヲ爲スノ慣習又ハ相續届書ニ連署スヘキ法則ハ相續ニ付テノ要件ニ非ス故ニ此慣習又ハ法則ニ背戾スルモ既ニ爲シタル相續ヲ取消スニ足ルヘキ瑕疵ト爲ラス

名義上ノ相續人即チ仲繼相續人ナルモノハ嫡子ノ存在スルニ拘ハラズ便宜上之ヲ設クルヲ得ヘキコトハ我邦慣習ノ認ムル所ナリ

女戶主カ養子ヲ爲シタルトキト雖モ直ニ其養子ニ相續ヲ讓ラサルヘカラサルノ慣例ナシ

第一節 總則

『第九百六十四條』

○養子カ養父ヨリ分家シテ戶主ト爲リタル以上ハ縱令兩者間ニ於テ離縁ノ確定判決アリトスルモ前者ノ家督相續ハ之ニ因リ開始セラレタルモノト云フヲ得ス從テ之ヲ理由トシテ爲シタル訴訟受繼ノ申立ハ不適法ナリ

○家督相續ハ民法第九百六十四條ニ掲ケタル事由ノ生スルト同時ニ開始スヘキモノナレハ相續人タルヘキ者又ハ相續人ニ選定セラルヘキ者ノ適格ハ此時ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキモノトス

四二	二九	三〇	三〇	三〇	七
八五二	八	四	五	八	二七六
		六七	二二	三二	七五

(第九百六十六條)

○婚姻ニ關スル民法第七百五十四條第二項ノ規定ハ之ヲ縁組ノ場合ニ準用シ戶主カ隱居ヲ爲サシテ他家ニ入ルヘキ養子縁組ヲ爲シタルトキハ其縁組ノ日ニ於テ隱居ヲ爲シタルモノト看做シ之ニ因リテ戶主權ヲ喪失セルモノト解スルヲ相當トス從テ如上ノ場合ニハ同法第九百六十四條第一號ニ依リ家督相續開始スルモノトス

○失踪ノ宣告アリタル場合ニ於テハ民法第三十條第一項ノ期間滿了ノ時ニ遡及シテ失踪者ノ相續開始シ之ト同時ニ相續人ハ相續財產ヲ取得シタルモノト看做スヘキモノナリ

○入夫婚姻ニ因ル家督相續ハ入夫婚姻カ效力ヲ生スルト同時ニ開始シ反對ノ意思表示ナキ限ハ其開始ニ因リ當然入夫ハ戶主ト爲リ女戶主ハ戶主權ヲ喪失スルモノニシテ縱令戶籍上ノ記載ニ於テ女戶主カ依然戶主トシテ存シ入夫ハ入夫トシテ記載セラレ又他人事件ニ付キ入夫及ヒ女戶主ノ名稱ヲ以テ爲シタル戶籍上ノ届出アリタリトスルモ入夫ノ戶主ト爲リタル事實ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス

『第九百六十六條』

○請求權ノ有無ハ起訴時ノ法則ニ依リテ定ムヘキモノナルカ故ニ民法施行以前ニ於テ未成年者ノ爲メニ起訴シタル親族ノ請求權ハ其訴訟ノ進

六	五	五	五	六	七
二〇八	一一三	四	二六	二〇	七五







於ケル家督相續人ノ地位ヲ回復スルト同時ニ僭稱相續人カ相續財産ニ

五

二六七

關シテ爲シタル處分ハ當然無効ニ歸スヘキモノトス

五

二六七

○正當相續人カ僭稱相續人ヨリ相續財産ニ付キ權利ヲ取得シタル第三者

五

二六七

ニ對シテ其財産ノ回復ヲ要ムルニ當テハ回復ノ請求權ヲ主張スヘキモ

五

二六七

ノニ非スシテ自己カ相續財産ヲ取得シタル事實ニ基キ僭稱相續人ノ爲

五

二六七

シタル處分ノ無効ヲ主張スレハ足ルモノトス

五

二六七

○他人ノ爲シタル家督相續ノ無効ヲ主張シテ其相續ヲ排除スルニハ必ス

五

二六七

ヤ自己ニ家督相續權アルコトヲ主張シ家督相續回復ノ訴ヲ爲スコトヲ

五

二六七

要スルモノニシテ其請求權ハ家督相續人ニ專屬シ縱令親族ナリト雖モ

七

一〇三

家督相續人ニ非サル者ハ之ヲ有セサルモノトス

七

一〇三

(同主旨)

三

一六六

自己ニ家督相續權アルコトヲ主張シ他人ノ不法相續ヲ排除セントスルニハ必スヤ家督相續回

三

一六六

復ノ訴ニ依ルヘキモノニシテ之ヲ請求スル權利ハ家督相續人ニ專屬スルモノトス

三

一六六

○家督相續ニ因リテ戸主權ヲ承繼シタル場合ニ於テ家族タル親族カ自ラ

四

一〇三

家督相續人タルコトヲ主張スルニ非スシテ他ノ家族タル親族ニ家督相

四

一〇三

續權アルコトヲ主張シ他人ノ爲シタル家督相續ノ無効ヲ争ヒ以テ戸主

七

一〇三

權ノ存在ヲ否定セントスル請求權ハ家督相續人ニ非サル家族ハ之ヲ有

七

一〇三

セサルモノトス

七

一〇三

○相續回復ノ請求權ハ家督相續ト遺產相續トヲ問ハス相續權ヲ侵害セラ

五

一〇三

レタル相續人ノ一身ニ專屬スルモノナレハ相續權ヲ侵害セラレタル相

五

一〇三

續人カ相續回復ノ請求權ヲ行使セスシテ死亡シタルトキハ其請求權ハ

五

一〇三

當然消滅スルモノニシテ其相續人ノ相續人ニ於テ之ヲ承繼スヘキモノ

五

一〇三

ニ非ス

七

六五三

○如上ノ場合ニ於テ相續人ノ相續人ハ自己ノ相續權ヲ侵害セラレタルコ

七

六五三

トヲ理由トシテ相續ノ回復ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ前者ノ相續

七

六五三

回復請求權ヲ承繼シタルコトヲ理由トシテ其請求權ヲ行使スルコトヲ

七

六五三

得サルモノトス

七

六五三

○隱居ニ因ル家督相續ノ回復請求ノ當否ヲ判定スルニハ之ト不可分の關

七

六五三

係ヲ有スル隱居ノ效力如何ヲ判斷シ以テ相續開始ノ事實ノ既ニ到來シ

七

六五三

タルヤ否ヲ定メサルヘカラス

七

六五三

○家督相續回復ノ請求權ハ正當ナル家督相續人カ僭稱相續人ニ對シ自己

七

六五三

ノ相續人タルコトヲ主張シテ侵害セラレタル相續人タルノ地位ノ回復

七

六五三

ヲ求ムル權利ナレハ實體上家督相續人トシテ被相續人ノ有シタル戸主

七

六五三

權其他ノ權利義務ヲ包括的ニ承繼セル者ニ非サレハ此請求權ヲ有セサ

七

六五三

ルモノトス

七

六五三



○一旦實體上家督相続人タル地位ヲ有シタル者ト雖モ其後ニ至リ之ヲ喪失シタルトキハ家督相続回復請求權ヲ有セサルモノトス

七

二四五二

○家督相続人タル地位ヲ有スル者カ婚姻ニ因リ他家ニ入りタルトキハ縱令隱居ノ届出ヲ爲ササルモ法律上隱居ヲ爲シタルモノト看做サルルヲ以テ家督相続人タル地位ヲ失フモノトス

七

二四五二

○如上婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ其後ニ至リ離婚シタルトキハ民法第七百三十九條ニ依リ實家ニ復籍スト雖モ既ニ爲シタル隱居ノ效力ヲ取消スニ由ナキヲ以テ家督相続人タル地位ヲ回復スルコトヲ得ス從テ家督相続回復ノ請求權ヲ有セサルモノトス

七

二四五二

第二節 家督相続人

○從來家督相続人タルヘキ者幼少ナル場合ニハ一家維持ノ必要上ヨリシテ親族協議ノ上相當ノ丁年者ヲ選ミ其筋ノ許可ヲ得テ家督相続人タラシムルハ士族平民ノ間ニ行ハレタリシ慣習ニシテ此場合ニハ相續ハ被相続人ノ死亡ト同時ニ開始スルモ其相續人ハ親族協議後マテ確定セス隨テ幼者ハ其遺産ノ所有權ヲ取得シ能ハサリシモノト看做ササルヘカラス

三五

六

一五〇

○父カ離縁ニ因リ子ノ懐胎後出生前母ト共ニ養家ヲ去リタル場合ニ在テ

ハ子ハ懐胎當時ノ養家ニ入ルヘキモノニ非スシテ出生ノ時ニ於ケル父ノ家ニ入ルヘキモノトス故ニ爾後養家ノ家督相続開始スルモ子ハ法定ノ推定家督相続人トシテ相續又ハ代承相續ヲ爲スノ權ナシ

四〇

一〇一六

○明治ノ初年ニ於テハ法定ノ家督相続人カ被相続人死亡ノ當時幼少ナル爲メ其母ノ入夫ヲシテ仲繼相續ヲ爲サシムル場合ハ華士族ノ外其筋ノ許可ヲ要セサリシモノトス

四三

六三九

○推定家督相続人タル資格ノ得喪ハ法律ノ定ムル所ニシテ契約ヲ以テ之ヲ變更スルヲ許ササレハ其變更ヲ内容トシタル約款ハ無効タルヲ免レスト雖モ之カ爲メニ養子縁組其モノヲ無効ト爲スヲ得ス

四五

五九七

○民法施行以前ニ於ケル仲繼相續ナルモノハ仲繼相續人カ家督ヲ相續シタル後死亡シ又ハ隱居スルニ及ヒテ先代ノ實子若クハ嫡孫カ其家督ヲ相續スヘキ慣習ナリシト雖モ其仲繼相續ニ繼ク家督相續カ民法施行以後ニ開始シタルトキハ其相續順位ハ民法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ムヘク前示ノ慣習ニ依ルヘキモノニ非ス

四

五七〇

(同義)

民法施行前ニ於テ所謂仲繼相續ヲ爲シタル養嗣子カ其施行後ニ死亡又ハ隱居シテ家督相續開始シタル場合ニハ原則トシテ民法ノ規定ニ依リ相續ノ順位ヲ定ムヘキモノトス

三

一一三九



○推定家督相續人カ失踪宣告ニヨリ死亡者ト看做サルルカ如キ事由アラハ次順位者ニ於テ當然被相續人ノ遺産ヲ繼承シ之カ所有權ヲ取得スルニ至ルヘキモノナレハ此地位ニ在ル者カ將來家督相續ニヨリ財産ノ所有權ヲ相續スルコトヲ條件トシテ或者ノ爲メ其權利ヲ拋棄スルハ毫モ妨ナキモノトス

○民法施行前ニ行ハレタル所謂仲繼相續ハ法定ノ推定家督相續人以外ノ者カ先代ノ嗣子トシテ家督ヲ相續シタル後死亡又ハ隱居シタル場合ニ於テ先代ノ嫡子若クハ嫡孫カ之ニ繼テ其家督ヲ相續スルニ在リテ明治九年六月太政官達第五十八號ニ依ル當該官廳ノ許可ハ右仲繼相續ノ出願ニ對スルモノトス

○如上當該官廳ノ許可ハ當然先代ノ嫡子若クハ嫡孫ノ法定ノ推定家督相續人タルコトノ廢除ヲ包含スルモノニ非スシテ民法施行前ニ在リテモ嫡子若クハ嫡孫ヲ廢除スルニハ特ニ相當ノ事由ヲ具シテ出願ノ上當該官廳カ之ヲ許可スルニ因リ其效力ヲ生スルモノトス

○民法施行前ニ在リテ戸主甲カ四男タル乙ヲ仲繼相續人ト定メ嫡孫タル丙ヲ乙ノ養嗣子ト定ムルコトヲ出願シ當該官廳ヨリ許可セラレ戶籍上乙ヲ甲ノ嗣子丙ヲ乙ノ養嗣子ト記載シアル場合ニ於テハ乙丙ハ當該官

五

一六〇五

七

五八五

七

五八五

第九百六十八條

○應ノ許可ト共ニ各嗣子又ハ養嗣子ノ身分ヲ獲得シ民法ノ施行ニ因リ其效力ヲ失フモノニ非サレハ甲ノ隱居ニ因ル家督相續カ民法施行後ニ至リテ開始シタルモ之ヲ相續スヘキ者ハ乙ニシテ丙ハ乙ニ繼クニ非サレハ相續權ヲ有セサルモノトス

○家督相續ハ民法第九百六十四條ニ掲ケタル事由ノ生スルト同時ニ開始スヘキモノナレハ相續人タルヘキ者又ハ相續人ニ選定セラレヘキ者ノ適格ハ此時ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキモノトス

第九百六十八條

○民法實施前ニ於テ胎兒ハ相續ニ關シテハ既ニ生レタルモノト見做ストノ法文ナキハ勿論其慣習モ亦存在セルコトナシ

○民法第九百六十八條ハ家督相續開始ノ當時胎兒タルヘキ者ニ限リ適用ヲ受クヘキモノニシテ既ニ出生シ居リタル者ニ對シテハ適用ナキモノトス

○胎兒ハ出生ニ依リ始メテ相續開始ノ時ニ遡リ相續權ノ主體ト爲ルモノニシテ開始前ニ於テ人格ヲ享有スルモノニ非サレハ父ハ其懷胎中ト雖モ任意ニ他人ヲ養子ト爲スコトヲ得ヘク從テ養子カ後ニ生ルヘキ胎兒ニ先チ相續スルコトアルモ之ヲ以テ民法第九百六十八條ノ解釋ヲ否定

三

一〇三

七

五八五

七

七三五

三元

一〇七

六

六三九

六

八三一



第九百六十九條

○法定ノ推定家督相續人ノ相續權ハ民法第九百六十九條第九百七十五條等ノ規定ニ於ケル場合ノ外ハ失却スヘキモノニ非ス又同第七百四十四條第二十條等ノ規定ニ於ケルカ如ク自己モ亦之ヲ辭シ若クハ拋棄スルコトヲ得サルモノトス

六 八三  
三五 九 一六

○民法第九百六十九條ノ規定ハ其各號ニ掲ケタル原因ノ一アル者ハ當然家督相續人タルノ資格ヲ缺クモノトシ其原因タル事實發生ノ時ヨリ之ヲ缺格者トシテ相續ヨリ除斥スルノ法意ナリトス

三 一〇九

○故意ニ被相續人ヲ死ニ致シタル者カ其犯罪ニ因リ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其處刑前既ニ家督相續ヲ爲シタル事實アリトスルモ該相續ハ當初ヨリ相續人タル資格ナキ者ノ爲シタルモノニ屬シ全然無効ナリトス

三 一〇九

○民法中相續ノ缺格ニ付キ特ニ裁判上ノ宣言ヲ要スヘキ別段ノ規定存セサレハ苟モ其缺格ノ原因アルニ於テハ裁判上ノ宣言ヲ竣タスシテ其原因ノ生シタル時ヨリ當然缺格ノ效力ヲ生スルモノトス

三 一〇九

○民法中相續缺格ノ第三者ニ對スル效力ヲ制限シタル規定ナケレハ第二

三 一〇九

第九百七十條

者ニ對シテモ該缺格ノ原因生シタル時ヨリ當然缺格ノ效力ヲ及ホスモノニシテ其意思ハ善惡若クハ過失ノ有無ヲ問ハサルモノトス

三 一〇九

○民法施行前ニ於テ養親カ相續權ヲ付與セサル意思ヲ以テ爲シタル養子縁組ト雖モ其養子ハ民法施行後ニ於テハ同法ノ規定ニ從ヒ相續權ヲ有スルコトヲ得ヘシ

三 六九五

○民法實施以前ニ在リテハ先代死亡後親族協議ノ上將來幼年ノ女戸主ト結婚セシムルノ目的ヲ以テ男子ヲ迎ヘタルトキハ其縁女タルヘキ女戸主ハ直ニ戸主ノ地位ヲ退キ養子代リテ其家督ヲ相續ヘク而シテ一旦相續ヲ爲シ戸主ノ地位ヲ取得シタル以上ハ縱令其後ニ至リ縁女ト離婚スルモ之カ爲メニ其戸主權ヲ喪失スルコトナシ

三 四一六

○民法施行前法定ノ推定家督相續人タル長女ノ婿養子ト爲リタル者離縁シテ家ヲ去リ其婚姻中懐胎シタル子女未タ出生セサルトキハ其家ノ相續權ハ戸主ノ最近卑屬ナル長女ニ復歸シテ直ニ胎兒ニ移轉スルコトナシ

三 四一六

○故ニ戸主カ再ヒ婿養子ヲ迎ヘ其長女ニ配偶セシメタルトキハ其婿養子ハ養嗣子ト爲リ家督相續人タルノ身分ヲ取得スルモノトス

三 八二九

○民法施行前實子アル者カ明治九年太政官第五十八號達ニ依リ當該行政

三 八二九



○ 應ノ許可ヲ經テ養子ヲ爲シタルトキハ其實子ハ相続權ヲ主張シ得サル

モフトス

(聯)

○ 法定ノ家督相続人タル長女ノ婿養子ト爲リタル者ハ之ト同時ニ養家ノ家督相続人タル身分ヲ取得スルコトハ古來ノ習慣ニシテ民法ノ規定モ亦之ニ異ナラズコトナシ

○ (同書)

民法實施前法定ノ推定家督相続人タル女子アル者カ婿養子ト爲シタル場合ニ於テハ其養子ハ推定家督相続人ト爲ルモノトス

○ 民法施行以前ニ於テモ家督相続ノ順位ハ同親等ノ男子間ニ在リテハ嫡

出子ヲ先ニシ其生レ乍ラ嫡出子タル者ト父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子ト

爲リタル者トノ間ニ在リテハ後者ハ其嫡出子タル身分ヲ取得セル時ニ

生レタルモノト看做シテ前者ト長幼ノ序ヲ分ツヘキコトハ一般ノ法則

トスル所ナリ

○ 民法施行前ニ於テハ長男戸主退隱シ其父逆相続ヲ爲シタルトキハ其長

男ハ被相続人カ更ニ之ヲ嗣子ト爲スカ又ハ他ニ子女ナキ場合ノ外再ヒ

相続ヲ爲スノ權利ヲ有セザリシモノナルモ如上ノ相続順位ハ民法ノ認

メサル所ナレハ右ノ退隱者モ其施行後ハ同法第九百七十條ニ從ヒ第一

下  
第百十

順位ノ相続人トシテ相続權ヲ有スルモノトス

○ 婿養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得スルモノナレハ特

別ノ規定ナキ以上ハ普通ノ養子ト同シク民法第九百七十條ニ從ヒ家督

相続人タルコトヲ得ヘキモ唯同第九百七十三條ノ規定アルカ爲メ配偶

者タルヘキ家女ニ先チ家督相続人タルヘキ法定ノ推定家督相続人アル

トキハ一般ノ原則ニ從ヘバ家督相続人タルヘキ順位ニ在ルニ拘ハラズ

○ 家督相続人タルコトヲ得サルノ差異アルニ過キササルモノトス

○ 婿養子ハ配偶者タル家女ニ先チ家督相続人タルヘキ法定ノ推定家督相

續人アラサル場合ニハ一般ノ原則ニ從ヒ女子タル配偶者ニ先チ家督相

續人ト爲ルヘキモノニシテ配偶者カ婿養子縁組前法定ノ推定家督相續

人トシテ相続權ヲ有シタルト否トヲ問ハサズモトス

○ 法定ノ推定家督相続人タル家女カ婿養子縁組ヲ爲メニ其資格ヲ失ヒ婿

養子カ家督相続權ヲ取得スルハ法定ノ相続順位ニ基キ固有ノ權利トシ

テ取得スルモノニシテ配偶者タル家女ニ代リ其有セシ相続權ヲ承繼ス

ルモノニ非ス

○ 如上ノ見解ニ基キ離縁セラレタル婿養子ト家女トノ間ニ生レタル甲ニ

相続權アリトシ更ニ婿養子ト爲リタル乙ニ相続權ナキコトヲ判斷シタ

四

四一

三

六五

二

一一

六

二七九

六

八三

六

二七九

六

二七九

六

二七九



ルハ正當ナリトス

○母ノ懐胎中父カ養子ヲ貰受ケタル場合ニ於テ胎兒出生後戸主タル父カ死亡シタルトキハ其兒ハ民法第九百七十條第一項第五號ノ一般相續順位ニ關スル法則ニ依リ養子ヲ排シテ家督相續ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○胎兒ハ出生ニ依リ始メテ相續開始ノ時ニ遡リ相續權ノ主體ト爲ルモノニシテ開始前ニ於テ人格ヲ享有スルモノニ非サレハ父ハ其懐胎中ト雖モ任意ニ他人ヲ養子ト爲スコトヲ得ヘク從テ養子カ後ニ生ルヘキ胎兒ニ先チ相續スルコトアルモノ之ヲ以テ民法第九百六十八條ノ解釋ヲ否定スヘキ資料ト爲スニ足ラス

○民法施行前ニ在リテハ養嗣子及ヒ養子竝存スル場合ニ於テ相續權ハ養子縁組ノ先後ヲ問ハス養嗣子之ヲ有シタルモノトス

(同左)

民法施行前ニ在リテハ養嗣子ト養子ト竝存スル場合ニ於テ養親ノ相續權ハ養子縁組ノ先後ヲ問ハスシテ養嗣子之ヲ有シタルモノトス

(參照)

本邦ノ習慣ニ於テ直系ノ卑屬親ヲ相續セシムルハ戸主死亡シ相續者未定ノ場合ニ於テコソ適用スヘキモノナレ先戸主死亡ノ際其實子ヲ措キテ傍系親ナル妹ヲシテ相續セシメタルコト既

ニ三十餘年ノ星霜ヲ經過シタル後ニ在テハ其習慣ヲ適用スルヲ得ヌ  
戸主死亡セシトキ其嗣子相續チ爲サスシテ傍系親其跡ヲ相續シタル後ニ出生シタル嗣子ノ實子ハ相續上何等ノ權利ヲモ繼承スルコト能ハス

私生子モ相續權ヲ有スル場合ナキニ非スト雖モ既ニ他姓ヲ名乘リ戸籍上某ノ庶子ト編入セラレタル以上ハ某家現戸主ニ代リテ其權利ヲ取得スルヲ得ヌ  
相續ハ男子ヲ先ニシテ女子ヲ後ニスルハ古來ノ慣例ナレトモ當然相續スヘキ卑屬親ナキ時ハ親族協議ノ上其家ニ適當スル女子ヲ選定スルモ亦慣例ノ許ス所ナリ  
甲者籍ヲ其生家ニ有シ且其家ヲ相續スヘキ權利アリト決スル上ハ縱令一時離縁ト爲リシ父ノ實家ニ養育セララルルモ爲メニ相續權ヲ失却スヘキモノニ非サレハ原裁判方此等ノ陳述ニ對シ說明ヲ與ヘサルモ不當ニ非ス

養嗣子ハ所謂法定ノ家督相續人ナリト雖モ養子ニ至リテハ其嗣子タルト否トハ事實ノ如何ニ由ルヘクシテ法律上必スシモ嗣子ト推定スヘキモノニ非ス隨テ二名以上アル場合ニ單ニ先位ノ養子タリトテ必ス家督相續ノ權アリト論斷スルヲ得ザルナリ

相續權カ總領ノ男子ニ屬スルコトハ我國古來ノ不文法ナリト雖モ總領ノ男子カ一旦戸主タリシモ一家整理ノ不能ナルカ爲メ終身退隱セシ以上ハ長子タルノ故ヲ以テ他ニ相續スヘキ者アルニ拘ハラズ當然再相續ヲ爲シ戸主ノ地位ニ復歸スルカ如キハ未タ我國ノ慣習ニ於テ認ムル所ニ非サルナリ  
養子タル身分ヲ得テ始メテ取得スヘキ相續權ノ如キハ養子縁組ノ效力生セサルトキハ之ヲ取得スルヲ得ヌ  
一家ニ於テ先代ノ長女ト養子タル男子存在シ互ニ相續權ヲ爭フトキハ養子ニ於テ長女ヲ措キ

二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七

六 二七九

六 八三二

六 八三二

七 二二

三六 六九五

三六 六九五







生アリタル以上ハ民法第九百七十三條ヲ適用シ右男子ヲ以テ推定家督相續人ナリト認メタルハ相當ナリトス

四

五〇一

○婿養子ハ縁組ノ目ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得スルモノナレハ特別ノ規定ナキ以上ハ普通ノ養子ト同シク民法第九百七十條ニ從ヒ家督相續人タルコトヲ得ヘキモ唯同第九百七十三條ノ規定アルカ爲メ配偶者タルヘキ家女ニ先チ家督相續人タルヘキ法定ノ推定家督相續人アルトキハ一般ノ原則ニ從ヘハ家督相續人タルヘキ順位ニ在ルニ拘ハラズ家督相續人タルコトヲ得サルノ差異アルニ過キササルモノトス

六

二七九

○婿養子ハ配偶者タル家女ニ先チ家督相續人タルヘキ法定ノ推定家督相續人アラサル場合ニハ一般ノ原則ニ從ヒ女子タル配偶者ニ先チ家督相續人ト爲ルヘキモノニシテ配偶者カ婿養子縁組前法定ノ推定家督相續人トシテ相續權ヲ有シタルト否トヲ問ハサルモノトス

六

二七九

第九百七十四條

第九百七十四條

○法定ノ家督相續人カ家督相續開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ法定ノ順序ニ從ヒ其者ト同順位ニテ家督相續人ト爲ルコトハ嫡孫承祖ト稱シ古來ヨリ行ハレタル習慣ニシテ現行民法モ此習慣ヲ認メ其第九百七十四條ニ於テ

明ニ之ヲ規定セリ

三五

一四九

○民法施行前ニ於テ推定家督相續人カ子女ヲ遺シテ死亡シタルトキ其子女ハ嫡孫承祖ノ慣習法ニ從ヒ直ニ祖父母ノ推定家督相續人タル資格ヲ有セシカ故ニ嫡孫ヲ排シ他人ヲ以テ相續セシムルニハ廢嫡ノ手續ヲ要セシト雖モ祖母カ子ノ死跡相續ヲ爲シタルトキハ所謂嫡孫承祖ノ法則ヲ適用スヘキ場合ニ非サレハ縱令嫡孫アルモ養子ヲシテ相續セシムルヲ得ルモヲトス

三五

一四九

○嫡子相續又ハ嫡孫承祖ノ相續ハ我邦古來普通ノ慣例ナリト雖モ明治五年戶籍法改正施行以前ニ在リテハ士族以上ハ格別平民ニ至テハ一家維持上其他ノ事由ニ因リ嫡子又ハ嫡孫ヲ差措キ他ノ卑屬親等ヲ以テ家督相續人ト爲シ又ハ家督相續ヲ爲サシムルカ如キハ一ニ被相續人ノ自由ニ在リテ親族ノ協議若クハ官廳ノ許可ヲ必要トスルカ如キ法度又ハ慣行アルコトナシ

三六

三

○明治以前ノ制度ニ於テモ嫡孫承祖ノ法則存在セザリシニ非スト雖モ戸主ニ數人ノ子アリテ長子カ相當ノ手續ヲ經テ廢嫡セラレ二三男カ家督相續人ト爲リタル場合ニ於テハ其廢嫡セラレタル長子ノ子カ當然新戸主ノ家督相續人ト爲ルカ如キ慣習法存在シタルコトナシ

三六

二七二

○明治以前ノ制度ニ於テモ嫡孫承祖ノ法則存在セザリシニ非スト雖モ戸主ニ數人ノ子アリテ長子カ相當ノ手續ヲ經テ廢嫡セラレ二三男カ家督相續人ト爲リタル場合ニ於テハ其廢嫡セラレタル長子ノ子カ當然新戸主ノ家督相續人ト爲ルカ如キ慣習法存在シタルコトナシ

三六

四六八







○民法施行前ニ於テ被相續人タルヘキ者カ推定家督相續人タル嫡子又ハ嫡孫ノ廢嫡ヲ出願シタル場合ニ當該官廳カ之ヲ聞届ケ爾後該出願者ノ相續人ト爲リタル者アルトキハ被廢嫡者ハ其相續人ニ對シテ家督相續回復ノ請求ヲ爲シ得サルモノトス

○民法施行前ニ於テ嫡子及ヒ嫡孫ノ廢嫡ヲ爲ス正當ノ事由アリトスル場合ニハ被相續人タルヘキ者ハ同時ニ其廢嫡ヲ出願シ得タルモノトス

○分家ト廢嫡トハ法律上其關係ヲ異ニスト雖モ民法實施前ニ於テハ廢嫡ノ事由ヲ限定シタル法則ナキノミナラス嫡子ヲ廢嫡スル事由ノ存スル場合ニ嫡子カ嫡孫ト共ニ分家セント欲スル情願ヲ以テ嫡孫ヲ嫡子ト共ニ廢嫡スル正當ノ事由ト認ムルモ敢テ當時ノ法則ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

○民法實施以前ニ於テ當該官吏カ當時ノ法規ニ遵ヒ審査ヲ遂ケ相當ト認メタル上廢嫡願ヲ許可シタルトキハ其廢嫡ハ確定ノ效力ヲ生シ法規ノ許ス場合ニ在ラサレハ後日ニ至リテ之ヲ變改シ得サルモノトス

○民法施行前ト雖モ法定ノ推定家督相續人タル嫡子又ハ嫡孫カ一タヒ廢除セラレタル以上ハ更ニ其取消アルニ非サレハ同一被相續人ノ推定家督相續人ト爲ルコトヲ得ス

三九	三七	三六	三五	三六	三六
五八三	五三三	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八

○民法施行前ニ在テハ廢嫡ハ當該官廳カ其願ヲ許可シタルトキニ於テ效力ヲ生シ之ヲ戶籍ニ登記シタルト否トハ其效力ニ影響ナシ隨テ其登記カ法定ノ方式ニ違フ所アルモ爲メニ許可ヲ得タル廢嫡ヲ無効トスヘキモノニ非ス

○明治五年戶籍法施行前平民ニ在ラテハ親族ノ協議又ハ官廳ノ許可ヲ要セシテ被相續人ハ其自由ニ長男ヲ廢嫡シ他ノ者ヲシテ家督相續ヲ爲サシメ得ルノ慣習法ヲ存シタルモノトス

○家督相續人カ賭博罪ニ依リ處刑セラルル如キハ常ニ必スシモ家名ニ汚辱ヲ及ホスモノト謂フヲ得サルノミナラス其後改悛スルニ於テハ之ヲ廢除スル理由ナキモノトス

○民法施行前ニ在リテハ嫡子及ヒ嫡孫アル場合ニ其嫡孫ヲ他家ニ入籍セシムルノ必要アルトキハ被相續人タル祖父ハ嫡子ヲ差措キ其嫡孫ノ廢嫡ヲ管轄行政官廳ニ出願スルコトヲ得タリト雖モ其他ノ場合ニ於テハ嫡子ヲ差措キ獨リ嫡孫ノ廢嫡ヲ出願スルコトヲ許サザリシモノトス

○嫡孫ヲ他家ニ入籍セシムル場合ニ非サレハ行政官廳ハ其廢嫡ノ出願ヲ許可スヘキ權限絕對ニナケレハ縱令誤テ之ヲ許可スルモ其廢嫡處分ハ法律上其效力ヲ生スルモノニ非ス從テ後日相續人タル嫡孫ハ司法裁判

四四	四	三	六	七	六
四五三	二〇七	二〇七	一四七四	三九	三九



所ニ對シ相續權確認請求ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス

○嗣子ノ更改ハ古來ノ慣習上適法ノ事故ナケレハ之ヲ許サス

○戸主カ一家ノ維持上必要ヲ感シ又親戚最多數ノ贊同アルモ嗣子更改ノ適法ノ理由ト爲ラス

第九百七十七條

○民法第九百七十七條ハ相續人ヲ廢除シタル原因カ後日ニ至テ消滅シタル場合ニ限り廢除ノ取消ヲ許シタルモノトス故ニ廢除ノ原因ト爲リタルモノカ全ク虛偽ノ事實ニシテ當初ヨリ存在セザリシ場合ニ於テハ廢除ノ取消ヲ許サス

○民法施行前被相續人カ推定家督相續人ノ身體虛弱ナル故又以テ之ヲ廢嫡シ分家セシメタル場合ト雖モ爾後被廢嫡者カ廢家シテ被相續人ノ家ニ復歸シ且其身體健全ニ復シタル以上ハ民法第九百七十七條第一項ニ依リ廢嫡取消ノ請求ヲ爲スコトヲ得

○推定家督相續人タル者カ相續人廢除ノ判決ヲ受ケタル後分家シタル者ナルト又ハ引續キ被相續人ノ家族タル身分ヲ保有スル者ナルトヲ問ハス苟モ相續人廢除ノ原因止ミタルトキハ廢除ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘク廢除ノ取消ニ因リテ直ニ推定家督相續人タル舊地位ヲ當然回復

第九百七十八條

○被相續人カ家督相續人廢除請求ノ訴訟ヲ裁判所ニ提起シタル後死亡シタルトキハ之ニ依リ訴訟ハ未確定ノ狀態ニ於テ完了シタルノト爲スヲ得サルモノトス

○如上ノ場合ニ於テハ人事訴訟手續法第二條第三項ニ依リ檢事ヲ以テ其相手方トシテ訴訟ヲ續行スヘキモノニ非スシテ民法第九百七十八條ニ依リ選定シタル管理人ヲシテ訴訟ヲ繼續セシムヘキモノトス

○家督相續人廢除判決確定後被相續人死亡スルモ其相續ヲ爲ス者ナキ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ提起スルトキハ民法第九百七十八條ニ依リ裁判所ノ選任シタル管理人ヲシテ訴訟ノ相手方ト爲スヘキモノナリト雖モ相續開始シ他ノ相續人タルヘキ者カ既ニ相續ヲ爲シタル後ハ現ニ相續ニ因リ戸主ト爲リタル者ニ於テ再審ノ訴ノ當事者トシテ訴訟ヲ繼續スルコトヲ得ルモノトス

第九百七十九條

○民法實施以前推定家督相續人ナキ被相續人カ豫メ家督相續人ヲ指定シテ戸籍ニ登記シタル場合ニ於テハ其相續人ハ縱令養嗣子ノ名稱ナキモ

七	三九
二六	二
二六	三三
三六	一四四
三七	五三
四二	八九〇
四三	四三

三七	一一九七
三〇	六〇
六	一一〇五
三	一一五
六	一一〇五
六	一一〇五
六	一一〇五
六	一一〇五



第十六條

法律上養嗣子ト同一ノ取扱ヲ受ケ被相續人ノ死亡又ハ隱居ノ時ニ際シ家督ヲ相續スルノ權利ヲ有ス從テ爾後被相續人カ更ニ他人ヲ養子ト爲スモ之カ爲メニ其相續權ヲ奪ハルルコトナシ

○被相續人タル戸主カ家督相續人ヲ指定スルノ權ハ其性質上被相續人自ラ之ヲ行使スヘキモノトス故ニ被相續人カ他人ヲシテ家督相續人ヲ選定セシムル遺言ヲ爲スハ不法ナリ

○民法施行前ニ於テ養嗣子カ仲繼相續ヲ爲シタル際先代ノ實子若クハ嫡孫ヲ家督相續人ニ指定シタルトキハ該指定ナル事實ハ民法施行前ニ生シタル事項ニシテ同法ノ施行ニ因リ當然其效力ヲ失フモノニ非サレハ民法ノ相續順位ニ關スル一般ノ規定ニ依ラス其指定セラレタル相續人カ養嗣子ノ家督ヲ相續スヘキモノトス

(參照)

遺言ニ依リ相續人ノ選定ヲ他人ニ委任スルハ一般ニ無効ナリト云フヲ得ス

家督相續ノ順位ハ直系ノ卑屬親アル場合ハ格別其他ノ場合ニ於テハ被相續人カ遺言ヲ以テ相續人ヲ指定シタルトキハ其遺言ニ由ルヘキハ當然ニシテ且習慣ニ反スルモノニ非ス

遺言ヲ以テ相續人ノ選定ヲ他人ニ委任スルハ有效ナリ而シテ其受任者カ選定ヲ爲スニ付テハ他ノ親族ノ承諾ヲ要スヘキモノニ非ス又其受任者ハ之ヲ親族中ニ求ムルノ要ナシ

三七	四二	三〇	三	三〇	三〇
四二	五〇八	七	三	七	九
四二	二〇三	九	三	九	六七
四二	二〇三	九	三	九	六七
四二	二〇三	九	三	九	六七

第九百八十二條、第九百八十三條

第九百八十二條、第九百八十三條

○法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テハ被相續人ノ父母又ハ親族會ハ民法第九百八十二條規定ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相續人ヲ選定スヘク若シ其家族中ノ者ニシテ相續人ト爲ルコトヲ欲セス豫メ相續人ニ選定セララルルコトヲ辭スル者アルトキト雖モ苟モ右規定ノ順序ヲ變更シ又ハ全ク選定ヲ爲サザラントスルトキハ必ス先ツ裁判所ノ許可ヲ得サルヘカラス

○戸主ノ兄弟若クハ姉妹ハ戸主ニ直系卑屬ナキ場合ト雖モ當然其相續人タル權利ヲ有スル者ニ非スシテ其親族ノ協議ニ因リテ相續人ト爲ルヲ得ルコトハ民法施行前ニ於ケル我國一般ノ慣例ニシテ此慣例ハ當時法律トシテ行ハルヘキモノナリ

○民法第九百八十三條ニ於テ前條所定ノ相續順位ノ變更若クハ不選定ノ決議ハ裁判所ノ許可ヲ得タル後ニ之ヲ爲スヘキ旨ヲ規定セルハ單ニ普通ノ決議順序ヲ示シタルニ外ナラサレハ苟モ相續順位ノ變更若クハ不選定ノ決議ニシテ裁判所ノ許可ヲ受ケタル以上ハ其許可申請ノ手續ト

時期トニ付キ多少同條ノ規定ニ異ナル所アリトスルモ之カ爲メニ該決議ハ直ニ無効ト爲ルヘキモノニ非ス

民法 相續 家督相續 家督相續人

三六	三六	三五	三三	三〇	三〇
三六	三六	六	四	四	二七
三六	三六	六	四	四	二七
三六	三六	六	四	四	二七
三六	三六	六	四	四	二七











○先代カ隱居後ニ受ケタル裁判ノ效力ハ其相續人ニ及ハサルモノトス

(參照)

隱居者カ隱居後ニ爲シタル法律行爲ハ其家督相續人ニ對シテ效力ヲ及ボササルコトハ一般ニ認メラレタル慣習法ナリ

(第九百八十六條)

○記名公債證書若クハ不動産ノ如キハ其記名者若クハ公簿ノ所有名義者

ヲ以テ所有者ト推定スルハ普通ノ法理ナルモ此推定ハ被相續人若クハ

相續人ノ債權者又ハ該財産ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シ之ヲ爲

ルルニ過キスシテ前戸主所有ノ財産ハ相續開始ノ際其相續人ノ相續ス

ヘキモノナルヤ否ヤヲ爭フ當事者間ニ在リテハ之ヲ適用スヘキモノニ

非ス

○相續人ハ相續ノ開始ト同時ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼スルハ勿論縱

令相續開始ノ事實ヲ知ラサル場合ト雖モ被相續人カ死亡ノ時ニ於テ所

持シタル物件ノ占有ハ法律上當然之ヲ承繼スルモノトス

○株式會社設立費用ノ清算事務ハ創立委員其人ニ專屬スヘキ責任ナリト

ス從テ創立委員ノ相續人ニ對シ其清算ヲ請求スルハ失當ナリ

○登記權利者又ハ登記義務者ノ相續人ハ其權利者若クハ義務者ノ地位ニ

三 二 一〇四

三 四 一四六

三 二 四五

三 四 四五

三 元 一五四五

代リテ權利義務ヲ承繼スルモノトス從テ登記名義人ノ相續人ハ登記ノ

抹消ニ付テモ亦法律上自己ノ先人ト同一ノ義務ヲ負フモノナリ

○相續ハ被相續人ノ人格ヲ承繼シ法律上被相續人ト同一視スヘキモノナ

レハ被相續人ノ權利取得ニ關スル權原ノ瑕疵ハ相續ニ因リ當然相續人

之ヲ承繼シ被相續人カ權利ヲ取得スヘキ正當ノ權限ヲ有セサルモノニ

付テハ相續人モ亦同一ノ状態ニ於テ之ヲ承繼スルモノトス

○旅客運送契約ニ於ケル債務ノ不履行ニ因リテ生シタル損害賠償請求權

ハ被害者ノ一身ニ專屬セルモノニ非サルヲ以テ民法第九百八十六條ニ

依リ相續ニ因ル承繼ノ目的タルコトヲ得ルモノトス

○旅客運送契約ニ因ル運送人ノ債務不履行ノ結果身體ノ傷害ニ因リ精神

上ノ苦痛ヲ蒙リタル場合ニ於ケル慰藉金請求權ハ被害者ノ一身ニ專

屬セルモノナルヲ以テ相手方ニ對シ請求ノ意思ヲ表示シ其請求權カ金

錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ト爲ルニ非サレハ相續人ハ相續ニ因リテ之

ヲ承繼スルコトヲ得ス

○不法行爲ニ因リ身體ヲ害セラレタル者カ財産以外ノ損害ヲ填補セシムル爲メ加害者ニ對シ慰

藉料ヲ請求スル意思ヲ表示シタルトキハ其請求權ハ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ニ外ナラス

シテ之ニ因リテ得ル金額ハ相續ノ場合ニハ相續人ノ取得スヘキモノナルハ被害者ノ一身ニ專

民法 相続 家督相続 家督相続ノ效力

四 二 八七

元 七九

二 九二〇

二 九二〇

二 九二〇

二 九二〇

三 九二〇



○民法及ヒ舊登記法施行以前ニ在リテハ隱居ニ因ル家督相続ノ場合ニ於テ前戸主ノ留保セサル公證記名ノ財産ハ必ス讓渡ノ公證ヲ受クヘキモノナレトモ留保シタル財産ニ付テハ新ニ公證ヲ受クルコトヲ要セサリシモノトス從テ家督相続人ハ記名財産ニシテ讓渡ノ公證ヲ經サリシモノ迄一切ノ財産ヲ承繼スルモノニ非ス

○公證ヲ經サル財産ニシテ前戸主カ留保シタルニ非サル相續財産ニ付キ實際相續人ノ承繼シタルモノナルモ唯公證ノ手續ヲ盡ササリシニ過キサルコトヲ主張センニハ其主張ヲ爲ス者ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス

(同義)

○舊登記法實施以前ニ於テハ隱居ニ因ル家督相続ノ場合ニハ相續財産ハ必ス讓渡ノ公證ヲ受クヘキモノタリ從テ相續人ハ前戸主ノ權利義務ヲ承繼スルモ公證記名ノ財産ニシテ讓渡ノ公證ヲ受ケサリシモノ迄モ一切之ヲ相續スルノ慣例ニ非ス故ニ其公證ヲ經サル財産ニシテ實際相續人ノ承繼シタルモ唯公證ノ手續ヲ盡ササリシニ過キスト主張スルトキハ其主張ヲ爲ス者ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス

○舊登記法施行以前ノ隱居ニ因ル相續ノ場合ニ相續人カ不動産ヲ承繼ニ付キ特ニ讓渡ノ公證ヲ受クヘキモノト爲シタルハ相續開始ノ外尙ホ讓渡ノ公證ヲ以テ權利取得ノ要件ト爲シタルモノニ非ス

四三	六二二
二	六二〇
二	九六二
二	九六三
三	五八八
二	九六二

○前戸主ノ留保セサル公證記名ノ財産ハ必ス讓渡ノ公證ヲ要シ否ラサル財産ハ公證ヲ要セストノ慣例ハ家督相続人カ相續開始ノ當時未成年者ナリシト否トヲ問ハス行ハレタルモノトス

○占有權ハ相續開始當時被相續人カ占有ヲ有スルトキハ相續ニ因リ相續人ニ移轉スルヲ原則トス而シテ其移轉ニハ必スシモ相續人ニ於テ物ノ所持ヲ爲スコトヲ要セス

○隱居ニ因リ相續開始シタル場合ニ於テ被相續人カ仍ホ依然占有ヲ繼續スルトキハ占有權ハ相續人ニ移轉セサルモノトス

○如上ノ權利ハ財産上ノ利益ヲ目的トシ申請者ノ一身ニ專屬スルモノニ非サレハ普通ノ財産權ト同シク相續ニ因リ相續人ニ移轉スヘキモノニシテ被相續人カ適法ナル申請ヲ爲シタル以上ハ其下戻カ偶々相續後ニ實現スルモ之ヲ以テ相續財産ニ非スト云フコトヲ得ス

(國有土地森林原野下戻法五年二三四六頁參照)

○講會員ノ全體ヨリ自己ノ名ヲ以テ引取會員トノ間ニ掛返義務ニ付キ準消費貸借ヲ爲シ其債權ノ取立ヲ爲スコトヲ委任セラレタル者カ其債權ノ取立ヲ爲スハ委任ニ基クモノナレハ其者ノ死亡ニ因リ委任ハ終了シ相續人ハ委任者タル會員全體トノ關係ニ於テハ委任事務タル債權取立

三	二
二	九六二
四	二八九
三	二八九
三	二八九
五	二四六
六	二二六



ヲ爲スノ權利ナシト雖モ其債權タルヤ債務者トノ關係ニ於テハ相続人先代一己ノ債權ナルヲ以テ相続人モ債務者トノ關係ニ於テハ相続ニ因リ承繼シタル自己ノ債權トシテ行使スルコトヲ得ルモノトス

(參照)

原院カ某者ヲ以テ相続ノ權アルモノト認定シタル以上ハ某者ハ縱令成規ノ手續(官廳ヘノ届出)ヲ經テ相続ヲ爲ササルモ其家ノ財産ニ付キ權義ノ關係ヲ有スルコト論テ疑タス相續人ハ特別ノ事情ナキ限ハ前戸主ノ有セル一切ノ權義ヲ繼承スヘキモノナレハ死亡者カ其財産ヲ他人ニ遺贈シ又ハ退隱者カ之ヲ持續シタル等ノ事蹟存セサル限ハ前戸主ノ財産ハ當然相續人ニ歸スルヲ以テ一般ノ通義トス

戸主退隱スルトキハ一切ノ權利義務ハ家名ト共ニ跡相續人ニ移轉スルヲ以テ普通ノ慣例ト爲ス

第九百八十七條

民法施行前ニ於テ墳墓ノ所有權ハ慣習法上家督相続ノ特權ニ屬シタルモノニシテ戸主カ隱居ヲ爲スニ當リ之ヲ留保スルコトヲ許サザリシモノトス

第九百八十八條

戸主カ隱居ヲ爲スニ當リ其財産ノ幾部ヲ相續人ニ移サスシテ之ヲ自己ニ留保セントスルニハ特ニ其意思表示アルコトヲ要ス

第九百八十八條

民法實施以前ニ於テ戸主カ隱居スルニ方リ其財産特ニ不動産ノ幾分ヲ相續人ニ讓與セスシテ之ヲ留保スルニハ其所有名義ヲ改メス且相續人ニ對シ留保ノ意思ヲ表示スレハ足ル而シテ其意思表示ニハ一定ノ形式アルコトナク又更ニ讓受ノ手續ヲ要セザリシモノトス

家督相続ノ開始シタル場合ニ於テ前戸主即チ隱居者又ハ女戸主カ特ニ法定ノ方式ニ依リ其財産ノ一部ヲ留保セサル限ハ一切ノ財産所有權ハ當然相續人ニ移轉スルモノトス

民法施行前ニ在リテハ隱居者ノ財産留保ニ付キ別段ノ方式ヲ必要ト爲サザリシヲ以テ隱居者カ隱居ノ當時或財産ヲ留保スル意思ヲ表示スル以上ハ其表示ノ明示タルト默示タルトヲ問ハス財産留保ノ效力ヲ生スルモノトス

(同義旨)

隱居面留保ノ意思ハ民法實施前ニ在テハ必ス之ヲ明示スルヲ要セス暗黙ニ之ヲ表示シタル事實アルトキハ意思表示トシテ十分ナリトス

民法實施以前ニ於テ隱居者カ其相續人ニ財産ノ全部ヲ讓與スルコトナク其幾分ヲ自己ノ財産トシテ留保スルニハ必スシモ明確ニ其意思ヲ表示スルヲ要セス暗黙ニ留保ノ意思ヲ表示スルヲ以テ足ル

公證記名ノ財産ニシテ相續人ニ讓渡ノ公證ヲ經サルモノハ隱居者タル

三五	三五	四	三六	三七	三	四
五	四					
六	一九	三七	二七六	一〇一		八七三

三	二	五	四	三〇	三〇	二七	六
二				一〇	五		
四		一五三	二八六	二八六	一七	四七五	二一九



○前戸主ニ於テ留保ノ意思ヲ默示シタルモノト推定スヘキハ相續財産ノ全部タルト一部タルトニ依リテ差異ヲ生スヘキモノニ非ス

○讓渡ノ公證ヲ經サル記名財産ヲ相續人ニ移轉セシメシテ隱居者ノ留保シタルモノト爲シタル慣例ハ唯リ第三者ニ對スル關係ノミナラス隱居者ト相續人間ノ關係ニ於テモ行ハレタルモノトス

○舊登記法施行後民法實施前ニ於テ戸主カ隱居ヲ爲スニ際リ特ニ財産ヲ留保セサル以上ハ家督相續ニ因リテ其財産ハ總テ相續人ニ移轉スヘキモノニシテ所有名義ノ更正ナキノ故ヲ以テ前戸主ノ留保セルモノト謂フヲ得ス

(同書)

前戸主ニ於テ特ニ財産ヲ留保セサル以上ハ家督相續ニ依リテ前戸主ノ有セシ財産ハ總テ相續人ニ歸屬スヘキモノニシテ所有名義ヲ更正セサルモ之カ爲メ前戸主ノ留保セルモノト謂フヲ得ス

○民法施行以前女戸主ノ入夫婚姻ニ因リ家督相續ノ開始スル場合ニ於テ女戸主カ相續財産ノ全部ヲ留保シタルトキト雖モ其留保ハ全部無効ニ非スシテ唯家名ノ維持ニ必要ナル限度ニ於ケル家督相續人ノ減殺請求權ニ服セシメタルニ過キササルモノトス

(同書)

民法施行前ニ在リテモ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ隱居者カ相續財産ヲ留保スルニ當リ家名ノ維持ニ必要ナル財産ヲ遺留セザルトキハ隱居者ノ留保ハ全部無効ト爲ルモノニ非スシテ家名維持ニ必要ナルヲ限度トシ家督相續人ノ減殺請求權ニ服セシメタルニ過キササルモノトス

(互對)

民法施行以前ニ在テモ隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ家督相續人ハ隱居者ノ有セシ一切ノ財産ヲ承繼スルヲ以テ通則トシ唯隱居者カ隱居料トシテ其財産ノ一部ヲ留保スルコトハ之ヲ認許シタルモ其全部ヲ留保スルカ如キハ慣例ノ許容セザル所ナリ

○隱居者カ其財産ヲ留保スルニハ確定日附アル證書ニ依ルコトヲ要スルモ其確定日附カ必スシモ隱居届出ノ日附ト同一ナルコトヲ要スルモノニ非ス

○隱居者カ有效ニ留保シタル財産ニ對シテハ相續人ニ於テ抵當權設定ノ意思ヲ表示シ債權者カ留保ノ事情ヲ知ラスシテ之ヲ承諾シタリトスルモ抵當權ハ發生セザルモノトス

(參照)

家族ト雖モ記名ノ財産ヲ所有スルコトハ法律ノ許ス所ナリ乃チ戸主カ其相續人タルヘキ者ニ家督ヲ讓リテ隱居ヲ爲スニ當リ不動産ノ全部又ハ一部ニ付キ名義ヲ改メシテ其所有ヲ留保スル

民法 相續 家督相續 家督相續ノ效力

四四	七四五
四〇	七〇五
四二	四五八
四	二〇四三
三	二〇四三
二	二〇四三
一	二〇四三

四	八七三
三	九九
二	四九三
一	九六三
九	九六三
八	九六三
七	九六三
六	九六三
五	九六三
四	九六三
三	九六三
二	九六三
一	九六三







一旦戸主トシテ負擔シタル義務ハ爾後戸主ノ身分ヲ脫退スルモ當然其義務ノ免脱ヲ得ヘカヲ  
不申シテ負擔スルハ其義務ノ免脱ヲ得ヘカヲ不申シテ負擔スルハ其義務ノ免脱ヲ得ヘカヲ  
戸主申シテ負擔シタル義務ハ爾後戸主ノ身分ヲ脫退スルモ當然其義務ノ免脱ヲ得ヘカヲ

第一章 遺産相続

第一節 總則

第九百九十二條

遺産相続ハ被相続人ノ遺留シタル財産ノ有無ヲ問ハス其死亡ニ因リテ  
當然開始スルモノナリ

第九百九十三條

遺産ヲ組成セル各箇ノ財産ハ遺産相続權ノ内容ヲ成スモノナルヲ以テ  
箇箇ノ財産ニ對シ侵害アリタル場合ニ於テ相続ニ因ル所有權ノ取得又  
理由トシ之カ取戻ヲ請求スルモ亦相続權ノ主張ニ外ナラサレハ相続回  
復ノ請求トスルコトヲ妨ケス  
○相続回復請求ニ關シテハ民法第九百六十六條及ヒ同第九百九十三條ニ  
特別時効ノ定アリ從テ相続回復請求者ト其相手方タル相続財産占有者  
トノ間ニ在リテハ民法第六十三條ノ適用ナキモノトス

○相続回復ノ請求權ハ家督相続ト遺産相続トヲ問ハス相続權ヲ侵害セラ  
レタル相続人ノ一身ニ專屬スルモノナレハ相続權ヲ侵害セラレタル相  
續人カ相続回復ノ請求權ヲ行使セスシテ死亡シタルトキハ其請求權ハ  
當然消滅スルモノニシテ其相続人ノ相続人ニ於テ之ヲ承繼スヘキモノ  
ニ非ス  
○如上ノ場合ニ於テ相続人ノ相続人ハ自己ノ相続權ヲ侵害セラレタルコ  
トヲ理由トシテ相続ノ回復ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ前者ノ相続  
回復請求權ヲ承繼シタルコトヲ理由トシテ其請求權ヲ行使スルコトヲ  
得サルモノトス

第二節 遺産相続人

第九百九十四條

民法施行前ニ在リテハ家族ノ遺産ハ被相続人ト家ヲ同フスル直系卑屬  
ニ於テ相続スヘキモノニシテ他家ニ在ル者ハ之ヲ相続スル權利ナカリ  
シヲ以テ推定遺産相続人ニ非サリシモノトス  
○遺産相続ニ在リテハ被相続人タル養親トノ關係ニ於テ卑屬親ト

民法 相続 遺産相続 遺産相続人

四	四	四	四	三	三	三	三
四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六

三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
七	七	七	七	七	七	七	七
七	七	七	七	七	七	七	七
六五	六五	六五	六五	六五	六五	六五	六五
二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八
二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八	二四八
二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二
二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二	二六二
七六九	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九	七六九



シテ他ノ實子ト共ニ相続權ヲ有スルモノトス

(參照) 死亡者ノ遺産ハ其尊屬ナル戸主ニ屬スヘキモノニ非ス死亡者ノ卑屬ナル長男ニ於テ相続スヘキモノトス

一家ノ戸主死亡シ相續人タルヘキ子孫ナキトキハ繼合家ヲ異ニスルモ其子カ父母ノ財産ヲ相續スヘキハ當然ナリ

第九百九十五條

民法第九百九十五條ニ所謂遺産相續人タルヘキ者トハ推定遺産相續人ヲ指稱スルモノナレハ推定遺産相續人ノ地位ニ在ラサル子カ相續開始前ニ死亡シタル場合ニ於テ其者ニ子アルトキト雖モ其子ハ其者ヲ代承シテ遺産相續人ト爲ルヘキモノニ非ス

第九百九十六條

家族カ死亡シタル當時法定ノ遺産相續人ナク又現實ノ戸主存在セザリシ場合ト雖モ爾後前戸主ノ家督相續人ト爲リタル者ハ其家族ノ遺産ヲ相續スルノ權利アルモノトス

第九百九十六條

同居家族ノ遺産ハ戸主ノ支配權ニ屬スルモ分家ノ家族死亡シ獨リ其者ノ遺妻存在セルトキハ遺妻ニ於テ右遺産ヲ相續スルハ當然ナリ

第三節 遺産相續ノ效力

第一款 總則

第九百九十一條 『第一千一條』

相續回復ノ請求ト相續ニ因ル權利義務ノ承繼トハ自ラ別種ノ問題ニ屬スルヲ以テ箇箇ノ財産ニ對スル侵害行爲ノ排除請求ヲ認容スルモ毫モ遺産相續ノ包括承繼ナル性質ニ背反スルモノニ非ス

遺産相續人ハ其相續開始ノ時ヨリ財産ニ關スル被相續人ノ權利義務ヲ包括的ニ承繼スルヲ以テ被相續人カ債務ノミヲ負擔セル儘死亡シタル場合ト雖モ亦相續人ニ於テ之ヲ承繼スヘキモノトス

(同義旨) 民法第一千一條ハ被相續人カ有セシ權利義務ニシテ財産權上ノ關係ニ屬スルモノナル以上ハ遺産相續ハハ相續開始ノ時ヨリ其一切ノ權利義務ヲ包括シテ承繼スヘキ旨ヲ規定シタルモノトス

民法第一千一條ノ所謂被相續人ノ財産ニ屬セシ權利義務ニハ債務ヲ包含スルコト勿論ナルヲ以テ遺産相續人ハ被相續人カ負擔セシ債務ノミ存スル場合ト雖モ尙ホ之ヲ承繼スヘキモノナリ

民法第一千一條ニ所謂被相續人ノ財産ニ屬セシ一切ノ權利義務トハ財産上ノ關係ニ屬スル一切ノ權利義務ヲ指稱スルモノナルヲ以テ被相續人カ財産ヲ遺留セス單ニ義務ノミヲ負擔シテ死亡シタル場合ト雖モ其義務ニシテ苟モ財産上ノ關係ニ屬スル以上ハ遺産相續ハ之ニ因リテ開始スルモノトス

民法 相続 遺産相續 遺産相續ノ效力 總則

七七一

六	二四七
三	二二
二	二四
一	一三五
二	二四八
三	一九九
四	四六八
三	四二一
四	二四二
三	六二二
三	四二一



第三章 相続ノ承認及ヒ拋棄

第一節 總則

(參照)

養子若クハ其離縁ハ内情如何ニ關セス苟モ戸籍ニ登録セラレサル間ハ法律上其效ナキモノトス而シテ一旦養子ト爲リ相續權ヲ保有スル以上ハ公式ノ手續ナクシテ轉テ相續權ノ拋棄ヲ推測スルヲ許サス從テ其養子ニシテ遺產ノ處分ヲ爲スモ罪ト爲ラス

二九四

七三

(第一千二十條)

第一千二十條

○民法施行以前ニ於テハ家督相續人ノ相續權ニ付キ之カ拋棄ヲ許ササル旨ノ法制竝ニ其拋棄ニ關スル一定ノ手續及ヒ方式ノ履踐ヲ命シタル法則存セサリシヲ以テ事實裁判所カ自由ナル心證ヲ以テ拋棄ノ事實ヲ認ムルモ不法ニ非ス

二九二

二六二

(參照)

家督相續權ハ之ヲ拋棄スルヲ許ササル法則ナキニ依リ其拋棄ヲ認メタル裁判ハ違法ニ非ス

二九一

三〇

(第一千一節)

第一千一節 第一款 單純承認

○相續ヲ承認スルト否トハ相續人ノ獨立自由ノ意見ニ因リ之ヲ決定スヘク他ノ掣肘ヲ認容スルヲ得サルモノナレバ相續人ニ於テ相續ヲ拋棄ス

二九〇

(第一千三條)

(第一千二十三條)

第一千二十三條

ヘキ合意ヲ爲スモ之ニ羈束セララルコトナク任意ニ相續ノ届出ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

二八七

一七〇一

(第一千三條)

第一千二十三條

○民法施行前ニ在テモ遺產相續人カ遺產ノ限度ニ於テ被相續人ノ債務ヲ辨濟スヘキ條件ヲ附スルコトナク單純ニ相續ヲ爲シタルトキハ被相續人ノ負擔セシ財産上ノ債務ヲ無限ニ承繼スヘキモノトス

二八三

四七九

(同五節)

民法施行前ト雖モ遺產相續人カ特ニ遺產ノ限度ニ於テ被相續人ノ債務ヲ辨濟スヘキ條件ヲ附セスシテ單純ニ相續ヲ爲シタル以上ハ被相續人ノ財産上ノ債務ハ無限ニ之ヲ承繼シタルモノト認メサルヘカラス

二七七

一五三八

(第一千二十四條)

第一千二十四條

○民法第一千二十四條第二號ノ場合ニ於テハ縱令相續人カ事實上單純承認ヲ爲スノ意思ナカリシ時ト雖モ法律上其意思表示アリタルモノト看做スヲ以テ之ニ法律ヲ適用スルニ付テモ實際其意思表示アリシ時ト同一視スルヲ當然トス

二八二

二四二

(第一千二十五條)

第一千二十五條

第二款 限定承認

民法 相続 相続ノ承認及ヒ拋棄 總則 承認 限定承認



○家督相續人ハ限定承認ヲ爲シタル場合ト雖前戸主ノ一身ニ專屬シタルモノヲ除ク外相續開始ノ時ヨリ其有セシ權利義務ヲ承繼スヘキモノナルモ前戸主ノ債務及ヒ遺贈ニ付テハ唯相續ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テノミ辨濟ノ責アルニ止マリ其固有ノ財産ヲ以テ之ヲ辨濟スルノ責ナシ

○債務者ノ相續人カ限定承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ相續人ノ固有財産ニ非サル相續財産ハ總テ債務ノ辨濟ニ供セサルヘカラサルモノナルヲ以テ縱令果實ト雖モ苟モ相續財産ヨリ生シタルモノナル以上ハ等シク被相續人ノ債務ノ辨濟ニ供スヘキモノトス

〔第一千二十八條〕

○民法第一千二十八條ニ所謂相續財産トハ相續人カ華族世襲財産法ニ依リ世襲財産トシテ承繼シタル場合ト否トヲ問ハス相續ニ因リ承繼シタル一切ノ財産ヲ指稱スルモノトス

○相續ノ限定承認ノ場合ニ於テ相續財産ヲ構成スル株式ヨリ生シタル利益配當請求權ハ縱令相續後ノ株主總會ニ於テ確定シ相續人ノ名ニ於テ取得シタルモノト雖モ仍ホ相續財産ノ一部ヲ成スモノトス

〔第一千二十九條〕

○民法第一千二十九條ハ限定承認ノ場合ニ於テ債權者ノ請求ヲ申出テサル債權ニ對シ制限ヲ加フル目的ニ出テタル規定タルニ止マリ債權者カ辨濟ヲ受クヘキ財産ヲ制限シタル規定ニ非ス

〔第一千三十條〕

○限定承認者ハ民法第一千二十九條第一項ノ催告期間滿了ノ後ハ其期間内ニ申出テ若クハ其知レル相續債權者ニ對シテハ相續財産ノ數額又ハ相續債務ノ總額確定セサルヲ理由トシテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

第三節 拋棄

○民法施行以前ニ於テハ家督相續人ノ相續權ニ付キカ拋棄ヲ許ササル旨ノ法則竝ニ其拋棄ニ關スル一定ノ手續及ヒ方式ノ履踐ヲ命シタル法則存セサリシヲ以テ事實裁判所カ自由ナル心證ヲ以テ拋棄ノ事實ヲ認ムルモ不法ニ非ス

○相續ヲ承認スルト否トハ相續人ノ獨立自山ノ意見ニ因リ之ヲ決定スヘク他ノ掣肘ヲ認容スルヲ得サルモノナレハ相續人ニ於テ相續ヲ拋棄スヘキ合意ヲ爲スモノ之ニ羈束セララルコトナク任意ニ相續ノ届出ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

三

一七九

三

二三

四

二八九

四

二八九

三

二三

四

二八九

二

二六

六

一四〇



〔第一千二十八條〕

○遺産相續ノ拋棄ヲ爲スニハ裁判所ニ申述スルコトヲ要スト雖モ被相續人ノ有セシ共有地持分人如キ箇箇ノ財産ニ付キ且遺産相續人カ之ヲ拋棄シタルヤ否ヲ判定スルニハ必スシモ裁判所ニ對ステ拋棄ノ申述ニ依ルコトヲ要セサルモノトス

○家督相續人カ相續ノ拋棄ヲ爲スニハ民法第一千三十八條ノ方式ヲ履踐スルヲ要シ其單純ナル意思表示ハ拋棄ノ效力ヲ生セサルモノトス

第六章 遺言

第一節 總則

〔第一千六十四條〕

○遺言者カ民法第一千六十四條ニ依リ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財産ノ全部又ハ一部ノ處分ヲ爲スハ遺言者カ死亡ノ時ヲ期シ其財産ノ全部又ハ一部ヲ受遺者ノ利益ノ爲メニ處分スル單獨行爲ナルコトヲ要スルモノトス

○遺言カ遺言者ノ債權者ニ利益ヲ與フルノ目的ヲ以テ爲サレタルモノニ非スシテ單ニ債權者ニ對シ債務ノ辨濟ヲ爲ス爲メ遺言執行者ヲシテ不

動産ヲ賣却セシムルカ如キハ民法第一千六十四條ニ規定スル處分行爲ニ屬セサルモノトス

○遺贈ノ目的タル財産ハ反證ナキ限り遺言カ效力ヲ發生スル當時ノ現狀ニテ遺贈セラレタルモノト推定スヘキモノトス從テ受遺者ハ遺言者ノ遺言後死亡前ニ生シタル目的物ノ増減ニ因リ或ハ利得シ或ハ損失ヲ受クルモノトス

○遺贈ノ目的物ハ必スシモ遺言ニ於テ之ヲ特定スルコトヲ要セスシテ特定セラレ得ヘキ様定ムルヲ以テ足ルモノトス

第二節 遺言ノ方式

○遺言ヲ爲スニ際シ親族アル者ハ多クハ皆之ヲ立會ハシムヘシト雖モ遺言書ニハ必スシモ親族ノ立會連署ヲ要スルモノニ非ス

第一款 普通方式

(參照)

遺贈證書ハ必ス本人ニ於テ之ヲ自署シ又ハ證人ノ連署ヲ要スルノ條理ナシ殊ニ徳川氏政府百个條及ヒ寛保追加ノ如キハ現行法ノ效力ナキハ勿論裁判上慣例トシテモ亦當然認知セラルヘキモノニ非ス

〔第一千六十八條〕

○自筆證書ニ依ル遺言ニ氏名ノ自署ヲ要件トシタルハ遺言者ノ何人タル

民衆 相續 遺言 遺言ノ方式 普通方式

六	六	六	三	六	六
二七六	二九〇	二九〇	二七	二七〇	二五〇

六	六	五	六
二七六	二七〇	二五四	二七〇



ヤヲ明確ニスルノ旨趣ニ出ツルモノナレハ常ニ必スシモ氏名ノ完備ヲ要シ又ハ之ヲ以テ足ルト解スヘキモノニ非ス

○遺言書ニ日附ヲ記載スルハ自筆證書ニ依ル遺言ノ一要件ナリトス

(同主旨)

遺言書ニ自書ノ日附アルコトハ自筆證書ニ依ル遺言ノ一要件ナルヲ以テ其日附ナキモノハ遺言ノ效力ナラセズ

『第六十九條』

(第六十九條) 刑

○遺言者カ疾病ノ爲メ言語明瞭ヲ缺キ公證人ヲ質問ニ對シ言語ヲ以テ答述スルコトナク僅ニ舉動ニ依リ首肯シ又ハ首ヲ左右ニ振ルカ如キ形容ヲ爲スノミニテハ遺言者カ口述ヲ爲シタルモノト解スヘキモノニ非ス從テ遺言ノ本旨トシテ其間答ヲ掲記スルモ公證人ニ於テ遺言者ノ口述ヲ筆記シタルモノト爲スヲ得サルモノトス

(參照)

遺言執行者ハ明治十九年法律第二號公證人規則第二十九條第二十條各號中ノ何レニモ該當セサルノミナラス遺言ニ付キ利害關係ヲ有スル者ニ非サレハ民法第六十九條ニ依リ公正證書作成ニ付キ證入トシテ立會フコトヲ得ルモノトス

第三節 遺言ノ效力

(參照)

遺言ハ單獨行爲ニシテ受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄又ハ承認ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ遺言者死亡後承認ノ意思ヲ起訴前ニ表ハスト又ハ起訴ト同時ニ表ハストニ因リテ遺言ノ效力ヲ異ニスルコトナシ

(第八十七條)

○遺言ハ遺言者カ死亡スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノニシテ而モ遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒ之ヲ取消シ得ルモノトス從テ遺言者カ生存スル以上ハ受遺者ノ爲メニ何等ノ權利ヲモ發生スルコトナシ

○遺贈ハ遺言ヲ以テ受遺者ニ財産上ノ利益ヲ與フル遺言者ノ意思表示ニ

外ナラサレハ遺言カ表意者ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ生スルト同時ニ遺贈ノ目的タル財産ハ其遺贈カ包括遺贈ナルト特定遺贈ナルトヲ問ハス民法第七十六條所定ノ如ク物權の效力ヲ生シ直接ニ受遺者ニ移轉スルモノトス

○遺言者カ其有スル貸金債權ノ幾分宛テ各子女等ニ遺贈スルハ特定遺贈ヲ爲シタルモノニシテ其結果遺言者ノ死亡ト同時ニ貸金債權ハ各受遺者ニ移轉スルモノトス

○遺贈ノ目的タル財産ハ反證ナキ限り遺言カ效力ヲ發生スル當時ノ現狀

五	三	三九	三二	七	五	七	四
二七〇八	二〇七八	二二五三	三七	四二四	二二七	一九七	二七六



ニテ遺贈セラレタノモノト推定スヘキモノトス從テ受遺者ハ遺言者ノ遺言後死亡前ニ生シタル目的物ノ増減ニ因リ或ハ利得シ或ハ損失ヲ受クルモノトス

遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス從テ遺言者ハ其生存中何時ニテモ隨意ニ之ヲ取消スコトヲ得

『第一千八十八條、第一千八十九條』

○權利ノ拋棄ハ之ニ依リ直接利益ヲ受クル者ニ對スル意思表示ニ依リテ爲スヘキノミナラス民法第一千八十八條ニ依リテ遺言者ノ爲ス遺贈ノ拋棄ハ相手方ノ受領ヲ必要トスル意思表示ナレハ同第一千八十九條ノ催告ナクシテ爲ス遺贈ノ拋棄ト雖モ等シク遺贈義務者ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス

第四節 遺言ノ執行

『第一千六百條』

○遺言書檢認ノ申請ハ一種ノ檢證手續ヲ求ムルモノニシテ遺言書ノ内容形式如何ニ拘ハラズ却下シ得ヘキモノニ非ス  
○遺言書ノ檢認ハ之カ形狀其他ノ情況ヲ調査スルニ在リテ遺言カ死者ノ

(第一千六百條)

(第一千二百三十四條)

真意ニ出ツルヤ將タ法律上有效ナリヤ否ヤヲ判定スルモノニ非サレハ檢認ヲ經タル遺言書ヲ無効ト爲スモ不法ニ非ス

○遺言書ノ檢認ハ遺言ノ執行前ニ於テ單ニ其形式其他ノ狀態ヲ調査確證シ以テ他日ニ於ケル遺言書ノ偽造變造ヲ防止シ且其保存ヲ確實ナラシムルノ目的ニ出テタル一種ノ檢證手續ニ過キスシテ遺言ノ效力ヲ判定スルモノニ非サレハ既ニ檢認ヲ經タル遺言書ニ對シ其遺言ノ無効確認ヲ訴求スルモ決シテ一事不再理ノ法則ニ違背スルモノニ非ス

(同主旨)

遺言書ノ檢認ハ遺言ノ執行前ニ於テ專ラ遺言ノ方式ニ關スル一切ノ事實ヲ調査シ遺言書其者ノ現狀ヲ確證スル一種ノ檢證手續ニシテ遺言ノ内容ノ真否其效力ノ有無等實體上ノ效果ヲ判定スル裁判ニ非ス

(第一千百十四條)

○遺言執行者ハ相続財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權利義務ヲ有スルニ依リ相続人カ遺贈ノ目的ヲ其名義ニ移シタル場合ニ於テ遺言執行ノ爲メ相続人ニ對シ訴訟ヲ提起スルカ如キハ固ヨリ其權限ニ屬ス

(第一千百十七條)

遺言ノ執行

六	二〇九〇
五	二〇八六
三	二〇八〇
四	二〇七四
七	二〇三七
二	二〇三〇
四	二〇二八

五	二〇二七
三	二〇二六
七	二〇二三
四	二〇一八
三	二〇一〇



第一千一百一十條

○遺言執行者ハ單ニ相続人ノ代理人トシテ相続人ノ權利ノミヲ行使スルモノニ非ス

三

一九〇

第一千一百一十四條

○遺言ハ遺言者カ死亡スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノニシテ而モ遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒ之ヲ取消シ得ルモノトス從テ遺言者カ生存スル以上ハ受遺者ノ爲メニ何等ノ權利ヲモ發生スルコトナシ

三

二九五

第一千一百一十九條

○遺言ハ遺言者カ死亡スルニ非サレハ其效力ヲ生セサルモノニシテ而モ遺言者ハ何時ニテモ遺言ノ方式ニ從ヒ之ヲ取消シ得ルモノトス從テ遺言者カ生存スル以上ハ受遺者ノ爲メニ何等ノ權利ヲモ發生スルコトナシ

三

二九五

第七章 遺留分

○民法ニ於テ家督相続人ノ受クヘキ遺留分ヲ侵害シタリトハ被相続人カ生前處分若クハ死後處分ヲ以テ相続ニ因リ法律上相続人ノ受クヘキ權利ヲ處分シタル場合ヲ云フ

三五

一五六

○遺留分權利者タルニハ確定的ニ相続人ト爲リタル者ナルコトヲ要スルヲ以テ相続開始シタル後ニ非サレハ遺留分權利者ナル者存在セサルモノトス

六

二二六

第一千一百二十二條

『第一千一百二十二條』

○相続人カ遺留分權利者トシテ其定率ナル二分ノ一又ハ三分ノ一ヲ受クヘキ被相続人ノ財産ハ相続開始ノ時ニ於テ被相続人ノ有セシ財産ノ價額ニ其贈與シタル財産ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定スルモノトス

六

二六二

第一千一百二十三條

『第一千一百二十三條』

○被相続人カ贈與ヲ爲シタル後贈與財産ト同額以上ノ財産ヲ増殖シタルトキハ毫モ遺留分ヲ害スルコトナキノミナラス贈與財産ノ價額ヲ加算スルハ其贈與カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フル故意ヲ以テ爲サレタル場合ノ外相続開始前一年以内ニ爲サレタルコトヲ要スルモノナレハ相続開始ノ時ニ至ラサレハ贈與カ遺留分ヲ害スルヤ贈與財産ノ價額ヲ被相続人ノ財産ニ算入スヘキヤヲ決スルコトヲ得サルモノトス

六

二六二

第一千一百三十四條

『第一千一百三十四條』

○贈與財産ノ價額ヲ被相続人ノ財産ニ算入スヘク且其贈與カ遺留分ヲ害スル場合ニ於テモ相続人ハ民法第一千一百三十四條ニ依リ同第一千一百三十六條以下ニ定ムル一定ノ順序ニ從ヒ受贈者ニ對シ減殺請求權ヲ行使シ贈與財産ノ返還ヲ受クルニ非サレハ其財産ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得サルヲ以テ相続開始前ニ於テハ被相続人ノ贈與シタル不動産ニ關シ第

六

二六二



一順位ノ相続人ノ爲メ將來所有權移轉ノ請求權發生スヘキ法律關係ハ存在セサルモノトス

六

一一六

○減殺請求權ハ受贈者ニ對シ贈與ヲ相對的ニ取消ス權利ニシテ贈與財產ニ關スル物權的請求權ニ非サレハ相続開始前ニ於テハ贈與ニ關シ將來

減殺請求權ヲ生スヘキ法律關係モ存在セサルモノトス從テ第一順位ノ

推定相続人ハ被相続人ノ贈與シタル不動産ニ對シ不動産登記法第二條

第二號ニ依リ如上將來ノ請求權ヲ保全スル爲メ假登記ヲ爲スコトヲ得

サルモノトス

○遺留分權利者カ贈與ノ減殺ヲ請求シタル場合ニ於テ贈與カ遺留分ヲ保

全スルニ必要ナル限度ヲ超エタルヤ否ヤ從テ該請求カ正當ナルヤ否ヤ

ヲ判定スルニハ相続開始ノ當時被相続人ノ有セシ財產ノ其當時ニ於ケ

ル價額及ヒ曩ニ被相続人カ贈與シタル財產ノ相続開始ノ當時ニ於ケル

價額ヲ債權ニ關シテハ債務者ノ資力ノ程度擔保ノ有無等ヲ斟酌シ又不

動産ニ關シテハ其性質所在地等ヲ斟酌シテ具體的ニ定ムルコトヲ要ス

ルモノトス

○不動産ハ不動産タルノ一事ヲ以テ其評價額ト同額ノ債權ヨリ經濟上優

秀ナル價值ヲ有スル旨ノ實驗法則又ハ社會通念ナキモノトス

ルモノトス

秀ナル價值ヲ有スル旨ノ實驗法則又ハ社會通念ナキモノトス

ルモノトス

〔第一千四百十三條〕

○民法第一千四百十三條第二項ノ場合ニ受贈者ニ於テ贈與ノ目的ノ上ニ設

定シタル權利カ其目的ノ爲メ輕微ナル負擔ニシテ遺留分權利者カ之ヲ

甘受セント欲スル以上ハ其負擔ノ附著シタル儘返還スルモ之カ爲メ目

的ノ上ニ權利ヲ有スル者ヲ害スルコトナキヲ以テ此場合ニ於テハ遺留

分權利者ニ對シ贈與ノ目的ノ返還ヲ許ササルヘカラス

分權利者ニ對シ贈與ノ目的ノ返還ヲ許ササルヘカラス

〔第一千四百十五條〕

○民法第一千四百十五條ニ所謂減殺スヘキ贈與アリタルコトヲ知リタル時

トハ遺留分權利者カ單ニ被相続人ノ財產ノ贈與アリタルコトヲ知ルノ

ミナラス其贈與ノ減殺スヘキモノナルコトヲ知リタルトキヲ指稱ス故

ニ該贈與ニ付キ減殺權アルコトヲ知ラサル場合ニハ同條ノ時効ノ進行

ヲ始ムルコトナシ

○遺留分權利者カ被相続人ト第三者トノ間ニ行ハレタル不動産ノ賣買ヲ

以テ虚偽ノ意思表示ナリト確信シ買主ニ對シテ賣買登記取消ノ訴訟ヲ

提起シタル場合ニ於テハ起訴ノ當時該賣買ノ成立ヲ了知シタルモノト

云フヲ得ス從テ其主張ニ反スル事實ナキ以上ハ該不動産賣買ニ對スル

減殺請求權ノ時効ハ訴訟提起ノ當時ヲ以テ起算點ト爲スヘキモノニ非

減殺請求權ノ時効ハ訴訟提起ノ當時ヲ以テ起算點ト爲スヘキモノニ非

三七

一三七七

三六

一六一

六

一一六

七

一一六

七

二四九







商  
法



# 商法

## 商法

### 第一編 總則

#### (第一條)

- 債務者ヲシテ質物ノ代理占有ヲ爲サシムル所ノ動産質ハ從來此ノ如キ商慣習アリトスルモ民法實施後ハ質權ノ效力ヲ喪フヘキモノトス
- 名義書換又ハ質入等ヲ委任スル事項ノミノ記載アリテ年月日及ヒ宛名ヲ記載ナキ委任狀ヲ添附シ以テ記名株券ノ帳轉流通ヲ爲ス商慣習ハ違法ニ非ス
- 白紙委任狀ヲ使用シ記名株券ノ處分及ヒ流通ヲ容易ナラシムル商慣習ハ廣ク實際ニ行ハレ法律の效力ヲ有スルモノトス
- 株券記名者カ白紙委任狀ヲ作成シ株券ト共ニ之ヲ他人ニ委付スルニ於テハ其株券ハ委任狀ト相待テ轉帳流通スル慣習ノ存スル以上第三者カ其慣習ニ從ヒ該株券ニ付キ取得シタル權利ハ之ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ得ス

商法 總則 法例

七八七

三五	二	一四七
三五	八	九四
三六	三六	三六
三六	三六	三六



○内地裁判所カ内地人ト臺灣人トノ間ニ於ケル商事上ノ訴訟ヲ裁判スル場合ニハ臺灣ノ慣習ニ準據スヘキ限ニ在ラス

○設立費用ト認ムル能ハサル費用ヲ設立費用トシテ創立總會カ承認ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ有效ナリトスル商慣習ハ商法ノ規定ニ反スルモノナルヲ以テ效力ナシ

（條）

○商法第二百八十八條第一項ハ商人間ノ賣買ニ於ケル目的物ノ瑕疵又ハ數量ノ不足ヲ原因トシテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スニハ先ツ検査及ヒ通知ノ手續ヲ爲スコトヲ要スル旨ヲ規定シタルニ止マルヲ以テ其手續ノ外ニ契約解除等ノ權利ヲ行使スルニ必要ナル事項ニ付テハ商法第一條ニ依リテ決スヘキモノトス

○商事賣買ニ付テハ民法第五百七十條ノ規定ト異ナリタル特別ノ法則存セサルヲ以テ商人間ノ賣買ニ於テ買主カ受取リタル物ニ隠レタル瑕疵アルコトヲ原因トスル契約ノ解除ハ右民法ノ規定ニ從ヒ一年內ニ之ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

（第一條）

○記名株式ノ讓渡ニ際シ之ニ名義人ノ白紙委任狀ヲ添附シタルトキハ其直接取得者ノミナラス第三取得者ト雖モ該白紙委任狀ニ代理人ノ氏名ヲ補充シ以テ名義書換ヲ爲スコトヲ得ルハ商慣習上認めラルル所ナリ

トス

（第三條）

『第三條』

○商法第三條ハ當事者一方ノ爲メ商行爲タル行爲ニ付キ商法ノ規定ヲ雙方ニ適用スル旨ノ規定タルニ止マリ當事者ノ一方數人アル場合ニ其數人中ノ一人ノ爲メ商行爲タル行爲ニ付テハ全員ニ對シ商法ノ規定ヲ適用スルノ旨趣ニ非ス

○商法第二百八十五條ノ規定ハ債權者ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權ノミナラス債務者ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權ニ付テモ同法第三條ニ依リ當事者雙方ニ適用サルヘキモノトス

第二章 商人

○酒類製造業ヲ廢止シタル後ニ於テモ依然酒類販賣業ヲ持續スル事實アルニ於テハ其商人タル身分ヲ存續スルモノト云ハサルヘカラス

○合資會社ノ社員ハ當然商人ノ資格ヲ有スルモノニ非サレハ縱令支拂停止ノ事實アルモ直ニ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

七	二	四	三	三	三
一九八	四四四	七五	二六	二六	九六六

三	三	四	四	六
一四〇	一四〇	二六二	七三	二〇四



第三章 商業登記

第十二條

『第十二條』

○支配人ヲ選任シタル者カ登記ヲ爲ササルトキハ其選任ノ事實ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモ第三者ヨリ之ヲ以テ其主人ニ對抗スルコトヲ妨ケス

四二

九九九

○商法第十二條ハ登記當事者カ登記スヘキ事項ヲ以テ第三者ニ對抗シ得ヘキ場合ヲ規定シタルモノナレハ之ヲ援キテ被後見人ノ爲メニ商業ヲ營ム後見人カ其登記ヲ爲ササルニ於テハ之ト商行爲ヲ爲シタル債權者ハ其債權ヲ以テ第三者ニ對抗スルノ權ナシト謂フヲ得ス

四二

五七九

○株式會社ノ資本減少ニ關スル決議ノ後讓受ケタル株式ハ減資決議ニ因リテ定マリタル制限ヲ帶有スルモノナレハ其讓受人ハ該決議ニ服從スヘキ義務ヲ有シ減資決議ノ登記ニ付テハ商法第十二條ニ所謂第三者ニ該當セス

四二

八四五

○商業登記簿ニ登記スヘキ各事項ニ付キ單ニ登記ヲ爲シタルニ止マリ其公告ノ存セサル場合ニ於テ其登記事項ヲ以テ第三者ニ對抗センニハ第三者ノ惡意ナルコトヲ必要トス隨テ第三者ノ惡意ナルコトヲ主張スル

四二

一六

第十三條

者ニ於テ立證ノ責ニ任スヘキモノトス

四二

一九五〇

第十四條

○商法第十二條ニ所謂善意トハ第三者カ法律上ノ利害關係ヲ有スルニ至リタル當時ニ於テ其登記事項ヲ知ラサリシコトヲ謂ヒ其ノ後公告手續ヲ經由テ問フコトヲ要セサルモノトス

四二

一九五〇

第十五條

○商法第十四條ノ規定ハ登記スヘキ各事項ニ付キ其爲シタル登記ト公告トノ抵觸シタル場合ニ關スルモノニシテ登記ヲ爲シタルニ止マリ公告ヲ存セサル場合ニハ其適用ナキモノトス

四二

一九五〇

第十六條

○商法第五十三條ハ同法第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其異動カ事項ノ變更ニ基クト將タ其消滅ニ基クトヲ問ハス

四二

一九五〇

第十七條

○總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘシトノ意義ニシテ同法第十五條ニ謂フ登記シタル事項ノ變更ト消滅トヲ包含シタル規定ナリト解釋セサルヘカラス

四二

一九〇八

(反對)

商法第五十三條ハ同第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキニ於テ其異動ノ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトヲ問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘキ法意ニシテ



同法第十五條ノ所謂消滅登記トハ登記シタル事由ノ全ク無用ニ歸シ消滅シタル場合ニ適用スヘキ注意ナリ

第四章 商號

〔第十六條〕

○一個人ノ商號ハ民事訴訟法第九十條ノ規定ニ依リ當事者ヲ表示スヘキ名稱ト爲スヲ得サルモノトス

〔第十七條〕

○商號ナルモノハ一定ノ商人カ取引上自己ヲ指示センカ爲メ使用スル名稱ニ外ナラサレハ使用者ハ他人ニ代リテ取引ヲ爲ス場合ト雖モ尙ホ其商號ヲ使用シ得ルモノニシテ登記ノ有無ハ毫モ之ニ關係ナシ

〔第十八條〕

○會社ニ在リテハ其商號中ニ特定名稱ノ外合名會社等ノ種類ヲ示スヘキ文字ヲ用ユヘキコトヲ強要スルハ主トシテ會社ト會社ニ非サル商人トヲ甄別セシメンカ爲メナレハ會社ノ特定名稱カ同一ナル場合ニ於テハ其種類名稱ヲ異ニスルモ商號自體ヨリ觀察シ世人ノ混同誤認ヲ招ク虞アルモノナルヲ以テ類似ノ商號ナリト謂フコトヲ得ルモノトス

〔第十九條〕

○商會ナル文字ハ商人カ商號トシテ普通慣用スル語辭ニシテ其文字自體ハ會社ナル文字ト同一ノ意義ニ解スヘカラストスルモ之ニ合名ノ二字ヲ冠シ合名商會ト云フトキハ世人ヲシテ直ニ合名會社ナリト信セシムヘキ虞アルカ故ニ會社ニ非スシテ其商號中ニ合名商會ナル文字ヲ用ユルトキハ商法第十八條第二項ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

〔第二十條〕

○商法第十九條ハ既ニ他人カ登記シタル商號ト全然同一ノモノノミナラス之ト紛ハシキ類似ノ商號ヲモ之カ登記ヲ爲スコトヲ許ササル旨趣ナリトス  
○商號專用權ハ商號登記簿ニ商號ヲ登記スルニ因リ發生スル權利ナレバ未タ登記ヲ經サル商號ノ使用者ハ同市町村内ニ於ケル他人ノ同一營業ノ爲メニスル同一商號ノ登記ヲ排斥シ且不正競争ノ目的ヲ以テスル同一又ハ類似ノ商號使用ヲ禁止スル權利ヲ有セサルモノトス  
○商法第二十條ニ所謂類似ノ商號ナリヤ否ヲ鑑別スルニハ會社ノ商號ニ在リテモ一般取引市場ニ於テ世人カ彼此混同誤認スル虞ナキ程度ノモノナリヤ否ヲ其商號自體ニ付キ觀察スルヲ主要トシ併セテ取引界ノ實

三三 四 七〇

三四 六 七〇

四〇 三六九

四七 一六一

四二 二九四

四五 二二九

四六 二二九

四七 二二九

四八 二二九

四九 二二九

五〇 二二九



情ヲ參酌スルコトヲ妨ケサルモノニシテ其商號中ニ會社ノ種類ヲ示ス  
文字アルノ故ヲ以テ常ニ他ノ會社ノ商號ト類似セサルモノト謂フヲ得  
サルモノトス

七

一六一

○會社ニ在リテハ其商號中ニ特定名稱ノ外合名會社等ノ種類ヲ示スヘキ  
文字ヲ用ユヘキコトヲ強要スルハ主トシテ會社ト會社ニ非サル商人ト  
ヲ甄別セシメンカ爲メナレハ會社ノ特定名稱カ同一ナル場合ニ於テハ  
其種類名稱ヲ異ニスルモ商號自體ヨリ觀察シ世人ノ混同誤認ヲ招ク虞  
アルモノナルヲ以テ類似ノ商號ナリト謂フコトヲ得ルモノトス

七

一六一

○會社ノ通稱又ハ畧稱ハ取引市場ニ於テ世人カ會社ノ種類名稱ニ重キヲ  
措カスシテ其特定名稱ヲ重視セル結果慣用セル稱呼ナルヲ以テ之ニ因  
リテ取引ノ實際上商號ノ混同誤認ヲ實現セル事例アル以上ハ縱令會社  
ノ通稱又ハ畧稱若クハ其商號ノ一部ナル特定名稱ナリトモ之ヲ以テ商  
號ノ類似ナルコトヲ認ムルニ妨ナキモノトス

七

一六一

○商法第二十條第一項ハ商號ノ登記ヲ爲シタル者ニ之ト同一又ハ類似ノ  
商號ヲ使用スル者ニ對シ其使用差止ヲ請求スルコトヲ得セシメタルモ  
ノニシテ他市町村内ニ於テ該商號ヲ使用スルト否ト又他市町村内ニ於  
テ該商號ヲ使用スル場合ニ其登記ヲ爲シタルト否トヲ問ハス等シク適

七

一六一

用スヘキモノトス

○類似商號ノ使用者カ其登記ヲ爲シタル場合ニハ商號權者ハ其差止請求  
權ト共ニ登記抹消請求權ヲ有シ又損害賠償請求權ヲモ有スルモノト解  
スルヲ相當トス

七

一六一

○右登記抹消ノ判決確定シタルトキハ債務者ハ民事訴訟法上意思ノ陳述  
ヲ爲シタルモノト看做サレ商號權者ハ之ニ基キ登記抹消ノ手續ヲ爲ス  
コトヲ得ルモノトス

七

一六一

第二十三條

第二十三條

○運送其他ノ營業ヲ讓渡スルニ當リテハ店舖貨物債權債務得意先及ヒ商  
業帳簿等ハ總テ之ヲ讓渡スル通常トス故ニ其反證アラサル限ハ總テ讓  
渡アリタルモノト推定セサルヘカラス

三

一〇

○商人カ營業ノ讓渡ヲ爲シタル場合ニ於テ從前ノ取引先ニ對シ其通知ヲ  
爲サス依然其商人名義ニテ送荷セラレ其儘受領セラレタルカ爲メ營業  
讓渡ヲ以テ取引先ニ對抗スルコトヲ得サル法規ナシ

六

一〇八

○自己ノ營業ヲ他人ニ讓渡シタル場合ニ於テ讓受人ニ對シ其營業ヲ妨害  
スル行爲ヲ爲ササル旨ヲ特約シ其妨害行爲禁止ノ地域及ヒ期間ヲ制限  
セサルモ其特約ヲ以テ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル無効ノ法律行



爲ナリト謂フヲ得ス

### 第五章 商業帳簿

〔第二十五條〕

○商法第二十五條ハ商人ハ日日ノ取引其他ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載シタル帳簿ヲ備フルコトヲ要ストノ旨趣ニシテ此等ノ事項ヲ日記入スルコトヲ強要シタルモノニ非ス

〔第二十六條〕

(參照)

商法第二十六條第一項ニ於テ商人又ハ會社ニ對シ定時ニ財産目錄ヲ調製スルノ義務アルコトヲ規定シタルハ他人ヲシテ其時ニ於ケル資産ノ狀態ヲ知悉セシムルノ旨趣ニ外ナラス故ニ其第二項ノ價格ナルモノハ客觀的ノ價格即チ目錄調製當時ノ交換價格ヲ指スモノトス

### 第六章 商業使用人

○商業使用人カ主人ニ代リテ其營業ニ關スル行爲ヲ爲スニハ主人ニ對シ忠實ニシテ其利益ヲ圖ルヘキモノトス故ニ其主人ノ爲メ不利益ナルコトヲ知リテ或行爲ヲ爲シ之ニ損害ヲ生セシムルニ於テハ其賠償ノ責ニ

〔第三十條〕

任スヘキ言ヲ換タサレトモ右ノ行爲ヲ以テ法律上當然無効ナリトスルヲ得ス

〔第三十條〕

○會社ノ支配人カ會社ノ爲メニ金錢ヲ借入レタルトキハ縱令其營業カ金錢ノ貸借ヲ目的トセサル場合ト雖モ反證ナキ限り該行爲ハ會社ノ目的遂行ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノニシテ支配人ノ權限内ニ屬スルモノト認ムルヲ當然トス

○支配人ハ主人ノ營業ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルニ因リ其資格ニ於テ當然代理人ヲ選任シ得ルモノトス

○商法第三十條第一項ニ所謂營業トハ商行爲ヲ爲スコトヲ業トスルノ義ナルヲ以テ苟モ其業務ニ關スル行爲ハ性質ノ如何ニ拘ハラズ之ヲ包含セルモノトス從テ支配人ノ代理スヘキ行爲ナリヤ否ヤハ行爲ノ性質自體ニ依リ決スヘキ事項ニ非スシテ代理セラルヘキ主人ノ營業ニ關スルヤ否ヤニ因リテ定マルモノナリ

○支配人ハ主人ニ代リテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノナルヲ以テ未成年者ノ後見人カ適法ニ選任シタル支配人ニ於テ主人ノ營業ニ關シ自己ノ權限ニ基キ手形振出ノ行爲

商法 總則 商業使用人

七  
八〇三

六  
一〇八

四〇  
九一

三五  
五五

二  
一六一

一  
一六一

四一  
一〇四

四  
一〇六

四三  
一〇七

四三  
一〇七

三  
一〇三



ヲ爲スニ付テハ特ニ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノニ非ス  
 ○支配人カ主人ノ爲メニ手形ヲ振出シタル場合ニ於テ其當時支配人選任  
 ○ノ登記存在スル以上ハ縱令手形ノ發行カ内實營業上ノ必要ニ出テタル  
 ニ非ストスルモノ之ヲ以テ第三者タル手形所持人ニ對抗スルコトヲ得サ  
 ルモノトス

第三十四條

○保險會社ノ勸誘員ハ保險會社ノ爲メ保險契約ノ申込ヲ誘引スル保險會  
 社ノ使用人タルニ過キスシテ會社ヲ代理シ保險契約申込ノ意思表示ヲ  
 受クル權限ヲ有セサルモノト推定セラレハキモノトス  
 ○支店主任ナル者カ如何ナル範圍ノ代理權ヲ有スルヤハ各場合ノ事實問  
 題ニシテ法律上ハ勿論實驗則上ニ於ケル一定ノ代理權アルモノニ非ス

第二編 會社

第一章 總則

第四十四條

○出資ノ約束ナルモノハ我國法上會社設立行爲ノ一部ト解スルヲ相當ト  
 ス

第四十四條

○會社ハ定款ニ依リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ包含スル事項及ヒ其目  
 的タル事業ヲ遂行スルニ必要ナル事項ニ付キ權利能力ヲ有スルモノナ  
 ルモ其目的タル事業ヲ遂行スルニ必要ナル事項ナリヤ否ヤハ各場合ニ  
 付キ判定スヘキ事實問題ニ屬ス

第四十四條

○會社カ他ノ會社ノ事業經營ノ結果ニ因リ自己ノ全財産ヲ擧ケテ無限ニ  
 責任ヲ負擔スルカ如キハ獨リ會社存立ノ基礎ヲ危クシ會社債權者ノ擔  
 保ヲ害スルノミナラス會社カ自ラ一定ノ目的ノ下ニ經營スヘキ業務ヲ  
 有シ設立セララルル旨趣ニ反スルヲ以テ舊商法ノ下ニ設立セラレタル會  
 社ナルト否トヲ問ハス自己ノ名義ヲ以テ他ノ會社ノ無限責任社員タル  
 ヲ得サルモノト解スルヲ相當トス

第四十六條

○會社ハ他人ノ名義ヲ以テモ自己ノ爲メニ其計算ニ於テ事實上他ノ會社  
 ノ無限責任社員タル權利ヲ得義務ヲ負フ地位ニ立ツ能ハサルモノナレ  
 ば之ニ反スル事項ヲ目的トスル行爲ハ無効ナリトス

三六

五

五

三

三

二九九

二七二

二七一

二二二

四三七

三七

三七

四五

三

三

二九五

二六三

一九五九

三三三

三三三



○會社ノ開業トハ會社カ現ニ其目的タル營利行爲ヲ爲スコトヲ意味シ又其準備トハ營利行爲ニ接著スル諸般ノ準備行爲ヲ爲スコトヲ意味スルモノニシテ營利行爲及ヒ設備構成ヲ目的事業トスル會社カ其事業ノ一部ヲ遂行シ又ハ其事業ノ一部タル設備構成ノ遂行ニ密接ノ關係ヲ有シ必要缺クヘカラサル行爲ヲ爲シテ法律上事業ノ著手アリト謂ヒ得ルモノトハ其意義ヲ異ニスルモノトス

【第四十七條】

○商法第四十七條ニ所謂開業トハ製氷株式會社ニ在リテハ其目的タル製氷及ヒ販賣ナル直接行爲ヲ指稱スルモノニシテ敷地ノ開墾及ヒ製氷貯藏所ヲ建設スルカ如キハ開業ノ準備タルニ過キスシテ未タ以テ開業ト云フヲ得ス

【第四十八條】

○會社ノ行爲カ公ノ秩序ヲ害スルトキハ縱令其設立ノ目的ハ適法ナル場合ト雖モ裁判所ハ檢事ノ請求又ハ職權ニ因リ之カ解散ヲ命シ得ルモノトス

○商法第四十八條ニ所謂會社カ公ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲ストハ旅店若クハ料理店營業ノ會社ニシテ其店內ニ賭場ヲ開クコトヲ業トシ又ハ米

七  
一八九六  
三七  
四三  
三七

穀賣買會社ニシテ空米相場ヲ爲スカ如キ會社ノ行爲カ公ノ秩序ニ反スル場合ヲ指稱ス從テ會社ノ役員カ業務ヲ執行スルニ當リ法規若クハ定款ニ違背シ誠實ニ其職責ヲ盡サス爲メニ株主及ヒ債權者ニ損害ヲ與ヘタル場合ノ如キハ之ニ包含セス

第一章 合名會社

第一節 設立

○合名會社設立行爲ハ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ目的トシ當事者間ニ利益ノ反スル行爲ニ非サレハ親權者ハ其子タル未成年者ヲ代理シ之ト合名會社設立ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノトス從テ親權者カ其子タル未成年者ヲ代理シ其者ト爲シタル合名會社ノ設立行爲ハ親權者ニ其代理權限ナキニ因リ無効ナリト云フヲ得ス

【第五十三條】

○商法第五十三條ハ同法第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其異動カ事項ノ變更ニ基クテ將タ其消滅ニ基クテトヲ問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘシトノ意義ニシテ同法第十五條ニ謂フ登記シタル事項ノ變更ト消滅トヲ包含シタル規定ナリト解釋セサル

六  
一六  
四  
一六  
四  
一六



ヘカラス

(反對)

商法第五十三條ハ同第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキニ於テ其異動ノ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトナ問ハス總テ之ヲ變更登記トシテ登記スヘキ注意ニシテ同法第十五條ノ所謂消滅登記トハ登記シタル事由ノ全ク無用ニ歸シ消滅シタル場合ニ適用スヘキ注意ナリ

商法第五十三條ノ規定ハ其第五十一條ニ依リ登記シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其異同ハ單ニ變更ニ係ルト將タ廢止ニ係ルトナ問ハス總テ變更登記トシテ登記スヘキ注意ナリト解セサルヘカラサルモノトス

○商法第五十三條ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキトハ會社ノ所在地  
ニ取締役監査役ノ住所等ニ移動アリタル場合ハ勿論行政區畫改正ノ結果土地ノ名稱ニ變更ヲ生シタル場合ヲモ指稱セルモノトス

(同義)

商法第五十三條ニ所謂事項ノ變更ニハ住所ノ變更ヲ包含ス而シテ住所ノ變更トハ獨リ住所ノ土地家屋ニ移動ヲ生シタル場合ノミナラス其表示即チ土地ノ名稱又ハ番號ニ變更ヲ生シタル場合ヲモ包含セルモノトス

(反對)

商法第五十三條中第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキトハ地名改稱ノ場合ヲ包含セス單ニ事項其モノ即チ本支店ノ位置ニ變更ヲ生シタル場合ヲ指スモノトス

商法第五十三條ニ所謂第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキトハ單ニ事項其モノノ變更ノ場合ノミヲ指シタルモノト狹義ニ解釋スヘキモノトス

○商法第五十三條ハ別ニ變更登記ヲ爲スヘキ期間ノ起算點ヲ定メサレハ支店所在地ニ於テ登記スル場合ト雖モ尙ホ變更ノ事實發生ノ時ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スヘキモノトス

第二節 會社ノ内部ノ關係

○合名會社ノ社員ノ持分ハ社員カ其資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル一ノ財產權ニ外ナラサレハ民事訴訟法第六百二十五條ノ規定ニ從ヒ之ヲ差押フルコトヲ得ルモノトス

○合名會社ノ社員ノ業務執行權、會社代表權及ヒ定款變更同意權ハ通常持分ナル名稱中ニ包含觀察セラルル場合アリト雖モ此等ノ權利ハ叙上ノ財產權ヲ間接ニ増益、擁護シ又ハ確保スル目的ヲ以テ社員ニ許與セラレタル附隨ノ權利ニ過キサレハ之カ爲メ持分ノ本質ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ

第五十九條

第五十九條

○合名會社ノ社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得スシテ其持分ヲ讓渡スルモ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得サルモノナレハ縱令當事者間ニ持分ノ讓

商法 會社 合名會社 會社ノ内部ノ關係

三六

九〇八

三三

四

一七〇

三四

六

五三

四〇

八四一

三九

四八

三三

二

一三三

三四

二

二四

五

一四三

五

一三五〇

五

一三五〇



第五十五條

渡アリタリトスルモ會社ハ尙ホ讓渡人ヲ以テ持分權利者ト看做スコトヲ得ヘク從テ右讓渡人ノ死亡ニ因リ遺產相續ノ開始アリタルトキハ其相續人ヲ以テ持分ニ對スル拂戻請求權ヲ有スル者ト看做スコトヲ得ルモノトス

第六十條

○商法第六十條第一項ノ他ノ社員ノ承諾ハ事前ノ承諾ノミナラス事後ノ承諾ヲモ包含スルモノナレハ他ノ社員カ事後ニ於テ之ヲ追認スル以上ハ同條ノ競業禁止ニ違反スルモノニ非ス  
○合名會社組織ノ會社カ其目的タル營業ヲ廢止スルノ意思ヲ以テ工場ヲ閉鎖シ職工ヲ解雇シ事實上營業ヲ爲サス會社ヲ解散スルノ外ナキモノト決シタルモ單ニ其手續ヲ經サルニ止マル場合ニ於テハ會社ヲ爲メ社員ノ競業ヲ禁止スル理由消滅シ社員ヲシテ會社ト同種ノ營業ヲ爲サシムルモ會社ノ利益ヲ害スルコトナキモノトス

第六十一條

○會社ノ定款上業務擔當社員ハ或場合ニ於テ會社ヲ代表シテ事務ヲ處理スル權限ヲ有スル以上ハ業務擔當社員カ外部ニ對シテ業務擔當社員ナル名義ヲ以テ會社ノ營業上ノ行爲ヲ爲シタル場合ニハ會社ノ代表者タル資格ニ於テ爲シタルモノト見サルヘカラス

第六十二條

○會社ノ業務擔當社員カ會社ヲ代表シテ事務ヲ處理スルコトヲ得ルハ代表社員カ事故アリテ其任ニ當ル能ハサル場合ニ限ルカ如キ第三條ノ容易ニ證明スルコト能ハサル内部ノ事情ニ基テ制限ハ第三條ノ取引上ノ安全ヲ害スルヲ以テ第三者ニ對シテ效力ナキモノト解スヘキモノトス

第六十三條

○商法第六十三條ノ法意ハ會社財産ヲ以テ辨濟ヲ爲スコト能ハサル債務ノ部分ニ付キ第二次ノ債務者トシテ社員ニ責任ヲ負ハシメ以テ會社債權者ノ爲メニ其債權ノ履行ヲ確保スルニ在リト解スヘキモノトス  
○會社ノ財産中ニハ其所有ニ係ル動産不動産ハ勿論會社カ第三者ニ對シテ有スル債權其他交換價格ヲ有スル一切ノ財産權ヲ包含スルモノナルヲ以テ會社ノ債務カ其財産ニ超過スルヤ否ヤヲ判定スルニ當テハ此等總テノ價格ヲ計算シ其債務ノ總額ト比較シ過不足ヲ確定スルヲ要スルモノトス

第六十四條

第四節 社員ノ退社

商法 會社 合名會社 社員ノ退社

七 二八一

七 二四三

七 二八一

四 七九八

四 七九八

六 七六五

七 二四三

七 二四三



(第六十九條)

『第六十九條』

○合名會社ノ社員ノ死亡ハ商法第六十九條ニ依リ退社ノ原因ト爲ルモノナレハ會社ノ定款ヲ以テ社員カ死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ社員ノ地位ヲ承繼スルコトヲ得ヘキ旨ノ規定ナキ以上ハ相續人ハ社員トシテ被相續人ノ地位ヲ承繼スルコトヲ得サルモノトス

(第七十條)

『第七十條』

○商法第七十條ニ所謂他ノ社員ノ一致トハ除名セラルヘキ社員ノ外尙ホ複數ノ社員アリテ其者等ノ意思ノ合致ヲ指稱スルモノトス從テ社員ノ除名ハ會社カ三名以上ノ社員ヨリ成ル場合ニ於テノミ有效ニ行ハルヘキモノナリ

○商法第七十條第五號ノ其他社員カ重要ナル義務ヲ盡ササルトキトハ其社員ノ惡意ニ出テタルト將タ過失ノ結果ナルトヲ問ハサルハ勿論ナリト雖モ其過失ノ程度如何ハ裁判所ノ職權ヲ以テ判定スヘキ所ニ屬スルモノトス

(第七十一條)

『第七十一條』

○合名會社ノ社員カ死亡シタル場合ニ於テ相續人カ先代ノ有シタル持分ニ對スル拂戻請求權ヲ出資ト爲シテ會社ニ入社シ會社之ニ同意シタル

トキハ先代ノ有シタル持分ハ消滅シ相續人ハ之ニ依リ新ナル持分ヲ取得シタルモノト解スヘキモノトス

(第七十四條)

『第七十四條』

第五節 解散

○商法第七十四條第七號ニ所謂裁判所ノ命令トハ獨リ同法第四十七條第四十八條ノ命令ノミナラス同法第八十三條ノ規定ニ基ク裁判所ノ判決ヲモ包含スルモノトス

(第八十一條)

『第八十一條』

○商法第八十一條ニ會社カ合併ヲ爲シタルトキハ云云トアルハ同法第七十八條ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ云云トアル其決議ヲ爲シタル時ヲ指スノ法意ニ非スシテ決議ヲ爲シタル後實際合併ヲ爲シタル時ヲ意味スル規定ト解釋セサルヘカラス

(第八十二條)

『第八十二條』

○合併後存續スル會社カ商法第八十二條ノ規定ニ依リ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ義務ヲ承繼スルハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ債權者ヲ保護スルカ爲メニ設ケラレタルモノナレハ公益規定ニシテ一般ニ義務ヲ承繼セサル旨ノ反對決議ヲ爲スモ無効ナリトス

六

一四九八

三四

七

五三

三七

五三

六

七六五

四三

七二

七

二四三

六

二六五



第八十三條

○商法第八十三條ニ依ル會社解散ノ請求ハ會社ニ對シテ爲スヘキモノニシテ個人タル社員ヲ相手取ルヘキモノニ非ス

○合名會社ニ於テ第六節 清算

第八十二條

○民法第七十九條ノ規定ハ株式會社及ヒ株式合資會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用スヘキモノナルモ合名會社及ヒ合資會社ノ清算ノ場合ニハ之ヲ準用スヘキモノニ非ス

○會社ノ清算トハ會社解散ノ場合ニ於テ其現務ヲ結了シ債權ヲ取立テ且債務ヲ辨濟シ若シ殘餘財産アルトキハ之ヲ引渡ス等ノ如キ會社財産ノ處分ヲ指稱セルモノトス

第八十五條、第八十六條

○合名會社ニ於テ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法ヲ定メタルトキハ特ニ清算手續ヲ履ムコトヲ要セサルモノトス

第九十一條

○商法第九十一條第一項第一號ニ所謂現務ノ結了トハ會社解散後ニ於ケル現在ノ事務ヲ結了スルト云フノ意義ニ外ナラス

刑

○酒造合資會社カ業務執行上犯法行爲ヲ爲シ其結末ヲ告ケスシテ解散シタルトキハ清算人ハ之ヲ結了セシムルノ義務アリ從テ税法違犯ノ訴追審理ヲ受クルカ如キモ亦商法第九十一條第一號ノ所謂現務中ニ包含スルモノトス

刑

○商法第九十一條ノ規定ハ專ラ清算人ノ當然ノ職務トシテ爲シ得ヘキ範圍ヲ定メタルニ過キスシテ之ヲ以テ會社清算ノ範圍ヲ限定シタルモノト爲スヲ從テ會社清算ノ範圍ハ法文全體ノ旨趣ヨリ之ヲ推測スヘキモノトス

第九十二條

○會社ノ解散前タルト解散後タルトヲ問ハス會社ニ功勞アル者ニ對シ其報酬トシテ慰勞金ヲ贈與スルカ如キハ會社ノ目的タル事業又ハ清算事務ヲ遂行スルニ必要ナル行爲ナルヲ以テ會社カ當然爲シ得ヘキ行爲ノ範圍ニ屬スルモノトス

第九十二條

○商法第九十二條ニ所謂會社ニ現存スル財産トハ會社財産中ヨリ社員ヲ

第九十二條

○商法第九十二條ニ所謂會社ニ現存スル財産トハ會社財産中ヨリ社員ヲ

六	一〇八
三七	五二三
三五	三八
三九	一〇一〇
四	一九一
三五	一〇一

二	二七〇
二	六二九
六	二二九
二	六二九
三五	一〇一
五	一〇一



シテ出資ヲ爲サシムヘキ債權ヲ取除キタルモノヲ指稱スル文字ニシテ其動産タルト不動産タルト債權タルト將タ又其他ノ財産タルトヲ問ハス會社カ現ニ有スル總テノ財産ヲ包含スルモノトス

○商法第九十二條ニ所謂社員ハ出資義務アル總テノ社員ヲ指稱スルモノトス

○合名會社若クハ合資會社ノ清算人カ商法第九十二條ニ依リ出資ヲ請求スルニハ所要金額ヲ各社員ノ出資義務額ニ按分シ其割合ニ依ルヘキモノトス

第九十四條

○商法第九十四條所定ノ行爲ハ清算人カ其權限ニ基キ會社ヲ代表シテ爲スヘキ行爲ニ非スシテ清算人カ其職務トシテ自ラ爲スヘキ行爲ナリ

第九十五條

○商法第九十五條ニ所謂清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ會社ノ財産ヲ社員ニ分配スルヲ得ストハ會社ハ其負擔スル債務ヲ悉皆償却シタル後ニ非サレハ其財産ヲ分配スルヲ得ストノ意ニシテ相當ノ金額ヲ準備シ置クトキハ負債辨償前ニ在テモ財産ヲ分配スルヲ得トノ律意ニ非ス

第九十三條

○商法第九十三條ニ規定シタル合名會社員ノ責任ハ五年ノ法定期間内ニ會社債權者ヨリ請求ヲ受ケサルトキハ永ク辨濟ノ責任ヲ免ルルト同時ニ其期間内ニ一旦請求ヲ受ケタルトキハ縱令其期間内ニ辨濟ヲ了セザルモ其責任ヲ免ルルヲ得サルモノトス

第三章 合資會社

○合資會社カ其退社員ニ持分ヲ拂戻スヘキ債務ノ履行期ニ付テモ法律ニ之ヲ定ムル所ナキカ故ニ遲滯ノ責任ハ債務者タル會社カ請求ヲ受ケタル時ヨリ生スヘキモノニシテ退社ノ時ヨリ生スヘキモノニ非ス

○合資會社ニ在テハ株式會社ト異ナリ其社員ハ既ニ辨濟期ニ在ル出資義務ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノトス

○合資會社ニ對スル社員ノ出資義務カ會社解散前既ニ辨濟期ニ在リタルトキハ會社ハ同社員ニ對シ純然タル金錢債權ヲ有スルモノナレハ縱令他ニ多少ノ財産アルモ會社債權者ニ於テ該債權ヲ強制執行ノ目的ト爲スニ妨ナキモノトス

(同法)

三四 三 六五

六 二九

六 二九九

四 七五三

三五 六一

四五 一〇五

四 八二四

五 八四一

五 八四一



會社ニ對スル出資金ニシテ既ニ辨濟期ニ在ルモノノ支拂ヲ求ムル權利ハ一ノ債權ニ外ナラス  
シテ其性質讓渡ヲ許ササルモノニ非ス故ニ特別ノ規定ナキ以上ハ會社ニ對スル強制執行ノ目  
的物ト爲スニ妨ナキモノトス

- 商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立シタル合資會社ハ其定款ニ金  
錢貸付業ナル事項ノ存スルト否トヲ問ハス會社ノ目的ヲ遂行スル必要  
上他人ト消費貸借契約ヲ締結シ金錢ヲ貸付ケ又ハ借受クルコトヲ得ル  
モノトス

【第五百五條】

- 合資會社ハ清算中ト雖モ其債務ニ付テハ債權者ノ請求ニ應ジ隨時之カ  
辨濟ヲ爲スヘキモノトス
- 合資會社ノ設立後ニ在リテ會社ト社員及ヒ社員相互間ノ關係ニ於テハ  
定款事項ノ變更ハ總社員ノ同意ノミヲ以テ直ニ其效力ヲ生シ定款ナル  
書面自體ノ更正ヲ必要トスルモノニ非ス
- 會社ハ入社契約ニ因リ入社シタル者ニ對シ完全ニ會社ノ社員タルコト  
ヲ得セシムル義務ヲ負擔スルモノナルヲ以テ其者ニ對シ社員變更ノ登  
記手續ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルモノト解スルヲ相當トス
- 合名會社若クハ合資會社ノ清算人カ商法第九十二條ニ依リ出資ヲ請求  
スルニハ所要金額ヲ各社員ノ出資義務額ニ按分シ其割合ニ依ルヘキモ  
ノトス

三六	三八	五	五	五	五	六
八四二	五〇二	八四二	二九五	八四二	二九四	五五

【第五百六條】

- 會社カ社員登記手續請求事件ノ判決ノ執行トシテ登記ノ申請ヲ爲スニ  
當リ變更シタル定款書ヲ添附スルノ必要アルトキハ會社ニ於テ宜ク總  
社員ノ署名捺印ヲ求メテ定款變更ノ手續ヲ爲シ其新ナル定款書ヲ添附  
シテ登記手續ヲ爲スヘク未タ新ナル定款書ノ作成ナキコトヲ辭柄トシ  
テ該登記手續ノ請求ヲ拒絕スルコトヲ得サルモノトス
- 解散シタル合資會社カ債務ノ辨濟ヲ爲ササルニ拘ハラヌ清算ノ結果殘  
餘財産ヲ生シタリト爲シ社員ニ對シ各其出資額ノ割合ニ應ジ右殘餘財  
産ヲ分配ヲ爲シタルハ違法ニシテ會社ハ分配ヲ受ケタル各社員ニ對シ  
之カ取戻ヲ請求スル權利ヲ有スルモノトス
- 如上會社ノ取戻請求權ハ其債權ヲ組成スルモノニシテ商法第六十三條  
ニ所謂會社財産ニ包含スヘキモノトス
- 合資會社ノ内部關係ニ付テハ第一ニ定款ノ定ムル所ニ從フヘク定款ニ  
別段ノ定ナキ場合ニ於テ商法ノ適用ヲ見ルヘキモノナレハ内部關係ニ  
關スル商法ノ規定ハ補充的性質ヲ有スル任意規定ナリトス
- 合資會社ノ定款ノ變更ハ内部關係ニ屬シ之ニ關スル商法第一百五條第五

六	七	七	七	七	七
二九九	二二五	二四三	二〇六	二〇六	二〇六



○十八條ノ規定ハ强行規定ニ非サレハ定款ニ別段ノ定ヲ爲スモ無効ナリト謂フヲ得ス

○既ニ定款ニ於テ社員總會ノ決議ヲ以テ定款ノ變更ヲ爲スヘキモノト定メタル以上ハ總會ノ決議ニ依リ定款變更ノ效力ヲ生セシメ之ニ拘束セラルヘキコトハ社員ノ豫メ承認セル所ナレハ定款ノ變更カ社員ノ出資ヲ増加シ其責任ヲ加重スルカ如キ不利益ナル場合ナルト否トニ依リテ總會ノ決議カ定款變更ノ效力ヲ生スル場合ト否ラサル場合トヲ區別スヘキモノニ非ス

○合資會社カ無限責任社員ニ對シテ有スル出資請求權ハ一箇ノ財産上ノ權利ニシテ該社員退社ノ一事ヲ以テ消滅スヘキモノニ非ス

○合資會社ノ無限責任社員カ積極的持分ヲ有スルトキハ會社ト社員トノ間ニ計算ヲ爲シタル結果退社員カ積極的持分ヲ有スルトキハ會社ニ對スル債權者トシテ持分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ルモ消極的持分ヲ有スルニ過キサルトキハ會社ニ對スル債務者トシテ出資義務ノ履行ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

〔第一百六條〕

○合資會社ノ定款ニ於テ有限責任社員カ一定ノ出資以外ニ尙ホ金錢其他

〔第一百十二條〕

ノ財産供出ノ義務ヲ負擔スヘキ定ヲ設クルコトハ法律ノ明カニ禁スル所ニ非サルノミナラス又同會社ノ性質若クハ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反セサルヲ以テ有效ナリト謂ハサルヲ得ス

〔第一百十四條〕

○合資會社ノ社員ノ持分ハ社員カ其資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル一切ノ權利義務ヲ指稱スルモノナレハ普通ノ債權ト同視スヘキモノニ非ス

〔第一百十四條〕

○合資會社カ特ニ代表社員ヲ定メタル場合ト雖モ其解散シタル後ニ於テハ無限責任社員ハ各清算人ト爲リ且第三者ニ對シテ各自會社ヲ代表スヘキ資格權能アルモノトス

第四章 株式會社

第一節 設立

○株式會社ノ發起人カ其資格ヲ以テ他人ニ對シ或債務ヲ約スルモ會社ハ必スシモ之ヲ引受ケサルヘカラサルモノニ非ス

○株式會社カ發起人ノ約シタル債務ヲ引受ケタルトキハ發起人ト契約シタル者ハ爾後會社ニ對シテ其履行ヲ請求スルコトヲ得ルモ會社ノ引受

二〇六八

二〇六一

二〇六八

二〇二五

二〇二五

六四七

二四四

四一五

三三〇



ケサル債務ハ會社ニ對シ之ヲ請求スルコトヲ得ス

○數名ノ發起人カ設立費用ヲ負擔シテ會社ヲ設立セントスル行爲ハ組合契約ニ酷似スルヲ以テ之ニ其規定ヲ準用スヘキモノトス

○發起團體ハ會社ノ前身ナルヲ以テ其發起ノ爲メニ生シタル權利義務ハ會社成立シ且之ヲ承認シタル場合ニハ其會社ニ承繼スルヲ當然トス從テ發起團體カ引受證據金及ヒ拂込株金ヲ他ニ預金ト爲シタルトキハ會社ハ直接ニ預金ノ債務者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得

○日本產馬株式會社カ設立ノ準備トシテ爲シタル土地ノ購入費又ハ馬場設置費ノ如キハ寧ロ營業準備費ニシテ設立費用ニ非ス從テ縱令創立總會ニ於テ設立費用トシテ之ヲ承認シタリトスルモ會社ノ負擔ニ歸セシムル效力ヲ生セス

(聯) ○銀行業ノ經營ヲ目的トスル會社ハ其發起並ニ設立ニ付テ銀行條例第二條第一項ニ依ル大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス商法ノ規定ニ從ヒテ完全ニ成立シ得ヘキモノトス

(反對) 株式會社ノ目的ニシテ主務省ノ認可ヲ受クヘキモノナルトキハ發起ノ際先ツ其認可ヲ受ケ而シテ後設立ニ關スル規定ニ從ヒ成立スヘキモノトス

(聯) ○銀行條例第二條第一項ニ依ル大藏大臣ノ認可ハ營業ノ認可ニシテ會社成立ノ要件ヲ成スモノニ非ス

○株式會社ハ發起人カ總株式ノ引受ヲ爲ササル場合ニ於テハ定款作成ノ外株式ノ引受申込ヲ募集シ總株式ノ引受及ヒ其第一回ノ拂込完了シタル上發起人ノ招集シタル創立總會ノ終結ニ因リ成立スヘキモノニシテ引受又ハ拂込ノ完了セサル場合ハ縱令創立總會ヲ招集シ議事ヲ終結スルモ會社ハ成立セサルモノトス

(反對) 株式會社ノ發起人カ商法第百三十一條第一項ノ條件ヲ缺クニ拘ハラヌ創立總會ヲ招集スルトキハ發起人ハ同法第百三十六條所定ノ責任ニ任スヘキモ創立總會カ法定ノ手續ヲ經テ終結スルトキハ會社ハ之ニ因リ完全ニ成立スルモノトス

○株式ノ引受又ハ拂込ノ未済カ會社成立ノ運命ニ影響セサルモノト認ムヘキ場合ハ其未済カ株式總數ニ比シ重要ナラサル場合ニ限ルモノニシテ株式全部ニ付キ引受又ハ拂込ナキ場合ハ勿論殆ト之ト同視スヘキ程

四	三三〇
四	九八二
四	二八二
四	二九九
四	三三〇

二	八四九
四	二九九
六	三三〇
五	一九六
六	三三〇
四	三七



度ノ引受又ハ拂込アリタルニ過キサル場合ノ如キハ縱令創立總會終結スルモ其成立ヲ認ムヘキモノニ非ス

五

一九六

○株式總數ノ引受ナク又ハ株金四分ノ一ノ拂込ヲ了ラサルニ拘ハラヌ創立總會ヲ開キ之カ終結ヲ爲シタル場合ニ於テ會社カ成立スルヤ否ヤハ右株式ノ引受又ハ株金ノ拂込ニ關スル缺陷カ會社資本ノ鞏固ト事業ノ遂行ニ障碍ヲ與フルト否トヲ標準トシテ判定スヘキモノトス

六

三四六

○株式ノ引受又ハ拂込ノ缺陷カ會社資本ノ鞏固ト事業ノ遂行ニ障碍ヲ與フルモノナリヤ否ヤハ會社ノ目的資本ノ總額其他諸般ノ事情ヲ綜合シテ判斷スヘキモノトス

六

三四六

○株式會社設立ノ無効カ發起人ニ於テ株式引受人ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘキ法律上ノ義務ニ違背シタルニ基クトキハ發起人ハ其無効ヲ主張シテ商法第三百三十六條ニ依ル株式拂込ノ義務ヲ回避スル抗辯ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

六

一五八〇

○株式會社ノ設立カ無効ナリヤ否ヤハ創立總會終了ノ時期ヲ標準トシテ判定スヘキモノナレハ株式ノ拂込欠缺ノ爲メニ生スル會社ノ設立無効モ亦此時期ニ於ケル株式拂込額ニ依リテ之ヲ決スヘキモノニシテ其後ニ於ケル拂込額ニ依リテ決スヘキモノニ非ス

七

四五二

○創立總會終了當時ニ於ケル株式ノ拂込額カ全部ノ拂込欠缺ニ準スヘキ程度ノ僅少ノモノナリシトキハ其後ニ於テ尙ホ他ノ株式ニ付キ拂込アリタル旨ノ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ會社發起人ハ之ニ依リ株金

七

四五二

○株金拂込取扱銀行ノ支店長カ株式引受人ヨリ拂込ナキニ拘ハラヌ拂込アリタル旨ノ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ會社發起人ハ之ニ依リ株金拂込アリタルモノト信シ創立總會ヲ召集スヘク會社成立後ハ取締役モ亦之ヲ信シテ拂込ヲ爲ササリシ株式引受人ニ對シ拂込ヲ爲サシムル手續ヲ爲ササルニ至ルヘキヲ以テ之カ爲メニ會社ニ損害ヲ生シタルトキハ斯ル虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ニ於テ其損害ヲ賠償スヘキ責任アルモノトス

七

八九五

○検査役又ハ發起人カ其責ニ任スルハ各其資格ニ基ク義務ヲ盡ササルカ爲メニシテ之ト關係ナキ株金拂込取扱ニ付キ不法行爲ヲ爲シタル者ノ責任ハ検査役又ハ發起人カ責任ヲ負フニ因リ消滅スルモノニ非ス

七

八九五

○株式會社設立ノ爲メノ發起人團體ハ民法上ノ組合ニ外ナラサレハ其業務執行ハ發起人全員ノ共同ヲ以テ爲スヘキモノニシテ一人ノ發起人カ組合ノ爲メ爲シタル行爲ハ他ノ發起人ノ委任アルカ若クハ其結果カ組

(第百十九條)

第百十九條



合ノ利益ニ歸シタルニ非サル限ハ他ノ發起人ニ於テ第三者ニ對シ其責ニ任スヘキモノニ非ス

第二百二十條

○株式會社ノ目的ハ其定款ニ依リテ定マルモノトス從テ手形ノ支拂保證ヲ爲スコトカ株式會社タル銀行ノ目的ノ範圍内ニ在ルヤ否ヤハ其定款所定ノ目的ニ包含スルヤ否ヤニ據リテ之ヲ定メサルヘカラス

○株式會社ノ發起人カ定款ヲ作成シタルモ之ニ署名又ハ記名捺印セザリシトキハ其定款ハ當初ヨリ無効ナルカ故ニ縱令會社カ既ニ登記ヲ經テ其事業ニ著手シ形式上存在スル如キ觀ヲ呈スル場合ト雖モ其設立ハ何等ノ手續ヲ竣タスシテ當然無効ナリトス而シテ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルニ因リテ成立スル會社ナルト否トハ問フ所ニ非ス

○會社定款中ニ具體的ニ記載セラレサルモ其記載セル目的事項中ニ自ら包含セラレタルモノト認メラレ得ヘキモノハ會社目的ノ一部ヲ成スヘキモノナルノミナラス會社ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項ハ定款中ニ記載セサルモ其目的ノ範圍内ニ於ケル會社ノ業務タル性質ヲ有スルモノトス

○會社カ株式會社設立ノ發起人ト爲ルコトヲ得ルヤ否ヤヲ判定スルニハ

七	二四八〇
四〇	九
四二	二〇三
元	一〇七八

先ツ其發起行爲カ定款ニ依リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ包含スルヤ否ヤヲ確定セサルヘカラス

○株式會社設立ノ發起人ハ定款ニ其氏名住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要スルモノナレハ定款ニ發起人トシテ署名セサル者ハ縱令株式會社

ノ設立ニ付キ實際發起人ノ如ク行動シタル事蹟アリトスルモ法律上發起人ト看做スヲ得ス

○株式會社ノ設立ニ際シ事實上發起人ノ如キ状態ニ於テ行動シタル者アルモ其氏名住所ヲ定款ニ記載セス且之ニ署名セサルトキハ其者ハ法律上會社設立ノ發起人ト云フヲ得ス

○株式會社ノ定款ニ發起人トシテ氏名住所ヲ掲ゲタル者ノ中署名又ハ記名捺印セサル者ハ會社設立ノ發起人ニ非サルヲ以テ此等ノ者ヲ除外スルモ尙ホ法定數ノ發起人ヲ缺カス且其署名又ハ記名捺印アルニ於テハ有效ニシテ法律上發起人ニ非サル者ノ氏名住所ヲ掲ゲタレハトテ定款ノ無効ヲ來スヘキモノニ非ス

○商法第二百二十條第七號ハ株主竝ニ其他ノ第三者ヲシテ會社カ法律ノ規定ニ從ヒテ爲スヘキ公告事項ヲ容易ニ知ルコトヲ得セシムルニ在ルカ故ニ其公告方法ハ一定シタルモノナルコトヲ要ス從テ新聞紙ニ掲載ス

二	二七
三	一六
四二	三
五	一八六二



ルヲ以テ公告ノ方法ト爲スニハ一種又ハ數種ノ新聞紙ヲ特定シ若クハ特定セラルヘキ様定款ニ記載スヘキモノトス

〔第二百二十六條〕

○商法第二百二十六條ニ所謂署名トハ自己ノ名ヲ署スルノ義ナルヲ以テ虛無ノ名ヲ署シテ爲シタル株式申込ハ發起人カ之ヲ知ルト否トヲ問ハス絶對ニ無効ナリトス

○株式申込ノ證據金ナルモノハ申込人カ他日株式引受ノ成立シタル場合ニ株金ノ拂込ヲ怠リテ失權シタル場合ニ於ケル違約金トシテ株式引受カ成立セサルトキハ之カ返還ヲ受クヘキ條件ノ下ニ其處分ヲ許シテ發起人ニ寄託スルモノナレハ其所有權ハ拂込ト同時ニ發起人ニ移轉スルモノトス從テ特別ノ約束ナキ限り之ヲ利用シテ得タル利息ヲ返還スルノ義務ナキモノトス

○商法第二百二十六條第二項第三號ニ依ル株式申込證ノ要件タル之ヲ作ルヘキ發起人及ヒ其引受ケタル株式數ハ定款ニ署名又ハ記名捺印シタル發起人及ヒ其引受株數ヲ謂フモノニシテ此要件ヲ具備スル以上ハ他ニ法律上發起人ト稱スヘキモノニ非サル者ヲ發起人トシ及ヒ其引受株數ノ記載アルモ無効ノ株式申込證ニ非サレハ之ニ依リテ爲シタル株式ノ

六

二五九

四

六八五

四

六八五

申込モ亦無効ニ非ス

一八六二

○株式申込證ニ真正ナル定款作成ノ年月日ノ記載ヲ缺クトキハ株式申込ハ無効ナリトス

六

九〇三

〔第二百二十九條〕

○株式引受人ハ株主タル權利ヲ取得スルト同時ニ拂込ヲ爲スノ義務ヲ負擔セルモノトス故ニ株金拂込ノ催告カ二週間ノ期間ヲ存セサル爲メ法律上ノ效力ナキコトヲ理由トシテ未タ拂込ノ義務ナシト云フヲ得ス

三九

二七〇

○株式ノ引受ハ會社設立ノ場合ニ於ケルモノナルト資本増加ノ爲メニスル新株發行ノ場合ニ於ケルモノナルトヲ問ハス商行爲ニ非サルカ故ニ株金拂込義務ニ對スル債權ハ商法第二百八十五條ノ短期時効ニ服スヘキモノニ非ス

四

一八六

○同(五) 株金拂込ノ義務ハ株式引受ニ因リテ生スルモノトス而シテ株式ノ引受ハ商行爲ニ非ス

四三

九三七

〔第三百一十一條〕

○創立總會ハ會社ノ成立前法律ノ規定ニ依リ招集セラレタル株式引受人ヨリ成ル一種ノ組織體ニシテ會社ノ機關ニ非サルカ故ニ特別ノ規定ナキ限り株主總會ニ關スル規定ヲ之ニ準用スヘカラス從テ其選任ニ係ル



取締役及ヒ監査役ノ受クヘキ報酬ノ額ト雖モ之ヲ定ムルノ權限ナキモノトス

二 三三

○創立總會ハ商法第三百三十二條乃至第三百三十五條及ヒ第三百三十八條ニ規定セル事項ノ外株式會社設立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル總テノ事項ヲ決議シ得ルモノトス

四 二二五

○株式會社設立ノ目的カ他人ノ有シタル某屋號ノ老舗ヲ利用シ油ノ製造販賣ヲ爲スニ在ルトキハ其老舗ヲ買收スルハ會社ノ目的ヲ遂行スルニ缺クヘカラサル事項ニ屬シ創立總會カ老舗買收ノ決議ヲ爲スハ有效ノ決議ナリトス

四 二二五

第三百三十六條

○商法第三百三十六條ニ依ル發起人ノ義務ハ會社ノ資本充實ヲ期スル爲メ發起人ニ課シタル法律上ノ義務ニシテ保證債務ノ如キ從タル性質ヲ有スルモノニ非スシテ獨立ナル一箇ノ義務ナリトス  
○商法第三百三十六條ハ單ニ會社ト發起人間ノ關係ノミヲ規定シタルモノナレハ同條ニ依リ會社カ發起人ニ對シ義務ノ履行ヲ請求スルニハ拂込未濟ノ金額ヲ確定スレハ足り其拂込未濟ノ株主ノ何人ナルカヲ特ニ明示スルノ必要ナキモノトス

六 一〇四五

第四百一十條

○株式會社設立ノ無効カ發起人ニ於テ株式引受人ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘキ法律上ノ義務ニ違背シタルニ基クトキハ發起人ハ其無効ヲ主張シテ商法第三百三十六條ニ依ル株式拂込ノ義務ヲ回避スル抗辯ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

六 一五八〇

(參照)

商法第四百十條ノ規定ニ依リ株式引受人ニ付與セシ申込ノ取消權ハ創立總會ノ終結ニ因リテ會社成立シタル後ハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス

四五 三三二

第四百一十一條

○株式會社設立ノ登記ヲ爲スニ當リ各株式ニ付キ少クモ四分ノ一ノ金額ヲ拂込マサレハ其登記ハ適法ナラス然レトモ之カ爲メ當然無効ニ歸スヘキモノニ非サレハ苟モ登記ノ取消サレサル間ハ會社ノ法人資格ハ他人ニ對抗スルコトヲ得

三三 二

○商法第四百一十一條及ヒ第五十三條ノ二週間ノ期間ハ監査役ニ當選シタル者ノ承諾ヲ竣テ後始メテ起算スヘキモノニ非ス決議ノ日ヨリ起算スヘキモノトス  
○會社カ公告ヲ爲スヘキ方法トシテ管轄區裁判所ニ於テ商業登記事項ヲ

三四 七 三七



○公告ヲ掲載スヘキモノトシテ指定シタル新聞紙ヲ選擇スルニ當リ該新聞紙數種アリテ其内一種又ハ數種ヲ選擇セントセハ必ス其選擇ノトスル新聞紙ヲ特定シ之ヲ定款ニ規定シ其登記ヲ受クヘキモノトス

○商法第四百十一條第二項ノ規定ニ依リ株式會社ニ準用スヘキ同第五十一條第二項ニ所謂會社設立後支店ヲ設ケタルトキトハ株主總會ニ於テ新ニ支店ノ設立ヲ決議シタルトキヲ謂フニ非スシテ其決議後現實支店ノ開設アリタルトキヲ指スモノトス

○商法第六十七條ノ二及ヒ第八十九條ハ定款ニ定メタル員數ノ取締役又ハ監查役カ新任就職スル迄ハ法律上取締役又ハ監查役ノ退任就任ト爲ラサル旨ヲ定メタルモノニ非サルヲ以テ苟モ其退任若クハ就任ノ事實アルニ於テハ縱令其員數カ定款ノ定ムル所ニ満たサルモ取締役又ハ監查役ノ退任就任ニ外ナラサレハ其變更登記ヲ爲スヘキモノトス

○同一ノ者カ任期滿了ノ際取締役ニ再選セラレタルトキハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ定ナキ場合ト雖モ法律上取締役ノ變更アリタルモノト云フヘク從テ登記事項中ニ變更ヲ生シタルモノトス

○同一ノ者カ監督役ニ再選セララルルモ是レ全ク改選ノ結果ニシテ即チ監督役ニ變更アリタルモ

○同一ノ者カ監督役ニ再選セララルルモ是レ全ク改選ノ結果ニシテ即チ監督役ニ變更アリタルモ

第四百四十二條

○銀行業ノ經營ヲ目的トスル會社カ銀行條例第二條第一項ノ認可ヲ拒マレタルトキハ目的タル事業ノ成功不能ニ因リ解散スヘキモノニシテ會社不成立トシテ商法第四百四十二條ノ三ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

○商法第四百四十二條ノ三ノ規定ハ商法中改正法律ヲ以テ設ケタルモノナリト雖モ施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ適用セララルモノトス

第二節 株式

○名義書換又ハ質入等ヲ委任スル事項ノミノ記載アリテ年月日及ヒ宛名ノ記載ナキ委任狀ヲ添附シ以テ記名株券ノ輾轉流通ヲ爲ス商慣習ハ違法ニ非ス

○記名株券ニ白紙委任狀ヲ添附シ之ヲ他人ニ委付スルニ於テハ其株券ハ委任狀ト相待テ輾轉流通スル慣習ノ存スル以上ハ縱令直接ノ當事者間ニ於テ秘密契約ヲ爲シ或場合ニ於テノミ白紙委任狀ヲ利用シテ株券ヲ處分スルコトヲ許シタル場合ト雖モ善意ニシテ且過失ナキ第三者カ慣習ニ從ヒ該株券ニ付キ取得シタル權利ハ該秘密契約ニ基キ之ヲ攻撃ス

三四七

三四九

三六二

三五九

三五七

三五五

三五二

三五〇

三二六

三二五

三二四







○株主カ第三者ニ株式ヲ讓渡シタル場合ニ於テ會社ニ對シ其讓渡前ニ株  
 金拂込ノ催告ヲ受ケタル金額ニ付キ履行ノ責ニ任スヘキ旨ノ特約ヲ爲  
 ○スモ斯ル特約ハ商法規定ノ會社ト株主又ハ讓渡人トノ關係ヲ左右スル  
 モノニ非サレハ株金拂込ノ確實ヲ期スル商法ノ主旨ニ戾ルコトナク又  
 公序良俗ニ反スル所ナキヲ以テ無効ニ非ス

○記名株式讓渡ノ場合ニ於ケル名義書換ノ用ニ供スヘキ白紙委任狀ハ其  
 儘株券ト共ニ他ニ轉讓セラルルコトヲ豫期シ交付セラルルヲ通例トス  
 ルモ他ノ場合殊ニ消費貸借及ヒ保證契約締結ノ場合ニ於ケル白紙委任  
 狀ハ其儘他ニ轉讓セラルルコトヲ豫期セズ其受取人ヲシテ代理人ヲ選  
 定セシメ委任狀ヲ補充セシムル意思ヲ以テ交付セラルルコト通例ナル  
 ヲ以テ記名株式讓渡ノ場合ニ於ケル白紙委任狀ト同一ニ之ヲ論スヘキ  
 モノニ非ス

○民法第四百六十七條ノ規定ハ株券發行前ノ株式ノ移轉ニ適用アルモノ  
 トス

○株式會社ハ其解散ノ前後ヲ問ハズ株主ニ對シ株金拂込ノ義務ヲ免除ス  
 ルコトヲ得サルモノトス

○株式會社ノ或營業年度終了ノ時ニ株主タリシ者ト雖モ株主總會前其株

二  
 二六五  
 九八  
 一八六

〔第四百四十四條〕

○主トシテ有スル權利全部ヲ讓渡シタルトキハ會社ニ對シ其營業年度ノ  
 利益配當ヲ請求スル權利ヲ有セス

○株主ハ營業年度ノ終了後株主總會前ト雖モ總會ノ決議ヲ條件トスル利  
 益配當請求權ノミヲ讓渡シ又ハ該請求權ノミヲ留保シテ株式ヲ讓渡シ  
 得ルモ株式讓渡ノ際當事者間何等ノ特約ナキトキハ利益配當請求權モ  
 亦讓受人ニ移轉スルモノトス

○商法第四百四十四條第二項ノ規定ハ會社ノ資本充實ノ爲メ現實拂込ヲ爲  
 サシムル必要ニ基因シタルモノナレハ株式讓渡人カ負擔セル株金辨濟  
 ノ義務ヲ履行スル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○商法第四百四十四條第二項ノ規定ハ會社資本ノ充實ヲ期スル必要ニ基因シタルモノナレハ株式  
 讓渡人カ其負擔セル株金辨濟ノ義務ヲ履行スル場合ニ於テモ亦同項ノ制限ニ羈束セララルルモ  
 ノトス

○商法第四百四十五條  
 ○商法第四百四十五條第二項ノ本文ハ株金ノ分割拂込即チ一般ノ場合ニ關  
 スル規定ニシテ其但書ハ一時拂込ノ場合ノミニ關スル規定ナレハ前者

五  
 二四七  
 二四七  
 九三七  
 六元



ハ原則ニシテ後者ハ例外ナリトス  
 ○商法第四十五條第二項但書ニハ一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合トアリテ將來拂込ヲ爲スヘキ場合タルコトヲ示スニ過キサレハ五十圓以上ノ株式金額ニ付キ既ニ拂込ヲ爲シタル場合ヲモ包含セシムルノ旨趣ニ非ス

〔第四百四十六條〕

○株式共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金拂込ノ義務ヲ負フモノナレハ縱令共有者カ株主權ヲ行使スヘキ者ヲ定メサル場合ト雖モ會社カ其一人ニ對シ商法第一百五十二條ノ手續ヲ踐ミタルモ尙ホ拂込ヲ爲ササルトキハ共有者全員ニ對シ失權ノ效果ヲ生スルモノトス

〔第四百四十七條〕

○株券ハ株主權ヲ表彰スル有價證券ナレトモ商法第二百八十二條ノ所謂金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ該當セス  
 ○會社設立登記前ノ株式讓渡ニ關スル給付ハ公ノ秩序若クハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ニ原因シルタルモノト云フヲ得ス  
 ○商法第四百十九條但書ノ規定ハ登記前ニ於テ株式ノ讓渡又ハ其讓渡ノ

〔第四百四十九條〕

豫約ヲ許ストキハ株式ヲ投機ノ具ニ供スル弊害ヲ生シ兼ネテ又會社ノ基礎ヲ危クスルノ虞アルカ故ニ之ヲ豫防スルノ旨趣ニ出ツルモノトス  
 從テ株式引受ノ未タ確定セサル場合ト雖モ該但書ノ適用ヲ妨クルコトナシ

〔第四百五十條〕

○株式名義書換ノ停止ハ株主ノ變更ニ依リ會社ニ生スヘキ事務ノ混雜ヲ避クル手段ニ外ナラサレハ其停止期間中ト雖モ會社ニ於テ任意ニ名義書換ヲ爲スコトヲ妨クルモノニ非ス  
 ○記名株式ノ讓渡ニ際シ之ニ名義人ノ白紙委任狀ヲ添附シタルトキハ其直接取得者ノミナラス第三取得者ト雖モ該白紙委任狀ニ代理人ノ氏名ヲ補充シ以テ名義書換ヲ爲スコトヲ得ルハ商慣習上認めラルル所ナリトス  
 ○白紙委任狀附記名株式ノ取得者カ其株式名義ヲ自己ニ書換ヲ爲スニ當リテハ必スシモ添附セラレタル白紙委任狀ニ依ルコトヲ要セサルヲ以テ白紙委任狀ノミカ喪失其他ノ事由ニ依リ無効ニ屬シタルカ如キ場合ニ於テハ株式取得者ハ白紙委任狀ニ依ラス他ノ方法ニ依リ名義書換ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

三 一一九

三 一一九

四 一七六

四 一七六

五 一七六

四 一七六

四 一七六

五 一七六

五 一七六

六 一七六

七 一七六

七 一七六

七 一七六



○株式ノ移轉ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ如何ナル要件ヲ必要トスルヤ  
ハ畢竟移轉ノ效力ニ關スル事項ナルカ故ニ特別ノ法規若クハ事情ノ存  
セサル限り移轉當時ノ法律ニ遵フヘキモノトス

(參照)

會社カ株券ノ名義ヲ書替ユルハ株券ノ真正ナルコトヲ保證スルニ非スシテ株主ノ變更ヲ承認  
スルニ過キス

○商法第五十條ノ規定ハ記名株式ノ讓渡人若クハ讓受人ハ同條ノ手續ヲ了セサレハ會社及ヒ  
其他ノ第三者ニ對シ讓渡行爲ノ效力ヲ利用シ得サル旨趣ヲ聲明シタルニ外ナラスシテ會社及  
ヒ其他ノ第三者ノ爲メニ其行爲成立セサルノ趣意ニ非ス

○株式會社ハ商法第五十條ノ手續未了前ト雖モ記名株式ノ讓渡人ニ對シテ讓渡行爲ノ存在ヲ  
主張シ以テ自己ノ利益ヲ防護スルノ權利ヲ有スルモノトス

○商法第五十條ノ規定ハ絕對的規定ナルカ故ニ苟モ記名株式ノ讓渡ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗  
スルニハ如何ナル場合ニ於テモ同條所定ノ手續ヲ踐ムコトヲ要ス

○記名株式讓受人ノ氏名住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載スルコトハ讓受人カ會  
社其他ノ第三者ニ對抗スル條件ニ過キサルヲ以テ商法第五十三條第三項ノ規定ニ從ヒ株式  
ノ競賣ヲ爲シタル者カ不足額ヲ請求スルニハ右ノ手續ヲ履ムヲ要セサルモノトス

○記名株式ノ讓渡ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルニハ會社カ其讓渡ヲ承認シタル場合ト雖  
モ讓受人ノ氏名住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載スルコトヲ要スルモノトス

○記名株式カ相續ニ因リ相續人ニ移轉シタル場合ニ於テモ商法第五十條ノ舊規定ニ準據シ其  
手續ヲ履踐スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

【第五百十二條】

○催告トハ特ニ之ヲ領受スヘキ人ニ對シ發スヘキモノニシテ公告ト同視  
スヘキニ非ス故ニ特殊ノ規定若クハ意思表示アラサル限ハ公告ヲ以テ  
催告ニ代フルコトヲ得ス

○株式會社カ其解散前ニ於テ既ニ株主ニ對シ株金ノ拂込ヲ適法ニ催告シ  
タル以上ハ株主ハ會社ニ對シテ其義務ヲ履行スヘキ地位ニ在ルモノト  
ス故ニ其後會社カ解散ニ因リ清算ノ時期ニ移ルモ之カ爲メ株主ノ地位  
ニ變動ヲ來スヘキモノニ非ス

(刑)

○株金ノ拂込ハ必ス現金ヲ以テスルコトヲ要シ約束手形ノ如キ債權ヲ以  
テスルコトハ商法ノ認許セサル所トス

○株式會社カ株主ヲシテ株金ヲ拂込マシムルニ當リ催告ヨリ二週日ヲ經  
過セル以後ニ拂込期日ヲ指定シ以テ拂込ノ期間ト爲スニ於テハ商法第  
百五十二條ノ要件ヲ具備シタルモノトス而シテ其期間ニ付テハ民法ノ  
期間計算法ニ從フヘキモノナルモ之カ爲メ同條ノ猶豫日數ニ變更ヲ來  
スヘキモノニ非ス

○株金拂込ノ催告ハ各株主ニ對シ二週間前ニ之ヲ行フコトヲ要ス從テ該

四五

四一九

三五

五三

三七

五九四

三六

二七一

三六

一〇一五







トハ失權ノ效果ノ發生ニ何等ノ影響ヲ及ボササルモノトス

○株式會社ノ爲シタル失權通知ノ效力カ改正商法施行前ニ發生シタル以上ハ會社ハ商法第五百二十二條第三項第五百十三條ノニ依リテ株主權喪失ニ關スル公告ヲ爲ス義務ヲ負フモノニ非ス

○商法第五百二十二條第三項ノ公告ハ株式ノ上ニ權利ヲ有スル第三者ヲシテ豫メ株主ノ失權スルコトアルヘキコトヲ知ラシメ其失權ニ因リテ被ムルコトアルヘキ不利益ヲ避クルノ機會ヲ得セシムル爲メ會社ニ要求シタル手續ニ外ナラサルモノトス

○『第五百十三條』

○株主ノ權利トハ株式即チ義務ヲ包括スル一種ノ權利ヲ指稱スルニ外ナラサレハ株主ニシテ其權利ヲ失フ以上ハ株式ニ付キ何等ノ關係ナキニ至リ其結果株主タル資格ヲ喪失スルモノトス

○商法第五百十三條ノ規定ハ拂込ノ義務ヲ怠リタル株主ニ對スル制裁ナルヲ以テ其株式ハ當然會社ニ歸屬スルモノトス故ニ競賣ノ結果滯納金額ヲ控除シテ餘剩ヲ生シタル場合ニ於テ會社カ其金額ヲ利得スルハ畢竟法律ノ規定ニ因ルモノナレハ之ヲ目シテ不當利得ト云フヲ得ス

○株式會社カ現株主以外ノ者ニ對シ株金ノ拂込ヲ請求スルノ權ハ商法第

二〇九八

一六六八

二〇九八

三三

三三四

三三四

四五四

二〇九八

百五十二條及ヒ第五百十三條ノ手續ヲ踐ミタル後同條所定ノ株式讓渡人竝ニ從前ノ株主ニ對シテノミ存スルモノトス

○株式會社カ商法第五百二十二條ノ手續ヲ踐ムモ株主ニ於テ尙ホ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ當然株主タルノ權利ヲ失ヒ其株式ハ一旦會社ノ有ニ歸スルモノトス從テ同法第五百十三條ニ基ク競賣ノ讓渡人ハ會社ニシテ從前ノ株主ニ非ス

三六

六三七

三六

六三七

（同法）

○商法第五百十三條第一項ハ會社カ同法第五百二十二條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ株主ヲシテ會社ノ利益ノ爲メニ其株式ヲ失ハシメ而シテ會社ハ其各讓渡人ニ對シ拂込ノ催告ヲ爲シ最先ノ拂込者ニ其株式ヲ取得セシメ若シ其各讓渡人カ拂込ヲ爲ササルトキハ之ヲ競賣ニ付スル目的ヲ以テ一時之ヲ取得スルモノト解釋スルヲ相當トス

○株式會社カ商法第五百二十二條ノ手續ヲ踐ムモ株主ニ於テ株式ノ拂込ヲ爲ササル場合ニハ其株主タル權利ヲ失却スト雖モ該株式ヲ競賣シ尙ホ滯納金存スルトキハ從前ノ株主ハ其義務者タル地位ヲ脱却スルコトヲ得ス即チ從前負擔シタル株式拂込ノ債務不履行ノ地位ニ在ルヘキ法意ナリトス

三六

三三四

三六

九五四



○シトキハ會社ハ其株主ニ對シテ法定ノ手續ヲ履踐シタリト主張スルコトヲ得ス從テ其株主ハ拂込ヲ爲ササルモ之カ爲メニ當然失權ヲ來スヘキモノニ非ス

○株金拂込ノ催告ニシテ定款所定ノ期間ヲ存セサルカ爲メ無効ト爲リタル以上ハ縱令第二回ノ催告ハ有效ニシテ且株主カ之ニ應セザリシトスルモ株主權喪失ノ效果ヲ生スルコトナシ

○株式會社カ商法第五百二十二條ノ規定ニ依リ株主ニ對シ株金拂込ノ催告ヲ爲シタルモ株主之ニ應セサル場合ニ於テ強制執行ノ手段ニ據リ其株主ヲシテ株金ノ拂込ヲ爲サシムルト將タ之ヲ失權セシムルトハ一ニ會社ノ自由ニ屬スルモノトス

○株式共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金拂込ノ義務ヲ負フモノナレハ縱令共有者カ株主權ヲ行使スヘキ者ヲ定メサル場合ト雖モ會社カ其一人ニ對シ商法第五百二十二條ノ手續ヲ踐ミタルモ尙ホ拂込ヲ爲ササルトキハ共有者全員ニ對シ失權ノ效果ヲ生スルモノトス

○株式讓渡人ノ負擔スヘキ擔保ノ責任ハ株式會社ノ平常ノ場合ハ勿論破産ノ場合ニ於テモ亦商法第五百二十二條及ヒ第五百二十三條ノ規定ニ依テ之ヲ定メサルヘカラス

○記名株式ニ對シ質權ヲ設定シタル場合ニ於テハ其質權ノ目的タル權利

ハ株主ノ權利ナルヲ以テ商法ノ規定ニ依リ株主タル權利喪失シタル以

上ハ質權モ亦之ニ因リテ當然消滅スヘキモノトス

○株主カ商法第五百二十二條ノ催告及ヒ通知ヲ受クルモ株金ノ拂込ヲ爲サ

サルトキハ當然株主タル權利ヲ失フト同時ニ株主タル資格ハ消滅スル

モ之カ爲メ既ニ生シタル延滞株金拂込ノ義務ヲ免ルルヲ得サルモノト

ス

○株主カ商法第五百二十二條第一二項ニ依リ適法ナル拂込ノ催告及ヒ失權

豫告ノ通知ヲ受ケ乍ラ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ同第五百二十三條第

一項ニ依リ右通知ニ定メタル期間ノ滿了ト同時ニ當然株主タル權利ヲ

喪失スルモノニシテ會社ニ於テ第五百二十二條第三項ノ公告ヲ爲スト否

トハ失權ノ效果ノ發生ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス

○商法第五百二十三條第一項ニ所謂前條ニ定メタル手續トハ同第五百十二

條第一二項ノ手續ヲ指シ同條第三項ノ公告手續ノ如キハ之ニ包含セザ

ルモノト解スルヲ相當トス

○商法第五百二十三條第三項ニ於ケル讓渡人ノ負擔スヘキ擔保ノ責

任ハ會社ニ於テ其前條ノ手續ヲ履踐シ株主カ適法ニ其權利ヲ失却シタ

四〇  
九二一

四〇  
一〇五四

四二  
五六五

四四  
六六四

三六  
二一八六

四  
二二六

五  
一六六七

七  
二〇九六

七  
二〇九六



ル場合ニ到着シテ始メテ發生スルモノトス故ニ此手續ニ從ハサルトキハ縦令強制執行其他ノ方法ニ依リ株主ノ支拂不能ノ事實確定スルモ之ヲ以テ讓渡人ノ責任發生スルコトナシ

○商法第百五十三條第二項ニ所謂二週間ヲ下ラサル期間ハ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發シタル日ヨリ起算スヘク其催告ノ到達シタル日ヨリ起算スヘキモノニ非ス

○株式ノ讓渡人カ會社ニ對シ株金拂込ノ責任ヲ負擔スルハ讓受人以下ノ後者ノ會社ニ對スル株金拂込ヲ擔保スル義務アル結果ニシテ此責任ハ現在株主カ拂込ヲ爲ササルカ爲メニ商法第百五十二條ニ依リ失權シタル時ニ端ヲ發シ會社ヨリ第百五十三條第二項ノ拂込催告アリタルニ因リテ現實ニ發生スルモノトス

○株式會社カ失權株主ノ株式ヲ賣却スルニ當リ競賣法ノ規定ニ依ラサルトキハ縦令賣却代金ノ滯納金額ニ滿タサルコトアルモ株式讓渡人ニ對シテ其不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ス  
○商法第百五十三條第三項ノ規定ニ依リ株式讓渡人カ會社ニ對シ株金ノ不足額ヲ辨濟スヘキ義務ハ數人相次テ株式ノ讓渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ各讓渡人平等ノ割合ヲ以テ之ヲ負擔スルモノニ非スシテ各自其不

足額全部ニ付キ辨濟ノ責ニ任スヘキモノトス

(同義)

株式カ相次テ數回讓渡セラレタル場合ニ於テ會社ニ對シ讓渡人ノ負擔スル債務ハ一ノ擔保義務ニ外ナラズト雖モ民法ニ謂フ保證人ノ債務ト異ナリ分割義務ニ非スシテ全部義務ナリトス

○株式讓渡人カ商法第百五十三條第三項ノ規定ニ依リ競賣不足額ヲ辨濟スル債務ハ株金辨濟ノ義務ニシテ損害賠償ノ義務ニ非ス

○商法第百五十三條第三項ニ所謂競賣トハ競賣法ノ規定ニ依ルヘキモノヲ指稱シ之ニ據ラサル競賣ハ當然無効ナリトス而シテ其無効ハ何人ト雖モ之ヲ主張スルコトヲ妨ケス

(同義)

株式會社カ商法第百五十三條第三項ニ依リ失權株主ノ株式ヲ處分スル場合ニハ競賣法ノ規定ニ據ラサルヘカラス然ラサレハ其競賣ハ全然無効ニシテ法律上何等ノ效力ヲ有セサルモノトス

○競賣法第八條ニ違背シテ競賣ノ場所及ヒ日時ヲ利害關係人ニ通知セサル事由ハ單ニ異議ノ原因タルニ過キササルヲ以テ株式競賣人カ利害關係人ニ對シ之カ通知ヲ爲ササリシトテ株式不足額ヲ請求スル妨ケト爲ラ

四〇 一六五

三七 一三七

四三 一六九

四三 一三七

三九 一四六

四五 六

三六 一六六

四五 一六六

六 一六七

三九 一四六

四 一三六







○會社カ辨濟ヲ請求スル場合ニハ其遲延利息ヲ損害賠償トシ又ハ競賣ノ費用等ヲ損害賠償トシテ請求スルコトヲ妨ケストノ法意ナリ

○商法第五十三條第一項ニ依リ株主タル權利ヲ喪失セシ者ニ對シ會社カ拂込ノ履行ヲ求メスシテ損害賠償トシテ未拂込ノ金額等ヲ請求スルハ法律ノ許ササル所ナリ

○株式會社ノ定款ヲ以テ豫定シタル株金拂込ニ關スル損害賠償額ハ會社ニ生シタル損害ノ賠償金額ト看做スヘキモノニシテ株金ノ拂込ト其性質ヲ同ウセズ

『第五十三條ノ二』

〔第五百十三條ノ二〕

○株式會社ノ爲シタル失權通知ノ效力カ改正商法施行前ニ發生シタル以上ハ會社ハ商法第五十二條第三項第五十三條ノ二ニ依リテ株主權利喪失ニ關スル公告ヲ爲ス義務ヲ負フモノニ非ス

○失權通知後ノ請求手續カ假處分命令ニ依リテ延期セラレ改正商法施行後ニ於テ實行セラタリトスルモ之カ爲メニ會社ハ如上公告ノ義務ヲ負フモノニ非サレハ其公告ナキヲ理由トシテ會社ノ爲シタル株式競賣手續ヲ違法ナリト主張スルコトヲ得サルモノトス

〔第五百十四條〕

○株式讓渡人ハ其讓渡ヲ株式名簿ニ記載シテヨリ二年ヲ經過シタル後競賣不足金辨濟ノ請求ヲ受ケタリトスルモ既ニ同期間内ニ拂込ノ催告ヲ受ケタル以上ハ右辨濟ノ責任ヲ拒否スルコトヲ得サルモノトス

〔同項〕

○株主カ失權シタル場合ニ於テ株式讓渡人カ讓渡ノ後未タ二年ヲ經過セサル間ニ會社ヨリ株金拂込ノ催告ヲ受ケタルトサハ右讓渡人ノ責任ハ二年ヲ經過スルモ消滅セサルモノトス  
○株主カ失權シタル場合ニ於テ株式讓渡人カ讓渡後未タ二年ヲ經過セサル間ニ會社ヨリ株金拂込ノ催告ヲ受ケタルトキハ右讓渡人ノ責任ハ二年ヲ經過スルモ消滅セサルモノトス從テ讓渡人ニ對スル株金不足額請求事件ニ付キ單ニ其不足額辨濟ノ請求カ讓渡後二年内ニ爲サレザリシコトヲ理由トシテ原告ニ敗訴ヲ言渡シタル判決ハ違法ナリ

〔反對〕

○株式會社カ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年以内ニ讓渡人ニ對シ商法第五十三條第二項ノ催告ヲ爲シタル一事ハ以テ同法第五十四條ノ法定期間ノ内外ヲ問ハズ會社カ讓渡人ニ對シ競賣不足額ノ辨濟ヲ請求シ得ヘキ證據ト爲スニ足ラス  
○株式ノ讓渡ヲ株式名簿ニ記載シタル後二年以内ニ會社カ商法第五十三條第三項ニ從ヒ競賣不足額辨濟ノ催告ヲ爲シタル以上ハ其訴訟ノ提起ハ縱令辨濟催告ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シ又ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル日ヨリ二年以上ヲ經過シタル後ニ在ルモ讓渡人ハ同法第五十四條ノ免責ノ利益ヲ受ケルコト能ハス

三九	四〇	三九	三八	五	四四	六	七	四三	四〇	三
五四五	一四二九	五四五	一四二九	一四五	一六四	一六七	一六八	九三七	二九三	九五四







〔第六十一條〕

キサルヲ以テ商法第百五十六條第二項ノ所謂決議スヘキ事項ニ該當セス

○株主總會ノ決議ハ會社意思ノ表現ナルヲ以テ會社ノ他ノ機關及ヒ株主カ其決議ニ拘束セラルル法律上ノ關係ハ私法的法律關係ニ外ナラス而シテ右法律關係ノ成立若クハ不成立ノ確定ヲ求ムル訴ハ即時ニ之ヲ確定スルニ付キ權利上利益アルトキニ限り之ヲ許スヘキモノトス

○官吏カ公法上ノ規定ニ依リ職務ヲ行フ場合ニ於テハ公法上別段ノ規定アルニ非サレハ其權限ヲ證スヘキ書面ノ提出ヲ必要トセス從テ代理權證明書ノ提出義務ニ關スル私法上ノ規定ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス

〔第六十三條〕

○商法第百六十三條ハ株主總會ノ決議カ總會招集ノ手續又ハ決議ノ方法ニ於テ法令又ハ定款ニ反スル場合ニ之カ無効宣言ヲ請求スルコトヲ許シタル規定ナレハ總會ノ決議カ其内容ニ於テ法令又ハ定款ニ違背シ當然無効ナル場合ニ適用スヘキモノニ非ス此場合ニ於テ各株主カ其無効ヲ主張スル訴權アリヤ否ヤハ一般ノ原則ニ依リ之ヲ解決セサルヘカラス

〔參照〕

株主總會ニ於テ出席株主カ其權利數以外ノ投票ヲ爲シ又ハ正當ノ委任狀ヲ有セサル者カ投票ヲ爲シタル場合ニ於テ此等ノ投票ヲ無効トシ又ハ除却シタリトテ株主權ノ行使ヲ妨害スルモノニ非サレハ之カ爲メ總會ノ決議ヲ無効トスヘキ理由ナシ

株式會社ノ總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ不法ナルノ故ヲ以テ總會ノ決議ヲ無効ト爲スニハ舊商法ニ依リタルモノナルト新商法ニ基キタルモノナルトヲ問ハテ無効タルハ宣告ヲ受ケサルヘカラス

株主總會ニ於テ株主ニ非サル者及ヒ其代理人ニ非サル者カ決議ノ數ニ加ハリタルトキハ商法第百六十三條ニ所謂決議ノ方法カ法令ニ反スル場合ニ外ナラサレハ之ヲ原因トシテ總會決議ノ無効ヲ確定セントスル株主ハ同條ノ規定ニ依リテ訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘシ

商法第百六十三條ニ該當スル株主總會ノ決議ト雖モ裁判所ノ無効宣告アル迄ハ有效ニ存立スルモノトス

株主總會ヲ招集スルニ當リ或株主ニ通知ヲ發セサルトキハ其株主ノミナラス他ノ總テノ株主總會ノ決議無効ノ宣告ヲ請求シ得ルモノトス

商法第百六十三條ニ規定セル株主總會ノ決議ハ裁判所ノ宣告ヲ待テ始メテ無効ト爲ルモノナレハ現ニ解散ノ狀態ニ在ル會社ニ對シテハ清算人ヲ會社ノ代表者トシテ其決議無効ノ請求ヲ爲スヘキモノトス

會社カ株主總會ヲ招集スルニ當リ株主ノ一部ニ對シテ其通知ヲ發セサルトキハ商法第百六十三條ノ所謂總會招集ノ手續カ法令ニ反スル場合ニ外ナラス故ニ斯ノ如キ總會ノ決議ハ絕對ニ無効ナルモノニ非スシテ株主ヨリ其無効宣告ヲ請求シ裁判所ノ宣告ヲ待テ始メテ之カ無効ヲ

三九	二六
三五	一九
三八	五〇
四〇	一〇
四二	二五〇
四三	二五〇

商法 會社 株式會社 會社ノ機關 株主總會



主張シ得ルモノトス

會社カ株主總會ヲ招集スルニ當リ或株主ニ通知ヲ發送セサルトキハ縱令其株主カ總會ニ出席シタル場合ト雖モ該總會ノ決議ハ商法第百六十三條第一項ノ規定ニ依リ無効トシテ宣言セラ

〔第百六十三條ノ二〕

(參照)

商法第百六十三條ニ於テ總會ノ決 效ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ株主ニ許シタル規 定ハ株主ノ取消權ヲ認メ之ニ基キ 取消ヲ爲サシムルモノナルコトハ同條第二項ニ於

〔第百六十二條ノ三〕

(參照)

舊商法施行中ニ提起シタル訴訟ニ對シ商法第百六十三條第三項ノ規定ヲ適用シタル裁判ハ不 法ナリ

商法第百六十三條第三項ノ株券ヲ供託スヘキ條件ハ訴ノ要件ナルヲ以テ之ヲ爲ササルトキハ 其訴訟ハ不成立ニ歸スルモ起訴ト同時ニ之ヲ爲サスシテ訴訟ノ進行中何時ニテモ其手續ヲ爲

第二款 取締役

○株式會社ノ支配人カ其財産ヲ費消シタルトキハ會社ハ損害ヲ被フリタ

ノ請求權發生スルモノトス而シテ費消者ノ資力ヲ有無如何ニ依リ此請 求權ニ何等ノ消長アルモノニ非ス

○株式會社ニ支店アリテ或取締役カ專ラ其事務ヲ擔當スヘキ場合ニ於テ 監督不行届ニ因リ會社ニ損害ヲ生シタルトキハ其取締役ニ於テ之ヲ賠 償セサルヘカラス

○社長ナル名稱ハ民法商法其他ノ法律ニ於テ特ニ認メラレタル稱呼ニ非 サレトモ我國ノ取引上慣用セラルル一種ノ熟語ニシテ會社ノ主席取締 役ヲ意味スルモノトス

○破産シタル株式會社カ協諾契約ヲ爲スニ當リ其會社ヲ代表スル者ハ取 締役タルヘキヲ以テ從前ノ取締役缺ケタルトキハ破産手續中ト雖モ株 主總會ハ之ヲ選任シ得ルモノトス

○取締役カ破産會社ヲ代表シテ協諾契約ヲ提供スルニ付キテハ別段ノ規 定ナキ限り特ニ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要セス

○株式會社ノ取締役ハ他人ニ同會社ノ事務一切ヲ經營處理セシムルノ代 理權ヲ授與スルコトヲ得サル旨ノ法則ナキモノトス

〔第百六十四條〕

○株主總會ニ於テ株主中ヨリ選任セラレタル取締役ハ商法第百六十八條

四二 五二四

四三 一五一

四四 三〇〇

四五 三六三

四六 四〇〇

四五 一〇一

四二 二九

四三 八二九

四四 八三三

四五 一三六

四六 一三六

四七 八二二



ノ株券ヲ供託スルト否トニ拘ハラズ取締役ノ任務ヲ有效ニ行フコトヲ得ルモノトス

○株式會社ノ株主總會ニ於ケル取締役選任ノ決議ハ單獨行爲ナルカ故ニ被選者ノ受諾就任ヲ竣ツコトナク其決議ノミニ因リテ直ニ選任ノ效力ヲ生スルモノトス

(同主旨)

株式會社ノ株主總會ニ於ケル取締役ノ選任決議ノ效力ハ委任關係ヲ生スルモノニ非ス故ニ其效力ハ被選任者ノ承諾ヲ俟タズシテ發生スルコト勿論ナリ

〔第六十六條〕

(參照)

明治四十四年商法中改正法律施行前ノ商法第六十六條及ヒ第八十條ノ規定ハ取締役又ハ監査役ノ任期滿了後ニ至ルモ株主總會カ更ニ其改選ヲ爲ササル場合ニ於テ前取締役又ハ監査役カ其職務ニ屬スル會社ノ業務ヲ執行スルコトヲ禁止シタルモノニ非スシテ後任者ノ就職スルマテ仍ホ取締役又ハ監査役ノ權利義務ヲ有セシムル法意ナリトス

〔第六十七條ノ二〕

○商法第六十七條ノ二及ヒ第八十九條ハ定款ニ定メタル員數ノ取締役又ハ監査役カ新任就職スル迄ハ法律上取締役又ハ監査役ノ退任就任ト爲ラサル旨ヲ定メタルモノニ非サルヲ以テ苟モ其退任若クハ就任ノ

〔第七十條〕

事實アルニ於テハ縱令其員數カ定款ノ定ムル所ニ滿タサルモ取締役又ハ監査役ノ退任就任ニ外ナラサレハ其變更登記ヲ爲スヘキモノトス

○法人ノ代表者數人アリ各自單獨ニテ法人ヲ代表スル權限ヲ有スル場合

○ニ於テハ甲代表者法人ヲ代表シテ第一審ノ訴訟行爲ヲ爲シタリトスルモ乙代表者ハ法人ヲ代表シテ控訴ヲ爲シ得ルモノトス

○商法第七十條第一項ニ依リ株式會社カ取締役中會社ヲ代表スヘキ者ヲ定ムルニハ定款又ハ株主總會ニ於テ代表者其人ヲ特定スルコトヲ要スルモノト解スルヲ相當トス

(刑)

○株式會社ノ取締役ハ會社ノ目的タル營業ノ範圍ニ於テノミ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモノナルカ故ニ右權限ノ行爲ニ付テハ會社ノ人格ヲ代表スルコトヲ得サルモノトス

○株式會社ハ民法第四十四條第一項ノ準用ニ依リ取締役カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任スヘシト雖モ會社ノ支配人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任スルモノニ非ス

○會社カ支配人ノ選任及ヒ監督ニ付キ注意ヲ怠リタルトキハ民法第七百

三	1010
四	1691
五	155
五	256
五	1009
六	690

三	198
三	100
三	307
三	899
五	1010



○十五條ニ依リ其他ノニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任スヘク同十四條第一項ノ準用ニ依リテ責ニ任スヘキモノニ非ス

(參照)

民法第四十四條第一項ノ規定ハ商法第七十條ニ依リ株式會社ノ取締役ニ準用スヘキモノナルカ故ニ取締役カ被用者ノ選任又ハ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ怠リ因テ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ法人タル會社ニ於テ其責ニ任スヘキモノトス  
取締役ハ會社ノ營業科目ニ關スル事項ニシテ自己ノ權限ニ屬スルモノニ非サレハ和解ヲ爲スコトヲ得ス

(刑)

株式會社ノ取締役ハ行爲能力ヲ有セサル會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スル法定代理人ナリ  
株式會社ノ取締役ハ會社ノ業務ニ關シ一切ノ裁判上裁判外ノ行爲ニ付キ各自ニ會社代表ノ權限ヲ有スルモノナレハ訴訟事件ノ法定代理人タリシ取締役カ上告提起ノ當時偶代理權ヲ喪失スルモ他ニ取締役アルトキハ訴訟手續ヲ中斷スヘキモノニ非ス

(第百七十二條)

○商法第七十二條ニハ株主カ拂込ミタル株金額等ヲ株主名簿ニ記載スルニ付キ其時期ノ定ナケレハ事實遲滞ナク之ヲ爲スコトヲ要スルノ旨趣ナリトス從テ此等ノ記載ニ付キ遲滞アル以上ハ其原因ノ如何ヲ問ハス商法第二百六十一條ノ制裁ヲ免レサルモノトス  
『第百七十二條ノ二』

(第百七十二條ノ二)

(第百七十六條)

○會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所ニ宛テ之ヲ發送スヘク縱令其住所ニ變更アルモ會社ニ其變更ノ通知ヲキ限ハ依然株主名簿記載ノ住所ヲ以テ株主ノ住所ト看做シ其住所ニ宛ツルヲ以テ足ルモノトス  
『第百七十六條』

○商法第七十六條ニ於ケル第三者ノ爲メニスル場合中ニハ取締役カ私法上ノ代理人トシテ會社 取引ヲ爲ス場合ノミナラス公法上ノ市町村長トシテ市町村ヲ代表シ會社ト取引ヲ爲ス場合ヲモ包含スルモノトス

○商法第七十六條ハ取締役カ會社ニ對シテ有スル債權ニ付キ債權者ノ交替ニ因ル更改ヲ爲スカ如キ場合ニモ其適用アルモノトス

○商法第七十六條ノ承認ハ監査役自ラ之ヲ爲スヲ要シ他人ヲシテ代理セシムルコトヲ得サルモノトス

○商法第七十六條ノ承認ハ監査役カ數人アル場合ト雖モ其一人ニ於テ爲スヲ以テ足ルモノトス

○商法第七十六條ニ依リ監査役ノ承認ヲ得ルハ會社ト取引ヲ爲ス取締役ノ法律上ノ義務ニ屬シ相手方タル會社ヲ代表スル他ノ取締役又ハ支配人ノ義務ニ屬セサルモノトス

六

六九〇

三

三三三

三

三三八

三

三三六

四

一五五

三

一五〇

三

三五二

三

一七〇

四

一七三

四

一七六

五

一九八

七

一四四



○監査役ノ承認ヲ得サルニ因ル取引無効ノ結果第三者ノ被ムリタル損害

ハ取引當事者タル取締役カ法律上ノ義務ニ違反シテ監査役ノ承認ヲ得

サルニ原因スルモノニシテ會社ヲ代表シタル他ノ取締役又ハ支配人カ

監査役ノ承認ヲ得サルニ原因スルモノトシテ之ニ損害賠償ノ責ヲ歸ス

ルコトヲ得サルモノトス

(參照)

○株式會社ノ取締役カ監査役ノ承認ヲ得スシテ自己ノ爲メ會社ト取引シタルトキハ其行爲ハ當

然無効ニ屬スヘキモノニ非スト雖モ會社ハ之カ取消ヲ求ムルノ權チ有スルモノトス

○商法第七十六條ハ民法第八條ト其精神ヲ同ウスレトモ同條ノ例外規定ニ非サルヲ以テ取

締役カ自己又ハ第三者ノ爲メ會社ト取引ヲ爲ス場合ニ於テハ縱令自ラ其會社ヲ代表セザルト

キト雖モ監査役ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

○株式會社ニ二人以上ノ取締役アル場合ニ於テ縱令商法第七十六條ノ規定ニ遵由モサル者ア

リトスレモ他ノ取締役カ適法ニ會社ヲ代表シテ爲シタル行爲ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケザル

ヘキモノニ非ス

○商法第七十六條ニ所謂監査役ノ承認トハ一切ノ取引ヲ爲スコトヲ豫メ承認スト云フカ如キ

概括的ノ承認ヲ指スモノニ非スシテ特定ノ取引ニ付キ殊ニ與ヘラレタル承認ヲ指スモノト解

釋セザルヘカラス

○取締役カ商法第七十六條ノ規定ニ背戾シテ會社ト取引ヲ爲シタル場合ト雖モ其行爲ハ當然

無効ニ屬スルモノニ非ス會社ニ於テ之ヲ取消スノ意思ヲ表示シ始メテ其效力ヲ失フモノトス

○故ニ若シ會社カ其取引ヲ有効トシ之ニ因テ取得セル權利ノ實行ヲ求ムルトキハ其相手方タリ

シ取締役又ハ第三者ハ該取引ノ無効ヲ主張シ以テ會社ノ請求ヲ拒ムコトヲ得ス

○株式會社ノ取締役カ會社ヲ代表シ一個人タル自己ニ宛テ手形ヲ振出シタルトキハ同一ノ法律

行爲ニ付キ相手方ノ代理人ト爲リタルモノニシテ其手形行爲ハ無効ナリトス

○商法第七十六條ハ株式會社ノ取締役ノ職ニ在ル者カ自己又ハ第三者ノ爲メ會社ト取引ヲ爲

ス場合ヲ規定シタルモノニシテ取締役カ一面會社ヲ代表シ一面自己ノ資格ヲ以テ一箇ノ法律

行爲ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノニ非ス

○株式會社ノ取締役カ監査役ノ承認ヲ經スシテ自己ノ爲メ會社ト取引ヲ爲シタルトキハ其行爲

ハ當然無効ニ非スト雖モ會社ハ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

○商法第七十六條ハ株式會社ノ取締役カ自ラ會社ヲ代表セスシテ會社ト取引スル場合ヲ規定

シタルモノニ外ナラス從テ取締役カ一面會社ヲ代表シ一面其相手方ト爲リ會社ト取引ヲ爲シ

タルトキハ縱令監査役ノ承認ヲ得ルモ其取引ハ全然無効ナリトス

○株式會社ノ取締役カ商法第七十六條ノ規定ニ違背シテ爲シタル取引ハ取消シ得ヘキ行爲ニ

非スシテ無効ノ行爲ナリトス

○株式會社カ其取締役ノ一人ニ對シ約束手形ヲ振出スニ當リ該取締役ニ於テ監査役ノ承認ヲ得

サリシトキハ其所持人ノ取締役タルト被裏書人タルトナ問ハス又被裏書人ノ善意ナルト否ト

ヲ分タス會社ハ常ニ手形ノ無効ヲ主張シテ支拂ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

(第七十七條)

○會社ノ營業ノ範圍ニ屬セサル行爲ノ實行カ縱令會社ノ利益ニ歸スヘカ

【第七十七條】

三七	九五六
三六	一〇七
三六	一三五
三六	二九四
三六	九二六
三六	九二六

(第六十條)

○故ニ若シ會社カ其取引ヲ有効トシ之ニ因テ取得セル權利ノ實行ヲ求ムルトキハ其相手方タリ

シ取締役又ハ第三者ハ該取引ノ無効ヲ主張シ以テ會社ノ請求ヲ拒ムコトヲ得ス

○株式會社ノ取締役カ會社ヲ代表シ一個人タル自己ニ宛テ手形ヲ振出シタルトキハ同一ノ法律

行爲ニ付キ相手方ノ代理人ト爲リタルモノニシテ其手形行爲ハ無効ナリトス

○商法第七十六條ハ株式會社ノ取締役ノ職ニ在ル者カ自己又ハ第三者ノ爲メ會社ト取引ヲ爲

ス場合ヲ規定シタルモノニシテ取締役カ一面會社ヲ代表シ一面自己ノ資格ヲ以テ一箇ノ法律

行爲ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノニ非ス

○株式會社ノ取締役カ監査役ノ承認ヲ經スシテ自己ノ爲メ會社ト取引ヲ爲シタルトキハ其行爲

ハ當然無効ニ非スト雖モ會社ハ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

○商法第七十六條ハ株式會社ノ取締役カ自ラ會社ヲ代表セスシテ會社ト取引スル場合ヲ規定

シタルモノニ外ナラス從テ取締役カ一面會社ヲ代表シ一面其相手方ト爲リ會社ト取引ヲ爲シ

タルトキハ縱令監査役ノ承認ヲ得ルモ其取引ハ全然無効ナリトス

○株式會社ノ取締役カ商法第七十六條ノ規定ニ違背シテ爲シタル取引ハ取消シ得ヘキ行爲ニ

非スシテ無効ノ行爲ナリトス

○株式會社カ其取締役ノ一人ニ對シ約束手形ヲ振出スニ當リ該取締役ニ於テ監査役ノ承認ヲ得

サリシトキハ其所持人ノ取締役タルト被裏書人タルトナ問ハス又被裏書人ノ善意ナルト否ト

ヲ分タス會社ハ常ニ手形ノ無効ヲ主張シテ支拂ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

三七	九五六
三六	一〇七
三六	一三五
三六	二九四
三六	九二六
三六	九二六



而モ會社ノ存立ヲ保護スルニ必要ナリトスルモ又株主總會ノ議決ニ因リタルモノトスルモ將タ又後日株主總會ノ承認ヲ經タルモノナリトスルモ仍ホ之ヲ以テ取締役カ會社ノ代表機關トシテ爲シタル行爲ナリト云フヘカラス

○株主總會カ會社ノ資産ヲ會社ノ營業範圍ニ屬セサル事項ニ使用スルコトヲ議決スルモ全然違法ニシテ議決トシテ效力ナキモノナレハ其議決ノ執行トシテ右資産ヲ不法ノ用途ニ費消シタル取締役ハ株主總會ノ議決ニ藉口シテ其責ヲ免ルルヲ得ス

○取締役ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ法律上負擔セル會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査スヘキ任務ヲ有スルモノナレハ此義務ニ違背シ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ定款ニ專務又ハ常務取締役選任ノ規定アリテ直接會社ノ常務ニ干與セサル取締役ト雖モ之ヲ執掌シタル他ノ取締役ト共同ノ任務懈怠ニ基クモノトシテ會社ニ對シ連帶シテ之カ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

(參照)

株式會社ノ取締役カ會社ノ營業科目ヲ誤テ汎博ニ登記シタル場合ト雖モ其營業科目ハ依然定款ニ定メタルモノニ外ナラサレハ取締役カ定款ニ反シ營業科目ニ屬セサル行爲ヲ爲シタルト

(刑)

キハ會社ハ之ニ關シ責任ヲ有セス  
株式會社ノ業務執行ニ關シ不法行爲アル場合ニ於テハ其行爲ニ與リタル者ヲミ之カ責ニ任スヘキモノトス  
株式會社ノ取締役カ會社ノ機關及ヒ其法定代理人トシテ之ニ對シ種種ノ義務ヲ負擔スルハ契約關係ニ非スシテ法律ノ規定ニ基ク一種ノ義務ナリトス故ニ取締役カ此義務ニ違背シ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ其賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

(第七十九條)

○創立總會ハ會社ノ成前法律ノ規定ニ依リ招集セラレタル株式引受人ヨリ成ル一種ノ組織體ニシテ會社ノ機關ニ非サルカ故ニ特別ノ規定ヲキ限リ株主總會ニ關スル規定ヲ之ニ準用スヘカラス從テ其選任ニ係ル取締役及ヒ監査役ノ受クヘキ報酬ノ額ト雖モ之ヲ定ムルハ權限ナキモノトス

(第八十條)

○株式會社ノ監査役ハ會社ノ機關ニシテ會社ノ雇人ニ非ス  
○附左「第八十條」  
(參照)

(第八十條)

明治四十四年商法中改正法律施行前ノ商法第六十六條及ヒ第八十條ノ規定ハ取締役又ハ監査役ノ任期滿了後ニ至ルモ株主總會カ更ニ其改選ヲ爲ササル場合ニ於テ前取締役又ハ監査

三七 六三六

三六 三二六

三二 二九

三三 三三三

三三 一三七

三三 八六六

四四 一〇九

四三 六二六

四二 一〇九

四一 一〇九

四〇 一〇九

三九 三七九

三八 六三六



後カ其職務ニ屬スレ會社ノ業務ヲ執行スルコトヲ禁止シタルモノニ非スシテ後任者ノ就職スルマテ仍ホ取締役又ハ監査役ノ權利義務ヲ有セシムル注意ナリトス

〔第百八十五條〕

○株式會社ノ監査役ハ取締役差支ノ場合ニハ其代理ヲ爲シ且取締役ニ對スル訴訟ニ付キ會社ノ代表スルコトアルモ會社ニ關スル訴訟ノ成蹟ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ニ非ス

〔第百八十九條〕

○商法第六十七條ノ二及ヒ第百八十九條ノ定款ニ定メタル員數ノ取締役又ハ監査役カ新任就職スル迄ハ法律上取締役又ハ監査役ノ退任就任ト爲ラサル旨ヲ定メタルモノニ非サルヲ以テ苟モ其退任若クハ就任ノ事實アルニ於テハ縱令其員數カ定款ノ定ムル所ニ滿タサルモ取締役又ハ監査役ノ退任就任ニ外ナラザレハ其變更登記ヲ爲スヘキモノトス

第四節 會社ノ計算

〔第百九十二條〕

○株式會社ノ取締役ニ貸借對照表ノ公告ヲ命シタル規定ハ當ニ其會社ニ既存ノ關係ヲ有スル者ノ爲メノミナラス一般公衆ノ利益ヲモ保護センカ爲メニ設ケタルモノナルヲ以テ苟モ取締役及ヒ監査役ノ過失ニ原因

〔第百九十條〕

シテ右規定ニ反スル虛偽ノ公告アリタル爲メ他人ニ損害ヲ及ホシタルトキハ商法中ノ改正規定施行前ニ在リテハ民法第七百九條ノ規定ニ依リ不法行為ノ責ニ任セサルヘカラス

○株式會社タル銀行ニ始メテ預金ヲ爲サントスル者ハ貸借對照表ノ公告ヲ自ラ見タルト否トニ關セス其公告ニ原因シテ生シタル信用聲價等ニ信賴シテ取引ヲ爲スニ至ルハ世間普通ノ情狀ナルヲ以テ右公告ト預金行為トノ間ニ因果關係ナカリシ事情アリトセハ之ヲ主張スル者ニ於テ立證ノ責ニ任セサルヘカラス

〔第百九十三條〕

○株式會社ノ取締役カ定時總會ニ於テ商法第九十條ニ掲ケタル書類ヲ提出シ且其故意又ハ過失ニ因リテ生シタル損失ヲ報告シ總會ノ承認ヲ受ケタルトキハ會社ニ對スル責任ハ不正行為アリタル場合ヲ除ク外之ニ因リテ解除セララルモノトス從テ會社カ損害賠償ニ關スル取締役ノ責任ヲ免セサラシメント欲スルトキハ總會ニ於テ承認ヲ與ヘサルカ又ハ斯ノ如キ場合ト雖モ依然其責任ヲ負フヘキ旨ヲ特約セシムルコトヲ要ス

○株式會社カ取締役ヲシテ如上ノ特約ヲ爲サシメタル後之ヲ定時總會ニ

五 八九九

三三 三三七

二 〇二八

三六 三五六

四五 四五四

四五 四五四

三元 一三七







○商法第九十八條ニ依ル検査役選任ノ申請事件ニ付テハ其検査役ノ調査ヲ受クヘキ會社ハ該事件ノ相手方ニ非ス故ニ其決定ノ當事者表示ノ部ニ會社ヲ表記セサルモ不法ニ非ス

三九

六九一

○商法第九十八條ハ會社解散前ニ關スル規定ニシテ會社解散シタルトキハ同條ノ規定ニ依リ検査役ヲ選任スヘキモノニ非ス

四三

一〇九

○少數株主カ商法第九十八條ノ權利ヲ行使スルニ付テハ何等ノ條件ノ定メナケレハ裁判所ハ検査役選任ノ申請ヲ受ケタルトキハ申請者カ果シテ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ナルヤ否ヲ調査シ苟モ之ニ該當スルトキハ會社財産ノ狀況危殆ナラサルコト或ハ其他ノ理由ヲ以テ検査役ノ選任ヲ拒否スルコトヲ得サルモノトス

七

一五二

(同旨)

商法第九十八條ハ検査役選任ノ請求ニ付キ一モ條件ヲ附スルコトナケレハ裁判所ハ請求者カ果シテ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ナルヤ否ヲ調査シ若シ之ニ該當スルニ於テハ會社財産ノ狀況危殆ナラサルコト或ハ其他ノ理由ヲ以テ該請求ヲ拒否スルノ權ナシ從テ會社ハ其検査役選任ノ裁判ニ因リテ權利ヲ害セラレタルト云フヲ得ス

三九

一三九

第六節 定款ノ變更

○株式會社カ負擔スル賣買代金支拂ノ債務ト將來増資ニ因ル株式ノ引受

(第二百十二條ノ二)

ヨリ生スヘキ拂込債務トヲ相殺スヘキ旨ヲ約スルハ會社カ株金拂込ノ請求權ヲ沮止スル結果ヲ生スルヲ以テ無効ナリトス

四五

一六一

(第二百十三條)

○物の出資ヲ爲スノ約束ヲ以テ増資株式ヲ引受ケタルニ非シテ物的出資ヲ爲スト同一ノ結果ヲ惹起スヘキ契約ハ商法カ特ニ物的出資ニ付キ嚴重ナル規定ヲ設ケタル旨趣ニ反スルヲ以テ無効ナリトス

四五

一六一

○商法第二百十三條ニ因リ招集シタル株主總會ハ會社創立ノ際ニ於ケル創立總會ニ比視スヘキモノナルヲ以テ新株引受人ハ如上株主總會ノ後ニ於テハ株式總數ノ引受アリタル後一年內ニ第一回ノ拂込終ハラサル事實ヲ理由トシテ其申込ヲ取消スコトヲ得ス

四五

三七二

(第二百十七條)

○株式會社カ適法ノ手續ニ依ル株主總會ノ増資決議ヲ經テ増資ニ關スル登記ヲ本店所在地ニ於テ爲シタルトキハ有效ニ新株券ヲ發行シ得ヘク各新株ニ付キ爲シタル第一回拂込カ無効ニ歸スル場合アリトスルモ之カ爲メニ適法ニ發行シタル新株券ノ無効ヲ來スヘキモノニ非ス

七

七四九

(第二百十九條)

『第二百十九條』

商法 會社 株式會社 定款ノ變更







(第二百二十八條)

人換價處分等ヲ爲スモ無効ニ非ス

『第二百二十八條』

○清算人ハ株主總會ノ決議ニ從フコトヲ要スルモノナルモ法令又ハ定款ニ違反スルカ如キ當然無効ナル決議ニ從フノ義務ナシ故ニ清算人ニ於テ株主總會ノ決議ヲ無効ト認メ其執行ヲ拒絕スルモ之ヲ以テ直ニ商法第二百二十八條第二項ニ所謂重要ナル事由ト認ムルコトヲ得ス

(第二百三十二條)

『第二百三十二條』

○商法第二百三十二條第一項ニ所謂事業ハ株式會社カ定款ヲ以テ自己ノ目的ト定メタル事業ヲ意味スルモノトス

○會社カ定款ヲ以テ定メタル事業本來ノ範圍ニ屬スル行爲ニ著手シタル場合ハ勿論其事業ノ遂行ニ必要缺クヘカラサルモノニシテ之ニ依リ事業ノ經營ニ關スル會社ノ意思活動ヲ確認スルコトヲ得ヘキ行爲ニ著手シタル場合ニ於テモ商法第二百三十二條第一項ニ所謂事業著手ニ該當スル行爲ヲ爲シタルモノト解スルヲ相當トス  
○會社ノ開業トハ會社カ現ニ其目的タル營利行爲ヲ爲スコトヲ意味シ又其準備トハ營利行爲ニ接著スル諸般ノ準備行爲ヲ爲スコトヲ意味スルモノニシテ營利行爲及ヒ設備構成ヲ目的事業トスル會社カ其事業ノ一

部ヲ遂行シ又ハ其事業ノ一部タル設備構成ノ遂行ニ密接ノ關係ヲ有シ必要缺クヘカラサル行爲ヲ爲シテ法律上事業ノ著手アリト言ヒ得ルモノトハ其意義ヲ異ニスルモノトス

○特定ノ地域ニ電氣軌道ヲ敷設シ運輸業ヲ經營スル會社カ軌道ノ線路敷地ニ該當スル部分ノ土地ヲ購入シタル事實アルトキハ其土地ノ購入カ電氣軌道敷設工事ノ認可以前ナルト否トヲ問ハズ軌道敷設ニ密接ノ關係ヲ有シ必要缺クヘカラサルモノナレハ同會社ハ事業ニ著手シタルモノトス

○既ニ事業ニ著手シタル株式會社ノ設立ヲ無効ナリト主張スルニハ商法第二百三十二條第一項ニ依リ株主等カ訴ヲ提起シテ設立無効ノ判決ヲ受ケタル事實在ルコトヲ要スルモノトス  
○會社ノ株主取締役監査役カ訴ヲ提起シテ設立無効ノ判決ヲ受ケタル事實ナキ以上株式會社ノ設立ハ無効ナリトノ主張ハ事業著手前ニ於テハ適法ナリト雖モ口頭辯論終結前ナリトモ既ニ事業著手ノ事實發生シタルトキハ法律上許スヘカラサルモノトス

(第二百三十四條)

『第二百三十四條』

○株式會社ノ清算人ニ更迭アリタルカ爲メ前任清算人解任ノ登記ヲ爲ス

二 五三〇

二 六八六

七 二八六

七 二八九

七 二八九

七 二八九

七 二八九

七 二八九



○ 會社ノ清算人カ其職務ノ遂行上必要ナルトシテ會社ヲ代表シテ爲シタル金員消費貸借ニ付キ連帶保證債務者ト爲リタルモノハ縱令清算人ノ受領シタル金員カ清算ニ使用セラレサリシトスルモ契約締結當時清算人カ之ヲ其職務外ニ使用スヘキ真意ヲ有シタルコト及ヒ債權者カ其真意ヲ知リ又ハ知リ得ヘカリシコトヲ立證シ得サル限ハ其責ニ任スヘキモノトス

○ 株式會社ノ清算結了シタル旨ノ登記アル場合ト雖モ實際會社ノ財産ニ屬スル債權殘存スルトキハ清算結了ノ實ナキヲ以テ會社ハ未タ絶對ニ消滅シタルモノト謂フヲ得ス

○ 株式會社ノ清算人カ商法第二百三十四條及ヒ第九十二條ニ基キ株主ニ對シ株金ノ拂込ヲ請求スル場合ニ於ケル拂込額ハ嚴ニ會社ノ資産ト負債ノ對照上生スル不足額ヲ限度トシテ割當ツルコトヲ要スルモノニ非スシテ其拂込以後清算結了迄ニ要スヘキ費額ヲモ見積リ未拂株金額ノ範圍内ニ於テ相當ナル拂込額ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス

○ 會社ノ清算ノ場合ニ清算人ノ催告ニ應シテ債權者カ爲ス請求ノ申出ハ裁判外ノ請求ニ外ナラサレハ知レタル債權者ナルト否トヲ問ハス請求ノ申出ヲ爲シタルトキハ其債權ノ時効ハ之ニ因リテ中斷セラレヘキモノトス

三 四三  
三 四二  
四 四五  
四 六五  
四 九三

○ 會社ノ清算ノ期間ハ前任清算人解任ノ日ヨリ起算スヘキモノトス

○ 裁判所カ株式會社ノ數人ノ清算人ヲ選任シタル場合ニ於テ會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メヌ又ハ數人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メサルトキハ各清算人ハ法定期間内ニ前任清算人解任ノ登記ヲ爲スヘキ責務アルモノナルヲ以テ若シ其登記ヲ怠リタル事實アルニ於テハ各清算人ハ商法罰則ノ適用ヲ免レサルモノトス

○ 商法第九十八條ノ規定ハ清算ノ場合ニ之ヲ準用シ検査役選任ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○ 會社ノ清算人カ民法第七十九條第三項ノ準用ニ依リテ爲ス催告ハ債務存在ノ事實ヲ認ムルニ出ツルモノナレハ其債務ノ原因數額等一切ノ事實ニ對スル承認ノ效力ヲ生セスト雖モ時効中斷ノ效力ハ之ヲ生スルモノトス

○ 會社ノ清算人カ其職務ノ遂行上必要ナルトシテ會社ヲ代表シテ爲シタル行爲ニ付テハ其行爲自體清算ノ目的ノ範圍ニ屬セサル場合又ハ清算人カ其職務ノ遂行上不必要ナルニ拘ハラヌ之ヲ必要ナリトセル場合ニ相手方カ清算人ノ真意ヲ知リ又ハ知リ得ヘキ場合ノ外會社自ラ第三者ニ對シ其責ニ任スヘキモノトス

四 九三  
五 三六  
五 一九八  
六 一八五



(參照)

解散シタル株式會社ト雖モ其清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ササルヘカラス

民法第七十九條ノ規定ハ株式會社及ヒ株式合資會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用スヘキモノナルモ合名會社及ヒ合資會社ノ清算ノ場合ハ之ヲ準用スヘキモノニ非ス

解散シタル株式會社ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ商法第五百二十二條及ヒ第五百十三條ノ規定ヲ準用シ得ルモノトス

清算中ニ在ル會社ニ對シ訴訟ニ依リ其解散ニ關スル決議ノ無效ヲ確認セシメントスルニハ清算人ヲ會社ノ代表者ト爲スヘク此場合ニ於テ清算人ハ其職務權限ヲ以テ會社ノ代表者タルヘキモノトス

會社ノ破産手續ハ他ノ場合ニ於ケル清算ト多少ノ差異アルモ其實質ハ清算ニ外ナラス從テ株金拂込ニ關スル手續ノ如キ破産法ノ規定セサル事項ニ付テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第九十二條ヲ適用スヘキモノトス

破産ノ手續ニハ清算ノ目的モ亦包含スルヲ以テ株式會社カ破産シタル場合ニ於テハ商法第二百三十四條ニ依リ同第九十二條ノ規定ヲ準用シ得ルモノトス

株式會社ノ清算人カ其就職ノ日ヨリ二个月ヲ經過シタル後債權申出期間ヲ定メテ催告スルハ法律ノ認メサル所ニシテ又一且適法ニ定メタル期間ハ爾後之ヲ變更スルコトヲ許ササルモノトス

清算中ノ會社ト雖モ其債務ノ履行ニ付キ必要ナリトスルトキハ株金拂込ノ請求ニ關スル規定ニ從ヒ株主及ヒ株式讓渡人ニ對シテ其權利ヲ實行スルコトヲ得

株式ノ讓渡ハ會社解散後ニ於テモ之ヲ爲シ得ルモノナルヲ以テ其讓渡アリタル場合ニ於ケル名義書換ノ請求ニ對シ之カ書換ヲ爲スハ清算人ノ職務ノ一タル現務ノ終了ニ屬ス

株式會社清算ノ場合ニ於ケル拂込請求ハ必スシモ拂込ヲ爲ササル總テノ株主ニ對シテ裁判上ノ請求若クハ競賣手續ヲ爲スコトヲ要セス株主ニシテ無資力ト確認シ得ラルル者ハ之ヲ除外シ他ノ資力アル者ノミニ對シ之カ請求ヲ爲スヲ妨ケサルモノトス

三四	五	一四九
三五	八	三八
三七		一〇三七
三八		五六
三九		一〇一〇
四〇		一六六九
四三		六一〇
四三		九三七

第六章 外國會社

(第二百五十五條)

〔第二百五十五條〕

○商法第二百五十五條ハ外國會社ノ法人タルト否トヲ區別セサレハ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社カ其本國法ニ於テ法人タラサル場合ニ於テモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社カ商法ノ規定ニ依リ日本ニ於ケル代表者ヲ定メタルトキハ其者ハ會社ノ營業ニ付キ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ有シ其日本ニ設ケタル支店ノ營業ニ關スルト外國ニ在ル本支店ノ營業ニ關スルトヲ論セス會社ノ營業全部ニ付キ代表權ヲ有スル法定ノ代理人ナリトス

○外國會社カ日本ニ設置セル一支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル代表者ハ日本全國ニ對シテ代表權ヲ有ス從テ内國中他ノ地方ニ於テ更ニ支

四四		五六九
四四		八五八
三六		五〇六
三六		一七五











○銀行及ヒ商人間ニ信用ヲ開ク爲メ汎ク行ハルル根抵當ハ有效ナリ  
 ○金銭ノ貸借ハ商業ノ爲メニスルカ又ハ其貸借ヲ營業トスル爲メ他ヨリ  
 金銭ノ借入ヲ爲スカ如キ場合ニ在ラサレハ之ヲ民法行爲ト認ムヘキハ  
 當然ナリ

○銀行カ金圓預ケ人ニ對シ其印章ヲ押捺セル預金通帳ヲ持參スル者ニ支  
 拂ヲ爲スヘキコト及ヒ該印影ノ盗用ニ係ルモノナルヤ否ヤヲ調査スル  
 義務ナキコトヲ特約スルハ違法ニ非ス

○株金拂込ノ義務ハ株式引受ニ因リテ生スルモノトス而シテ株式ノ引受  
 ハ商行爲ニ非ス

○手形ノ受取人タル者カ會社ノ取締役トシテ締結シタル保證義務ハ民法  
 第百八條ニ依リ無効ナリト雖モ其無効ハ個人トシテノ受取人ニ及フニ  
 止マリ其他ノ手形權利者ニ對スル會社ノ保證義務ニ何等ノ影響ヲ及ホ  
 スモノニ非ス

○手形債務ノ保證人カ一定ノ手形債務ヲ保證スル旨ヲ記載シテ二債權者  
 ヲ指名セサル證書ヲ手形債權者ニ交付シタルトキハ其交付以後ニ於テ  
 手形上ノ權利ヲ取得シタル者全員ニ對シテ保證ヲ爲スノ意思ヲ表示シ  
 タルモノニシテ其保證契約ハ手形權利者ト爲リタル者ノ承諾ト同時ニ

直ニ成立スルモノトス

○商事債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ハ商事債務ノ變形シタルニ過キサレ  
 ハ當事者ノ特約ニ基クトキト雖モ商事ニ屬スルヲ以テ利息制限法第五  
 條ノ規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

○當事者カ信用契約ニ依リ取引ヲ爲ス場合ニ於テ貸越ノ限度ヲ定メタル  
 トキハ與信者ハ其限度以上貸越ヲ爲ス義務ナキコトヲ意味スルニ止リ  
 之ヲ超エテ貸出スコトヲ得サルモノト解スヘキモノニ非ス從テ其限度  
 ヲ超エテ貸越ヲ爲ス場合ニ於テモ當事者カ該信用契約ニ依リテ取引ヲ  
 爲ス意思ヲ有スル以上ハ之ヲ以テ信用契約ニ基ク取引ト爲スニ妨ナキ  
 モノトス

(第二百六十三條)

『第二百六十三條』

○取引所市場ニ於ケル綿糸ノ賣買ヲ仲買人ニ委託スル行爲ハ其買建ニ付  
 テハ利益ヲ得テ讓渡スル意思ヲ以テ代金ヲ支拂ヒテ綿糸ヲ取得シ賣建  
 ニ付テハ其取得シタル綿糸ヲ讓渡スルヲ目的トスルモノナルヲ以テ商  
 法第二百六十三條第一號ニ該當スル商行爲ナリトス

(第二百六十四條)

『第二百六十四條』

○芝居茶屋業ハ商行爲ナリ

商法 商行爲 總則

三	五	六	六	五	三
九	六	二	二	六	五
五	六	二	二	六	五

三	四	三	三	三	三
九	九	九	九	九	九
七	七	七	七	七	七



第十四條  
第二百六十四條

○商法第二百六十四條第八號ニ所謂銀行取引トハ法令ノ規定ニ依リ銀行ニ於テ行フ所ノ法律行爲ノ義ニシテ即チ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ若クハ諸預リ及ヒ貸付ヲ併セ爲スノ行爲ヲ指稱セルモノトス從テ單ニ金錢ノ貸付ノミヲ爲ス行爲ハ銀行取引ト稱スルコトヲ得ス

○商法第二百六十四條第八號ニ所謂銀行取引トハ金錢其他有價證券ノ轉換ヲ媒介スル行爲ヲ指稱スルモノナレハ貸金業者カ自己所有ノ金錢ヲ利益ヲ得テ他ニ貸付クル行爲ハ勿論其貸付資金ヲ他ヨリ流用スルモ單ニ一二特定ノ者ヨリ收受スルニ過キサレ場合ノ如キハ之ヲ銀行取引ト謂フヲ得ス

○貸金業者カ金錢ノ貸付ヲ爲ス場合ト雖モ預金其他ノ方法ニ依リ收受シタル金錢ヲ他人ノ需用ニ供スルカ如キ媒介行爲ヲ爲スニ非サレハ商法第二百六十四條第八號ニ所謂銀行取引ニ該當セサルモノトス

(同業旨)

○金錢ノ貸付ト雖モ媒介行爲タル徵標ナキモノハ銀行取引ニ屬セス  
貸金業者ノ行爲カ商行爲タル銀行取引ニハ利益ヲ得テ貸付クル目的ヲ以テ一面不定多數ノ者ヨリ低利ノ資金ヲ消費寄託又ハ消費貸借ノ方法ニ依リ收受シ他面其收受シタル金錢ヲ他ニ貸付タルコトヲ營業ト爲スモノナルヲ要ス  
貸金營業者カ爲ス金錢貸付ノ行爲ト雖モ預金其他ノ方法ニ依リ收受シタル借方計算ニ屬スル

○金錢ヲ以テ他人ノ需用ニ供スル如キ融通ノ媒介ト爲ルヘキ行爲ニ非サレハ商法第二百六十四條第八號所定ノ銀行取引ニ屬セス

第二百六十五條

第二百六十五條

○製系ノ販賣ヲ營業ト爲シ其營業ノ爲メニ他人ヨリ立替金ノ給付ヲ受ケタル行爲ハ商法施行以後ハ勿論其以前ト雖モ商行爲ニ屬シ其行爲者ハ商人ノ資格ヲ有シタルモノトス

○商法施行前ニ於テハ何如ナル行爲カ商行爲ナルヤニ付キ特別ノ法規存セザリシト雖モ商人カ營業ノ爲メニスル行爲ノ商行爲タルコトハ當然ノ條理ナリトス

○商法第二百六十五條ニ所謂商人カ其營業ノ爲メニスル行爲トハ商人カ其營業ノ爲メニ外部トノ關係ニ於テ爲ス所ノ行爲ヲ指稱ス故ニ共同商業者間ニ於テ共同營業ニ關スル内部關係ヲ定ムル契約ノ如キハ之ニ包含セス

○雜貨販賣業ヲ營ム者ニ對シ其營業資金トシテ貸金ヲ供給シタルトキハ其行爲ハ商法第二百六十五條第一項ノ商行爲ニ屬スルモノトス

○會社ノ支配人カ會社ノ爲メニ金錢ヲ借入レタルトキハ縱令其營業ニ金錢ノ貸借ヲ目的トセサル場合ト雖モ反證ナキ限り該行爲ハ會社ノ目的

商法 商行爲 總則

八八三

二

七八三

三元

八八六

三元

一三八

四三

八〇三

四四

一五九



遂行ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノニシテ支配人ノ權限内ニ屬スルモノト認ムルヲ當然トス

四一

一〇八

○金錢ノ貸付ヲ常業トセサル雜貨商人ノ貸付行爲ト雖モ商法第三百六十五條ノ規定ニ依リ營業ノ爲メニスルモノト推定セラルルヲ以テ商行爲タルヘキモノトス

五

一〇六八

○商法第二百六十五條第一項ノ所謂商人ノ附屬的商行爲トハ直接營業ノ爲メニスル行爲ノミナラス營業ニ關聯シ營業ノ維持便益ノ爲メニスル行爲ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス

五

一〇三二

○商人カ金錢ノ消費寄託ヲ受クルカ如キハ其營業ノ爲メニスルヲ以テ通常ト爲スカ故ニ如上ノ行爲アリタル場合ニ於テ其行爲カ營業ノ爲メニ爲シタルモノト推定スヘキヤ否ヤヲ定ムルニ付キ必スシモ其營業ノ性質種類ヲ問フノ要ナキモノトス

二

一〇九三

○商人ノ行爲ハ苟モ其行爲カ營業ノ爲メニスルコトヲ許ササル性質ノモノニ非サル限り常ニ商行爲タルノ推定ヲ受クルモノトス

四

二七九

○商人カ爲シタル死因贈與若クハ商人カ其家族ヲ被保險者トシテ結ヒタル生命保險契約ノ如キハ商人ノ營業ノ爲メニスルモノト推定スルコト能ハサルモ商人ノ爲シタル金錢貸借ノ如キハ然ラサルモノトス

四

二七九

○商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定スヘキ規定ハ會社ニ付テハ其權利能力ノ定マリタル後ニ適用スヘキモノニシテ會社ノ目的遂行ノ爲メニ必要ナルヤ否ヤヲ定ムルニ付キ適用スヘキモノニ非ス

三

四三〇

○商法第二百六十五條第二項ノ規定ハ商人ノ行爲カ其行爲自體ヨリ觀察シテ營業ノ爲メニスルニ非サルコトノ疑ナキ場合ニハ適用ナキモノトス

四

六八一

(同業旨)  
商法第二百六十五條第二項ハ商人ノ行爲ハ如何ナルモノナルヲ問ハス其營業ノ爲メニスルモノト推定ストノ旨趣ニ非スシテ商人ノ行爲カ其營業ノ爲メニスルモノニ非サルコト疑ハシキ場合ニ適用スヘキ規定アリト解スヘキモノトス

四

六八一

○舊商法施行以前ニ在リテモ商人間ニ於ケル金錢ノ消費貸借ノ如キハ反證ナキ限り營業ノ爲メニスルモノト推定スヘキモノトス

四

五八七

○商人甲乙兩者カ商品ノ買入資金トシテ丙者ヨリ金圓ヲ借受テ連帶債務ヲ負擔シタルモ當事者間ノ關係ニ於テ乙者其全部ヲ負擔スヘキモノナル以上甲者カ其債務ヲ辨濟シタルハ即チ乙者ノ事務ヲ管理シタルモノニシテ此行爲ハ反證ナキ限り自己ノ營業ノ爲メニスルモノト推定ス

四

一六八四

ヘク從テ甲者カ乙者ニ對シテ有スル求償權ハ商行爲ニ因リテ生シタル



債權ナリトス

○商人カ他ノ債務ノ目的タル金錢其他ノ物ヲ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタル場合ニ於テ之ニ因リテ成立シタル消費貸借ハ一應其營業ノ爲メニ爲シタルモノト推定スヘク從テ該消費貸借ハ商行爲ニシテ其債權ハ商行爲ニ因リテ生シタルモノナレハ時効ニ關シテハ商法第二百八十五條ヲ適用スヘキモノトス

五

四七六

(第二百六十六條)

『第二百六十六條』

○商法第二百六十六條前段ハ相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知リタルト否トニ拘ハラサル規定ニシテ其後段但書ハ相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサリシトキハ代理人ニ對シテモ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキコトヲ明カニシタルモノトス

三九

七八五

○代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サシテ商行爲ヲ爲シ且其行爲ニ付キ公證人ニ依ル公正證書ヲ作成スルニ當リ自己ヲ囑託人トシテ表示セシメタルトキハ其公正證書ハ公證人法第三十二條及ヒ同第三十六條ノ規定ニ違背シタルニ止マリ之カ爲メニ該行爲ノ無效ヲ惹起スルモノニ非ス

七

八五〇

○會社ノ取締役ハ其代理人ナルヲ以テ會社ノ取締役カ會社ノ爲メニスル

(第二百六十八條)

『第二百六十八條』

○未成年ノ相續人カ前主ノ營業ヲ承繼シテ營業主人ト爲リタル場合ニ於テ商人タル前主ノ選任シタル支配人カ前主ノ死亡後引續キ相續人ノ營業上ノ支配人トシテ爲シタル法律行爲ニ付テハ相續人ノ力責ニ任スヘク其營業ニ關シ法定代理人ノ許可及ヒ親族會ノ同意ナキノ故ヲ以テ之ヲ取消シ得ヘキモノニ非ス

七

八五〇

(第二百七十三條)

『第二百七十三條』

○手形ニ振出人數名アルトキハ其一人ニ爲シタル呈示ハ總テノ振出人ニ對シテ效力ヲ生スルモノトス  
○共同運送業者カ船舶所有者ニ對シ備船料ヲ支拂フ義務ヲ負擔セル場合ニ於テ其立替支拂ヲ他人ニ委任スルハ即チ商行爲ニ外ナラサレハ受任者ニ對シ各自連帶シテ償還ノ義務ヲ負擔スヘキモノトス  
○商法第二百七十三條第一項ノ規定ハ其債務ノ發生カ債務者ノ中孰レカ一人ノ爲メニ商行爲タル場合ニ限り連帶債務ヲ生スルコトヲ規定シタルモノニシテ債權者ノ爲メニノミ商行爲タル場合ヲ包含セサルモノトス

三七

一五五七

四二

四六



ス  
(同主旨)

○商法第二百七十三條第一項ハ數人ノ共ニ負擔セル債務ノ因リテ生シタル行為カ其一人又ハ全員ノ爲メニ商行為タル場合ノ規定ナレハ其行為カ全員ハ勿論一人ノ爲メニモ商行為タラサル下キハ縱令相手方ノ爲メニハ商行為タルトキト雖モ之ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

○商法第二百七十三條ニ從ヒ商人ト商人ニ非サル者ト連帶債務ヲ負擔セルトキト雖モ其各債務ハ獨立スルモノナレハ一ハ商事債務トシテ商法施行法第一百七條ニ依リ利息制限法第五條ノ適用ヲ除外サルヘキモ他ハ民事債務トシテ其適用ヲ受クヘキモノトス

○手形ノ共同振出行爲ハ振出人總員ノ爲メ商行為ナルヲ以テ約束手形ノ共同振出人ハ連帶債務ヲ負擔スヘキモノナレハ其一人ト受取人トノ間ニ手形ノ書換ニ因リテ更改ノ行ハレタルトキハ民法第四百三十五條ニ依リ連帶總債務者ノ利益ノ爲メ效力ヲ生シ舊手形債務ハ他ノ共同振出人ニ對シテモ消滅スルモノトス

○商法第二百七十三條第二項ノ規定ハ數人ノ保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ商行為ニ因リテ生シタルトキ又ハ保證自體カ商行為ナルトキハ各保證人ヲシテ主タル債務者ト連帶スルト同時ニ保證人相

互ノ間ニモ連帶シテ債務ヲ負擔セシムル旨趣ヲ包含スルモノトス

(第二百七十六條)

○債務カ共同海損ノ分擔額ナルトキハ其利息ハ商法第二百七十六條所定ノ利率ニ依リテ之ヲ計算スヘキモノトス

○商法第二百七十六條ニ所謂商行為ニ因リテ生シタル債務ハ管ニ商行為ノ效力トシテ生シタル債務ノミナラス一旦有效ニ成立シタル商行為カ解除ニ因リ其效力ヲ失ヒタルカ爲メニ生シタル原狀回復ノ義務ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス

(第二百七十七條)

○商行為ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ民法第三百四十九條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス故ニ設定行為ニ於テ法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ特約シタルトキハ其特約ハ有效ナリ

(第二百七十九條)

○商法第二百七十九條ノ規定ハ指圖債權又ハ無記名債權ニ付テハ民法第四百十二條第一項ノ適用ナキ旨ヲ明カニシタルモノニ過キスシテ訴訟ニ於ケル付遲滯ノ準則ヲ示シタルモノニ非ス

四	三七	四	三七	四	三七	四	三七	四	三七
三〇	二八七	三〇	二八七	三〇	二八七	三〇	二八七	三〇	二八七
一〇四	一五五	一〇四	一五五	一〇四	一五五	一〇四	一五五	一〇四	一五五
一〇四	一五五	一〇四	一五五	一〇四	一五五	一〇四	一五五	一〇四	一五五







○商法第二百八十二條ニ於テ第四百四十一條ノ規定ヲ有價證券ニ準用スルハ證券ノ占有權ノ取得ニ重キヲ措キ其占有權取得力所有權取得ノ爲メナルト質權取得ノ爲メナルトヲ問ハス準用スルノ法意ナリトス

○商法第二百八十二條所定ノ證券カ無記名式ナルトキト雖モ當然同第四百四十一條ノ規定ヲ適用スヘク動産ノ占有ニ關スル民法第九十二條

○第九十三條ヲ適用スヘキモノニ非ス  
(參照) 商法第二百五十八條ノイ  
證券裏書ニ關スル商法第二百八十二條第四百五十七條及七明治三十三年法律第十七號ハ證券ノ流通ヲ圓滑ナラシムル爲メ設ケタルモノニシテ專ラ公益ヲ圖リタル規定ナリトス  
證券ヲ讓渡スルニ當リ讓渡人ニ於テ裏書讓渡欄内ニ捺印ノミヲ爲シ氏名ノ記入ヲ讓受人ニ委任シタルトキハ讓受人ハ委任ノ旨趣ニ從ヒ讓渡欄内ニ讓渡人ノ氏名ヲ記入シ裏書ニ關スル商法及七明治三十三年法律第十七號所定ノ形式ヲ完備セシムルニ非サレハ其證券ノ裏書讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

(參照)

○債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ本來ノ債權カ其形態ヲ變シタルニ過キスシテ別箇ノ債權ヲ成ヘモノニ非ス故ニ本來ノ債權カ商行爲ニ因リテ發生シタルモノナルトキハ其不履行ニ因ル損害賠償ノ請求權モ亦然ラサルヲ得ス

第二百八十五條

第二百八十五條

○明治二十六年舊商法ノ一部施行後請負工事ヲ營業トスル商人カ鐵道築堤工事ノ請負ニ付キ他人ト當座組合契約ヲ締結シタルトキハ其契約ハ商事ニ屬スルヲ以テ該組合關係ニ基ク債權ハ商行爲ニ因リテ生シタルモノニ外ナラス故ニ明治三十一年舊商法施行後ハ其第三百四十九條ニ依リ同法施行ノ日ヨリ時効ノ適用ヲ受ケ尙ホ商法施行法第三百三十七條及七現行商法第二百八十五條ニ從ヒテ時効ニ罹ルモノトス

○商法第二百八十五條ノ規定ハ債權者ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權ノミナラス債務者ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權ニ付テモ同法第三條ニ依リ當事者雙方ニ適用サルヘキモノトス

(同主旨) 或行爲カ債務者ノ爲メニ商行爲ナル以上ハ債權者ノ爲メニ商行爲ナラサルトキト雖モ因テ生シタル債權ハ商行爲ニ因リテ生セシ債權タルコトヲ妨ケス

○株式ノ引受ハ會社設立ノ場合ニ於ケルモノナルト資本増加ノ爲メニスル新株發行ノ場合ニ於ケルモノナルトハ問ハス商行爲ニ非サルカ故ニ株主拂込義務ニ對スル債權ハ商法第二百八十五條ノ短期時効ニ服スヘキモノニ非ス

○新株發行ノ場合ニ於ケルモノナルトハ問ハス商行爲ニ非サルカ故ニ株主拂込義務ニ對スル債權ハ商法第二百八十五條ノ短期時効ニ服スヘキモノニ非ス

○新株發行ノ場合ニ於ケルモノナルトハ問ハス商行爲ニ非サルカ故ニ株主拂込義務ニ對スル債權ハ商法第二百八十五條ノ短期時効ニ服スヘキモノニ非ス

○新株發行ノ場合ニ於ケルモノナルトハ問ハス商行爲ニ非サルカ故ニ株主拂込義務ニ對スル債權ハ商法第二百八十五條ノ短期時効ニ服スヘキモノニ非ス

○新株發行ノ場合ニ於ケルモノナルトハ問ハス商行爲ニ非サルカ故ニ株主拂込義務ニ對スル債權ハ商法第二百八十五條ノ短期時効ニ服スヘキモノニ非ス

○新株發行ノ場合ニ於ケルモノナルトハ問ハス商行爲ニ非サルカ故ニ株主拂込義務ニ對スル債權ハ商法第二百八十五條ノ短期時効ニ服スヘキモノニ非ス

○新株發行ノ場合ニ於ケルモノナルトハ問ハス商行爲ニ非サルカ故ニ株主拂込義務ニ對スル債權ハ商法第二百八十五條ノ短期時効ニ服スヘキモノニ非ス

四

一八六

四四

二五九

四

七五

四二

二二九

四一

一三

四二

三二

四三

二二

四三

二二

六

三九二

六

三九二



(同前)

株金拂込ノ義務ハ株式引受ニ因リテ生ズルモノトス而シテ株式ノ引受ハ商行為ニ非ス

四三

九三七

○舊商法施行以前商行為ニ基キ成立シタル債權ニシテ不動産書入公證ヲ受ケタルモノハ現行商法施行ノ日ヨリ五ヶ年ノ時効ニ因リ消滅スヘキモノトス

四

1100

○商人甲乙兩者カ商品ノ買入資金トシテ丙者ヨリ金圓ヲ借受ケテ連帶債務ヲ負擔シタルモ當事者間ノ關係ニ於テ乙者共全部ヲ負擔スヘキモノナル以上甲者カ其債務ヲ辨濟シタルハ即チ乙者ノ事務ヲ管理シタルモノニシテ此行為ハ反證ナキ限リ自己ノ營業ノ爲メニシタルモノト推定スヘク從テ甲者カ乙者ニ對シテ有スル求償權ハ商行為ニ因リテ生シタル債權ナリトス

五

四七六

○商行為ノ解除權ハ純然タル債權ニ非サルモ商法第二百八十五條ニ所謂商行為ニ因リテ生シタル債權ト同視シ五年ノ時効ニ因リテ消滅スルモノト解釋スルヲ相當トス  
○甲乙共同シテ負擔シタル連帶債務ノ因テ生シタル行為カ甲ノ爲メニ商行爲タルモ乙ノ爲メニハ然ラサル場合ニ於ケル時効ニ付テハ甲ニ對シテハ商法ノ規定ヲ適用シ乙ニ對シテハ民法ノ規定ヲ適用スヘキモノト

五

九三六

二百八十八

○ス從テ甲ニ對シ時効完成シ乙ニ對シ未タ完成セサルトキハ乙ハ民法第四百三十九條ニ依リ單ニ甲ノ負擔部分ニ付テノミ其義務ヲ免ルルモノトス

五

二二六四

○解除權カ時効ニ因リ消滅スルハ主トシテ相手方ヲ長年月間權利不行使ノ状態ニ置カサル公益上ノ理由ニ基クモノナレハ法律ノ規定ニ依ル解除權ナルト否トニ由リ其消滅時効ニ差別ヲ設クヘキモノニ非ス

六

一九六五

○一定ノ日時ヲ指定シ其日時ニ於テ一定ノ銘柄限月株數單價ニテ賣買スヘキ委託契約ハ當事者ノ意思表示ニ依リ其一定ノ日時ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルモノナルヲ以テ注文ノ全部履行ナク各其時期ヲ經過シタルトキハ委託者ハ直ニ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘク其解除權ハ之ヲ行使シ得ハ時ヨリ起算シ商法第二百八十五條ノ五年ノ時効ニ因リテ消滅スヘキモノトス

六

一九六五

○消滅時効ハ權利ヲ行使スルコトヲ得ル時ヨリ進行スルヲ以テ通則トシ特別ノ規定アル場合ノ外ハ權利者ニ於テ權利發生ノ事實ヲ覺知スルコトヲ要セサルモノナレハ時効ノ適用ニ付キ債權ト同視スヘキ解除權ハ相手方ノ債務不履行ニ因リテ其權利發生シ解除權者カ之ヲ行使シ得ル以上ハ右債務不履行ノ事實ヲ覺知スルト否トヲ問ハス時効ノ進行ヲ始



○商人カ他ノ債務ノ目的タル金錢其他ノ物ヲ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタル場合ニ於テ之ニ因リテ成立シタル消費貸借ハ一應其營業ノ爲メニ爲シタルモノト推定スヘク從テ該消費貸借ハ商行爲ニシテ其債權ハ商行爲ニ因リテ生シタルモノナレハ時効ニ關シテハ商法第二百八十五條ヲ適用スヘキモノトス

第一章 賣買

○商品ニ關スル損害賠償額ハ特約又ハ特別ノ事情ナケレハ契約ノ價額ト市價トノ差額ヲ以テ標準ト爲スヘキモノナリ

○荷爲替契約ニ於テ荷受人タニ支拂人カ手形ノ引受ヲ爲シタルニ止マリ未タ手形金ノ支拂ヲ了セザル間ハ支拂人ハ所持人ニ對シ手形金支拂ノ債務ヲ負擔スルニ過キササルヲ以テ縱令荷主カ手形ノ割引金ヲ受取人ヨリ受領シタルハトテ支拂人カ荷主ニ對スル賣買代金支拂ノ債務ヲ免ルルモノト云フヲ得ス

第二百八十六條

○商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキ賣主

(第二百八十六條)

カ之ヲ供託シ又ハ競賣スルコトヲ得ルニハ先ツ買主ヲ遲滯ニ付シタルコトヲ必要トス

(第二百八十六條)

○商法第二百八十六條ハ賣主カ適法ノ提供ヲ爲シタルモノト前提トシテ規定セラレタルモノナレハ同條ノ催告ハ即チ競賣ノ前提條件ニシテ之ヲ以テ直ニ民法第四百九十三條ノ所謂受領ハ催告ト同一視スヘキモノニ非ス

○商法第二百八十六條ハ買主カ目的物ヲ引取ラサル場合ニ於テ賣主ニ其供託又ハ競賣ノ權利ヲ認メタルニ過キスシテ之カ爲メ賣買代金ヲ提供シ目物ヲ引取ラサル買主ニ對シ賣買契約ヲ解除シ損害ノ賠償ヲ求ムル權利ヲ賣主ニ認メタル民法ノ規定ノ適用ヲ妨クルモノニ非ス

(第二百八十七條)

○商法第二百八十七條ノ規定ハ當事者ノ一方ニ於テ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルニ拘ハラズ相手方カ直ニ履行ノ請求ヲ爲ササルトキハ契約ヲ解除シタルモノト看做スコトヲ定メタルモノニシテ相手方カ約定ノ時期ニ於テ履行ノ請求ヲ爲シタル場合ハ勿論時期ノ經過後ト雖モ直ニ其請求ヲ爲シタル場合ハ契約ヲ解除シタルモノト看做サザル旨趣ナリトス

商法 商行為 賣買

八九七

四

三九二

六

三三四

四

九九四

四

九九四

六

一九六五

七

一五七〇

三七

一四〇四

二

四二



○一定ノ日時ヲ指定シ其日時ニ於テ一定ノ銘柄限月株數單價ニテ賣買スヘキ委託契約ハ當事者ノ意思表示ニ依リ其一定ノ日時ニ履行ヲ爲スニ非ザレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルモナルヲ以テ注文ノ全部履行ナク各其時期ヲ經過シタルトキハ委託者ハ直ニ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘク其解除權ハ之ヲ行使シ得ル時ヨリ起算シ商法第二百八十五條ノ五年ノ時効ニ因リテ消滅スヘキモノトス

○商人間ニ於ケル商品賣買ハ常ニ必スシモ買主カ賣主ヨリ一定ノ履行期間内ニ商品ノ給付ヲ受クルニ非ザレハ賣買ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルモノト謂フヲ得ス

○商人間ニ於ケル米ノ賣買ノ如ク當事者カ轉賣ニ依リ利益ノ取得ヲ目的トスル場合ニ於テモ買主カ賣主ヨリ一定ノ履行期間内ニ其給付ヲ受クルニ非ザレハ賣買ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルカ如キ特別ノ事由存セサル限ハ其賣買契約ノ解除ヲ爲シタル後ニ非ザレハ履行ニ代ルヘキ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

【第二百八十八條】

商法第二百八十八條ハ商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタル上之ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ賣主ニ對シテ之カ通知

ヲ發スルニ非ザレハ其瑕疵ニ基ク契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノニシテ右通知ヲ爲シタル以上ハ其瑕疵カ買受ケタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ナルト否トヲ問ハス買主ニ於テ自由ニ契約ノ解除ヲ爲シ得ヘキモノト云フヲ得ス

○商法第二百八十八條第一項ハ商人間ノ賣買ニ於ケル目的物ノ瑕疵又ハ數量ノ不足ヲ原因トシテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スニハ先ツ検査及ヒ通知ノ手續ヲ爲スコトヲ要スル旨ヲ規定シタルニ止マルヲ以テ其手續ノ外ニ契約解除等ノ權利ヲ行使スルニ必要ナル事項ニ付テハ商法第一條ニ依リテ決スヘキモノトス

○商事賣買ニ付テハ民法第五百七十條ノ規定ト異ナリタル特別ノ法則存セサルヲ以テ商人間ノ賣買ニ於テ買主カ受取リタル物ニ隠レタル瑕疵アルコトヲ原因トスル契約ノ解除ハ右民法ノ規定ニ從ヒ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

○賣買契約書ニ數箇ノ物品ヲ指定シタル場合ト雖モ其全體ヨリ觀察シテ該物品カ一團ト爲リ始メテ完全ナル作用ヲ爲スヘキモノト認メラルル以上其物品中一部ノ欠缺アルコトハ之ヲ以テ商法第二百八十八條ノ所謂瑕疵ト爲スニ妨ナキモノトス

五

三

三

四

一〇四九

一五〇

一四〇

四九五

【第二百八十九條】

○商人間ニ於ケル米ノ賣買ノ如ク當事者カ轉賣ニ依リ利益ノ取得ヲ目的トスル場合ニ於テモ買主カ賣主ヨリ一定ノ履行期間内ニ其給付ヲ受クルニ非ザレハ賣買ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルカ如キ特別ノ事由存セサル限ハ其賣買契約ノ解除ヲ爲シタル後ニ非ザレハ履行ニ代ルヘキ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

【第二百九十條】

商法第二百九十條ハ商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタル上之ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ賣主ニ對シテ之カ通知

四

七

七

六

六六四

六二五

六一五

一九六五



○商法第二百八十八條第一項ハ賣主ニ惡意アル場合ニハ其適用ナキヲ以テ苟モ目的物ニ瑕疵アル以上ハ同項所定ノ要件具備セザリシトキト雖モ賣買ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス

### 第四章 匿名組合

○當事者カ組合事業トシテ米穀取引所ニ於ケル仲買業ヲ其一人ノ名義ヲ以テ營ムトキト雖モ該營業ハ組合員ノ共同事業ニ屬シ當事者ノ一方ノ營業ニ非サルノミナラス各組合員ハ出資ノ義務ヲ有シ營業ニ關スル支出ハ其出資額ニ應シ分擔スル等其他民法ニ定メタル組合員ノ權利義務ニ屬スルモノヲ組合契約ノ約款ヲ以テ定メ仲買營業カ組合事業タルコト及ヒ營業上ノ財産カ組合員ノ共有ニ屬スルコトヲ前提トスルトキハ其組合ハ普通組合ニシテ匿名組合ニ非サルモノトス

〔第三百一一條〕

○單ニ匿名組合契約ヲ解除スルコトト匿名組合ノ解散及ヒ出資金ノ返還ニ關スル契約ヲ取結フコトトハ之ヲ同視スヘキモノニ非ス

### 第五章 仲立營業

○仲立行爲ハ他人間ノ法律行爲ノ成立ヲ媒介スルニ止マルモノニシテ自己ノ名ヲ以テ當事者ノ爲メニ契約ヲ締結シ又ハ代理人トシテ契約ヲ締結スルカ如キハ媒介ト相容レサル觀念ニ屬シ仲立行爲ニ非サルモノトス

〔第三百六條、第三百七條〕

○仲立人カ其媒介ヲ依頼セラレタル行爲ニ付キ當事者ノ一方ヨリ豫メ給付ノ目的物ヲ受領スルコトハ商法ノ認許セサル所ナルヲ以テ其受領行爲ハ仲立人ノ業務上ノ行爲ナリト云フヲ得ス

〔第三百十二條〕

○仲立營業者カ其媒介シタル商行爲ニ付キ商法第三百八條ノ手續ヲ終リタルトキハ茲ニ報酬請求權發生シ媒介行爲ノ後日實行セラルルト否トヲ問ハサルヲ以テ通例トス然レトモ當事者カ特ニ該請求權ノ發生ヲ媒介行爲ノ實行ニ繫ラシメ其實行ナケレハ報酬ヲ請求シ得サルコトヲ約スルハ違法ニ非ス

### 第六章 問屋營業

〔第三百十三條〕

商法 商行爲 問屋營業

四	四	四
八二〇	九七一	一六二四

〔第三百十三條〕

商法 商行爲 問屋營業

三六	六	六
七七五	九二七	二〇四〇







クトキハ豫メ火災等ノ變災ノ惹起スヘキ場合ヲ考慮シ監視人ヲ置クカ  
如キ適當ノ方法ヲ講シテ保管ノ責ヲ盡スニ非サレハ善良ナル管理者ノ  
注意ヲ缺クモノト云ハサルヲ得ス

【第三百二十八條】

○商法第三百二十八條第一項ニ所謂運送取扱人ノ責任トハ商法上特ニ運  
送取扱人タル資格ヨリ生スル損害賠償ノ責任ヲ總括的ニ指稱セルモノ  
トス而シテ此規定ハ運送人ニ準用セラルルヲ以テ運送人ハ其資格ニ基  
ク賠償責任ノミニ付キ同條ノ消滅時效ヲ援用スルコトヲ得

○商法第三百二十八條ニ所謂荷受人トハ運送品ノ受取人即チ運送契約成  
立シタル場合ノ荷受人ヲモ指稱スルモノトス

○商法第三百二十八條第二項ハ運送貨物ノ全部滅失シタル場合ニ適用ス  
ヘキ規定ニシテ運送會社カ荷受人ニ貨物引換證ヲ交付シ後更ニ他ノ引  
換證ヲ作成シテ他人ニ貨物ヲ引渡シ質權者ニ損害ヲ加ヘタル如キ場合  
ニ適用スヘキ規定ニ非ス

第八章 運送營業

○一定ノ報酬即チ所謂賃金ヲ以テ旅客又ハ貨物ノ輸送ヲ目的トスル事業

ハ私法上其經營者ト相手方トノ間ニ一ノ運送契約ヲ成立セシメ財産上  
利益ノ取得ヲ目的トスル營利事業ニシテ其經營者ノ私人ナルト公法人  
タル國家其他ノ公共團體ナルトニ依リ差異アルモノニ非ス

○運送事業ハ其遂行ノ手段トシテ軌道車輛其他ノ機械器具ノ使用ヲ必要  
トスル場合ト雖モ物ノ使用ヲ目的トスル法律關係ニ非スシテ人又ハ物  
ヲ輸送スル仕事ノ完成ヲ目的トシ運賃ハ即チ之ニ對スル報酬ニ外ナラ  
ス從テ縱令公法人カ乗客ノ輸送ニ使用スル軌道ニシテ其營造物ナリト  
スルモ乗客ノ支拂フ乘車賃ハ營造物ノ使用料ニ非サルモノトス

第一節 物品運送

○債務者カ運送貨物ノ取扱ニ關シ將來負擔スルコトアルヘキ債務ヲ確保  
スル爲メ運送人ニ保證金ヲ納付シタル場合ニハ其貨物取扱ニ關スル契  
約終了後運送人ニ對シテ債務ヲ負擔スルコトナキ事實確定セサレハ之  
カ返還ヲ請求シ得サルモノトス從テ債權者ハ縱令此債權ヲ差押ヘ且轉  
付命令ヲ受クルモ運送人ニ對シテ直ニ保證金ノ支拂ヲ要ムルコトヲ得  
ス

○運送人カ運送品ヲ荷受人ニ引渡シ運送ヲ結了スルニハ一ニ運送契約ノ  
旨趣ニ服從セサルヘカラス故ニ該契約ニシテ運送品カ到達地ニ達シタ

三九	六	六	六
一五三	三五	三六	三六

三五	五	三九	五
二	四七	四九	四七







〔第三百三十七條〕

○運送株式會社カ發付スル貨物引換證ニハ其代表者ニ於テ署名スルコトヲ要ス故ニ株式會社ノ記名アルノミニシテ其代表者ノ署名ナキモノハ引換證タルノ效力ヲ有セス

三九  
九九九

○貨物引換證ニ記載スヘキ要件トシテ規定セラレタル事項ハ必要アル場合ニ於テハ縱令其一項タリトモ之ヲ具備セサレハ該證券ハ效力ヲ有セサルモノトス故ニ貨物引換證ニ記載スヘキ運送貨支拂濟ノ場合ハ格別其未拂ナル場合ニ於テハ必スシモ其數額ヲ明示スルコトヲ要セスト雖モ之ヲ算定スルニ足ルヘキ標準ヲ知り得ル程度ニ記載セサルヘカラス

三七  
七六三

○貨物引換證ニ運送貨ヲ記載セサルヘカラサル必要アル場合ニ於テハ商法第三百三十三條第二項ノ規定ニ依リ要件トシテ之ヲ記載スヘキハ勿論ニシテ若シ其記載ヲ欠クトキ即チ運送貨先拂トノミ漢然記載シ運送人ト所持人トノ間權義ノ所在ヲ明確ナラシメサルカ如キ場合ニハ其

三七  
八五二

〔友對〕

貨物引換證ニ運送貨ヲ記載セサルヘカラサル必要アル場合ニ於テハ商法第三百三十三條第二項ノ規定ニ依リ要件トシテ之ヲ記載スヘキハ勿論ニシテ若シ其記載ヲ欠クトキ即チ運送貨先拂トノミ漢然記載シ運送人ト所持人トノ間權義ノ所在ヲ明確ナラシメサルカ如キ場合ニハ其

八三

效力ヲ喪フコトアルヘキモ常ニ其記載ヲ必要トスルモノニ非ス

三五  
一〇  
八八

○貨物引換證ノ名宛人ヲ荷送人ト爲スヘキヤ荷受人ト爲スヘキヤハ一ニ荷送人ノ擇ム所ニ從フヘキモノトス

四  
七六四

○荷送人ヲ名宛人トシテ貨物引換證ヲ發行シタルトキハ名宛人ハ即チ荷受人ニシテ其名宛人ノ外ニ荷受人ヲ記載スルモ其記載ハ無用ノ記載ニ過キスシテ貨物引換證ノ效力ヲ消長スルモノニ非ス

四  
七六四

○貨物引換證ニハ商法第三百三十二條第二項第一號ノ各事項ヲ悉ク記載スルコトヲ要ス從テ貨物ノ荷造及ヒ記號アルニ拘ハラス其荷造ノ種類及ヒ記號ヲ記載セサル貨物引換證ハ縱令當業者間ニ之ヲ省畧スル事例アルトキト雖モ其效力ヲ有セサルモノトス

五  
一三四

〔第三百三十五條〕

○改正前ノ商法第三百三十五條ニ所謂運送品ノ讓渡トハ所有權ノ移轉ノミナラス占有ノ移轉ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス

四  
七六四

〔參照〕

〔第三百二十七條〕

○運送取扱人又ハ運送人カ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ其受取ハ勿論到達地ニ於テ指定ノ荷受人ニ之ヲ引渡ス迄ハ保管其他運

九〇九



送ニ關シテ十分ノ注意ヲ加ヘ運送品ニ滅失毀損等ヲ生セサラシムヘキ責任ヲ有ス從テ運送品ニ滅失毀損等ヲ來シタル場合ニ在テハ運送取扱人又ハ運送人ニ於テ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明シタルトキニ限り荷主ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルモノトス

(同三三)

運送者ハ運送貨物ノ滅失又ハ毀損等ニ付テハ充分ナル注意ヲ爲スヘキ責任ヲ有スルモノナルカ故ニ該貨物カ自己ノ過失ニ非スシテ滅失シタルトセハ其事由ヲ證明セサルヘカラス

(三三三)

○運送人カ契約上ノ場所以外ノ地ニ荷物ヲ送付シタルカ爲メ荷受人ニ之ヲ到達セシムルコト能ハサル以上ハ商法第三百三十七條ニ所謂運送品ノ滅失ニ該當スルヲ以テ之ニ因リ荷送人ノ被ムリタル損害ハ運送人ニ於テ賠償ヲ爲スヘキ責任アリトス

○不可抗力トハ或事變ニシテ之ニ遭遇セル者カ自己ノ地位ニ應スル施設ヲ爲スモ其發生及ヒ有害ナル結果ヲ防止シ得サルモノヲ謂フ從テ運送品ノ損害カ不可抗力ニ因ルコトヲ證明シタル以上ハ運送人カ其防禦ノ注意ヲ怠リシ過失ニ因ラサルコトハ自ラ立證セラレタルモノトス

○商法第三百三十七條ハ運送人ノ債務不履行ニ因ル責任ヲ規定シタルモノニシテ多數人ノ行爲ヲ必要トスル運送ニ在テハ一般原則ニ依リ賠償

(三三四)

權利者ニ舉證ノ責任ヲ負擔セシムルトキハ其權利ハ往往有名無實ニ終ルノ虞アルヘキヲ以テ舉證ノ責任ヲ顛倒シ運送人ヲシテ之ヲ負ハシメタルモノトス

(三三三)

○運送品カ稅關ノ保稅倉庫ニ藏置中火災ニ罹リテ滅失シタル場合ト雖モ此一事ニ基キ運送人ニ於テ其滅失ニ因ル損害賠償ノ責ナシト云フヲ得ス

(三三三)

○數人相繼キテ運送ヲ爲スニ當リ荷物カ其到達地ニ達セスシテ荷送人ニ損害ヲ生シ運送人ノ一人カ之ヲ賠償シタル場合ノ求償ニ於テ求償者ニ對シ此者ヨリ後ニ運送ニ從事シタル運送人等ニ連帶責任アリトノ事ハ舊商法及ヒ新商法共ニ之ヲ認メサルト同シク商法施行以前ノ慣例ニ於テモ亦認メラレサル所ナリ

○如上ノ場合ニ於テ損害ヲ賠償シタル運送人ノ一人ハ不法行爲ヲ爲シタル運送人ニ對シ求償權アルノ外其行爲者タラサル他ノ運送人ニ對シテ全部ノ請求權ナシ

○最初ノ運送人ニ次テ運送ノ委託ヲ受ケタル者カ其義務ヲ履行セサルトキハ直接ニ荷送人ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負フモノトス

商法 商行為 運送營業 物品運送

三七	二五八
三六	四一
三七	七三九
四三	八〇七
二	九五六
五	二二〇
三六	九一
三六	九一
三九	九五〇



○商法第三百二十九條ヲ準用スヘキ遞次海上運送ニ於ケル各運送人ノ運送ハ何レモ海上ニ於ケル運送ナルコトヲ要シ運送人中ノ或者ハ海上運送ヲ爲シ或者ハ陸上湖川若クハ港灣ニ於ケル運送ヲ爲シタル場合ノ如キハ同條ヲ準用シテ其運送上ノ責任ヲ定ムハキニ非ス

○商法第三百二十九條ニ所謂相次運送ハ或運送人カ荷送人ヨリ引受ケタル運送ニ付キ他ノ運送人カ荷送人ノ爲メニスル意思ヲ以テ相次テ運送ヲ引受ケル場合ヲ謂フモノニシテ當初ノ運送人カ運送ノ全部ヲ引受ケ後ノ運送人カ當初ノ運送人ノ受託者若クハ下請負人トシテ爲ス運送ヲ包含セス

○相次テ運送ヲ爲シタル第一運送人カ荷送人ニ對シ運送品ノ代金ヲ立替ヘタル場合ニ於テ第二ノ運送人カ右代金ノ取立ヲ爲サスシテ運送品ヲ荷受人ニ引渡シタリトスルモ別段ノ意思表示ナキ限り第一運送人ハ第二運送人ニ對シ當然立替金全部ノ損害賠償ヲ請求スル權利アリト云フコトヲ得ス

【第三百四十條】

○荷物引換證ヲ作リタル場合ニ於テ運送品ノ滅失ヲ原因トシ其損害賠償ヲ請求スルハ獨リ該證券所持者ノミ之ヲ爲シ得ヘキモノニシテ引換證

ヲ所持セサル者ハ荷物ノ所有者タルト將タ荷物ニ付キ危險ヲ負擔スル者タルトヲ問ハス其請求ヲ爲スノ權ナシ

○運送ノ目的タル貨物カ全部滅失シタル場合ニ於テ運送契約ノ義務不履行トシテ運送人ノ賠償スヘキ損害額ハ特定ノ場合ノ外其貨物ノ引渡アルヘカリシ日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

【第三百四十二條】

○商法第三百三十三條第一項ノ規定ニ依リ貨物引換證ノ交付ヲ受ケタル荷送人ハ其證券ノ唯一所持人トシテ運送人ニ對シ同第三百四十二條第一項ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ルモノトス

○荷送人カ商法第三百四十二條ノ規定ニ依リ運送人ニ對シテ運送品返還請求ノ權利ヲ行使スルニ付テハ單ニ運送品返還請求ノ意思ヲ表示スレハ足ルモノニシテ特ニ契約解除ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セス

【第三百四十三條】

○荷物引換證ヲ作リタル場合ニハ之ヲ所持セサル荷受人ハ運送品カ到達地ニ達シタル後ニ於テモ尙ホ荷送人ノ權利ヲ取得セサルモノトス

【第三百四十四條】

○荷受人カ運送契約ニ從ハサルカ又ハ貨物引換證ト引換ニ引渡ヲ請求セ

四

五三

七

一〇七

四

七四

四

一一七

四

五三



第十四條  
第三三四

サル以上ハ運送人ハ運送品ノ引渡ヲ拒絕シ得ルモノニシテ又之ヲ拒絕スヘキコトハ荷送人若クハ貨物引換證ノ所持人ニ對スル運送人ノ責任ナリトス

第三百四十九條

【第三百四十九條】

○數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ第一運送人ト荷送人トノ間ニ締結シタル運送契約ハ第二以下ノ運送人ニ對シテモ當然其效力ヲ生スルモノトス故ニ其運送ヲ引受ケタル第二以下ノ運送人ハ該運送契約ノ條項ニ從ヒ直接ニ荷送人又ハ荷受人ニ對シ運送賃支拂ノ請求其他運送人ノ權利ヲ行使スルコトヲ得

第二節 旅客運送

第十二條  
第三三四

○東京市ト乗客トノ間ニ成立スル運送契約主要ノ條件ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケタルモノニ歸一確定シ當事者間ニ於ケル箇別的契約ヲ以テ之ヲ動カスコトヲ得サルヲ以テ後ニ至リ運送條件カ監督官廳ノ認可ヲ經テ變更セラレタル場合ニ於テハ乗客ハ變更セラレタル條件ニ從ヒ乗車ヲ爲スコトヲ得ルニ止マリ既得ノ權利ヲ主張シ變更前ノ運送條件ニ從ヒ其輸送ヲ爲スヘキコトヲ市ニ對シ要求スルコトヲ得サルモノトス

○東京市内ニ於ケル電車ノ運送條件及ヒ乗車賃ハ一定シ當事者ノ意思ヲ

第十條  
第三三五

以テ動カスコトヲ得サルト同時ニ何人ト雖モ乗車當時ニ定マレル運送條件及ヒ乗車賃ヲ以テ乗車ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ市ト乗客トノ間ニ於ケル乗車契約ハ乗車ノ時ヲ以テ成立スルモノニシテ市ハ其當時ニ於テ實施セラレル運送條件ニ從ヒ乗客ヲ運送スル私法上ノ義務ヲ負擔シ乗客モ亦其當ルノ賃金率ニ從ヒ乗車賃ヲ支拂フ義務アルモノトス

第三百五十條

【第三百五十條】

○不法行爲ヲ原因トシテ運送人ニ對シ損害ノ賠償ヲ請求スル場合ニハ商法第三百五十條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○運送人カ旅客運送中自己又ハ使用人ノ過失ニ因リ旅客ニ創傷ヲ與ヘタ

六

六

六

六二九

三三五

三三

七

七

六

三九九

三七

三五



ルトキハ完全ニ其契約上ノ義務ヲ履行セルモノト云フヲ得サレハ之カ爲メニ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任ヲ負フヘキモノトス

### 第九章 寄託

#### 第二節 倉庫營業

○質入證券ヲ裏書スルト同時ニ白地ノ儘預證券ヲ交付シ以テ民法上ノ質權ヲ設定スルカ如キハ法律ノ許ササル所ナリ

〔第三百五十九條〕

○商法第三百五十八條以下ノ規定ニ基ク質入證券ハ其證券自體ニ於テ同法第三百五十九條ノ要件ヲ具備セサルヘカラス故ニ他ノ事物ヲ以テ其要件ヲ證明シ若クハ他ノ比例ヲ採テ其要件ヲ推定スルカ如キハ性質上之ヲ許サス

○商法第三百五十九條ノ預證券及ヒ質入證券ノ作成ニ要スル倉庫營業者ノ署名ハ其氏名ヲ自署スルコトニノミ限定セルモノニ非スシテ自己ノ商號ヲ記載スルモ亦此要件ヲ具備スルモノトス  
○倉庫營業者カ預證券及ヒ質入證券ニ目的物ノ性狀ニ關スル記載ヲ爲スニ當リテハ普通一般ノ用語ニ從フコトヲ本則トスルモ證券ヲ發行シタ

ル地方ニ於テ取引上ノ慣例アル場合ニハ其慣用ノ文例ニ依ルコトヲ妨ケス

〔第三百六十五條〕

〔第三百六十六條〕

(參照)

債務者カ民法上ノ預證券等ニ裏書ヲ爲シ之ヲ讓渡シタルトキハ縱令其讓渡ハ虛偽ナルニモセヨ其裏書ヲ取消スニ非サレハ債權者ニ於テ之ヲ處分スルヲ得サルニ付キ其裏書ハ所謂詐害行爲ニシテ民法第四百二十四條ニ依リ之ヲ取消ヲ求メ得ヘキモノトス  
商法第三百六十五條同第三百三十五條ニ規定シタル裏書ノ效力ハ適法ノ裏書ニ非サレハ之ヲ有セサルコト勿論ナルヲ以テ預證券及ヒ質入證券ノ讓渡關ニ裏書人ノ捺印ノミアリテ記名ナキトキハ裏書ノ效力ヲ生セス

#### 〔第三百七十九條〕

○倉庫營業者カ贓品ヲ預リ適法ノ預證券ヲ發行シタル場合ニ其預證券カ刑事被告人ノ手ヲ離レサル前即チ第三者ニ讓渡セシレサル以前ニ於テハ裁判所ハ私訴被告人タル刑事被告人ヲシテ預證券ヲ提出セシメ之ト

商法 商行爲 寄託 倉庫營業

〔第三百七十九條〕

(刑)

○倉庫營業者カ贓品ヲ預リ適法ノ預證券ヲ發行シタル場合ニ其預證券カ刑事被告人ノ手ヲ離レサル前即チ第三者ニ讓渡セシレサル以前ニ於テハ裁判所ハ私訴被告人タル刑事被告人ヲシテ預證券ヲ提出セシメ之ト

商法 商行爲 寄託 倉庫營業

五	四
五	三九五
三七	三三六
五	四三一

五	四三九
五	四三九
三	四三九
四一	一〇一七